
ごちゃまぜ逃走中～闇に狙われたテーマパーク～

リリカルショーバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ごちゃまぜ逃走中〜闇に狙われたテーマパーク〜

【Nコード】

N7062P

【作者名】

リリカルシヨーバイ

【あらすじ】

舞台は深夜営業のとある遊園地。

遊園地を我が物にしようとする目論む闇の団体・・・彼らが巻き起こす様々な事件に31人の逃走者が巻きこまれていく！

果たして、ハンターから180分間逃げ切り、賞金を獲得する逃走者は現れるのか！？

逃走者紹介（前書き）

M e r r y C h r i s t m a s !

と言う事で、「公開してもいい」という意見が多かった為、公開に至りました！

31人の逃走者の全貌を明らかにします！

それでは、どうぞ！

逃走者紹介

初参戦の方々

ぷよぷよ（魔導物語）

魔法の使用は禁止

アミテイ

ぷよぷよシリーズの現在の主人公の1人
明るい性格で、運は強い
しかし、運動量はいまひとつ

シグ

ぷよぷよシリーズの現在の主人公の1人
のんびりとしていて、足はとても遅い
自首に走りやすい

ラフィーナ

ぷよぷよシリーズの現在の主人公の1人
勝ち気が強く、走っても速い
逃げ切りに絶対の自信を持つ

クルーク

ずば抜けた思考能力を持ち、作戦を立てながら逃げる
しかし、ミッションは他人任せの傾向が強い
走りにもあまり期待できず、自首する可能性が高い

リデル

兎に角内気な性格で、目立つ事が苦手
故に、ミッションには参加しないつもり
走らずに隠れ続ける作戦で逃げ切りを狙う

フェーリ

意外と負けず嫌い
しかし、走りはかなり遅い方
協力性のミッションには参加したくないらしい

レムレス

身体能力は非常に高く、足は結構速い
しかし、ミッションには消極的
多くの人から「変な人」と言われがち

アルル・ナジャ

主人公の座から降格した魔導師の卵
責任感が強く、ミッションは必ず成し遂げようとする
運動量も半端じゃない

シエゾ・ウィグイイ

通称「変態魔導師」の闇の魔導師
かなりの面倒臭がり屋で、ミッションには非協力的
だが、潜在能力はずば抜けて高い

ルルー

自他共に認める格闘女王
鍛え抜かれた身体を持ち、走りはかなり速い
逃げ切りには絶対の自信を持つ

ウィッチ

半人前の魔法使い

魔法を使えない事に、少々不満を抱く

走りに自信が無い上、運氣もそれほど無い

ドラコケンタウロス

自称「美少女」の半人半竜の少女

筋肉質な身体の為、足は速い

威勢が良く、何事にも怖気付かない

魔法少女リリカルなのはStrikers

魔法の使用及び変身は禁止

高町なのは

誰もが認めるエース・オブ・エースの魔導師

身体能力が高く、走りも速い

ミッションにも積極的に参加する

フェイト・T・ハラオウン

なのはと並ぶ力を誇る魔導師

走りも速く、ミッションの参加意識もある

しかし、少しだけ運に見放されている

八神はやて

参加者の中では最強の魔導師

人を思いやる気持치가強い

しかし、あまり運動してない為、足はそれほど速くない

スバル・ナカジマ

負けん気の強い少女

ミッシオンには絶対参加するつもり

前回逃げ切った「夏木りん」を目標としている

ティアナ・ランスター

スバル同様、かなり負けん気が強い

しかし、職場いじめ（？）が原因で人間不信に陥っている
故に、ミッシオンへの参加意向は無い

エリオ・モンディアル

最年少の魔導師

かなり怖がりだが、積極的に動く

しかし若過ぎるせいか、足にはあまり期待できない

キャロ・ル・ルシエ

エリオ同様、最年少の魔導師

かなり臆病ではあるが、積極性がある

しかし、足には全く自信が無い

ハートキャッチプリキュア

月影ゆり

初の高校生プリキュアの少女

身体能力はかなり高く、足も速い

洞察力も高く、作戦を立てながら逃げる

スイートプリキュア

北条 響

スポーツ万能な少女

負けん気も強く、ポスト夏木りんと言われている
最後まで逃げ切る自信あり

南野 奏

頭脳明晰な少女

アイドル的存在でもあり、ポスト雪城ほのかと言われている
足に自信は無いが、逃げ切る自信あり

再参戦の方々

大乱闘スマッシュブラザーズ

マリオ

全てにおいて平均的な配管工の双子の兄
前は、ファルコンに巻き添えを食らい、9人目に確保された
リベンジに燃える

ワリオ

マリオの永遠のライバル
前は、ハンターと鉢合わせになり5人目に確保された

足の遅さは健在

トゥーンリンク

小柄な勇者

前回は、何にも活躍できずに6人目に確保された
前回の反省を活かし、今回は積極的に動く

リュカ

かなり臆病な超能力少年

前回は、自業自得という形で、8人目に確保された
相変わらず、ハンターにはビビりまくり

ピット

パルテナの親衛隊長

前回は、オープニングゲームで餌食となり、史上初の確保者となっ
てしまった

今回こそ、俊敏性を遺憾無く発揮したいと思っている

レッド（ポケモントレーナー）

ポケモンを操る少年

前回は、4分も経たずに、2人目に確保された
トレーニングを積み重ねたものの、足の遅さは相変わらず

プリキュアシリーズ

九条ひかり

前回ミッションに貢献するも、11人目で確保された
今回も全てのミッションに参加する意思がある

初の逃げ切りを狙う

美々野くるみ

前回崇りと言う形で、残り21分に確保された
ハンターにビビりまくりだが、前回の立ち回りを反省し、活躍を誓う
が、機動六課の7人の事は「史上最底の偽善者」とこっ酷く嫌っている

東 せつな

前回何も活躍する事無く、4人目に確保された
足は速いが、ビビリである事は変わらない
前回よりは長く生き残りたいと思っている

逃走者紹介（後書き）

私は、ぷよぷよの画のタッチは「SS魔導物語」が1番好きです
「フイーバー」以降のは、子供の落書きみたいで、ハッキリ言っ
て好きじゃありません・・・と言うか嫌いです

本編の公開は、来年の逃走中の放送後を予定しています

それでは皆さん、良いお年を！

オープニングゲーム（1）（前書き）

遅ればせながら、新年明けましておめでとございます！

2011年もどうぞ宜しくお願い致します！

と言う訳で・・・「公開してもいい」という意見が多かったので、公開に至りました。

新春最初の投稿です。

それではどうぞ！

オープニングゲーム(1)

謎の存在の目の前にある4つの映像・・・

U N I V E R S I T Y C A M P U S
P O R T T O W N
A M U S E M E N T P A R K
K I N G D O M

謎の存在「・・・」

彼はその中の「AMUSEMENT PARK」をタッチした・・・

多くの客で賑わう深夜の遊園地・・・

そこに、31人の逃走者が集められた・・・

彼等の視線の先には、近未来的なボックスに収納された4体のハンターの姿が・・・

彼等はこれから、緊迫のオープニングゲームに挑む・・・

ハンターまでは30m・・・60マスで区切られている。

逃走者は1人ずつ前に進み、鎖を引き抜かなくてはならない。

> i 1 5 8 1 0 — 2 0 9 6 <

鎖には、1から5までの数字が書かれた物が5本ずつあり、引いた数字に応じてハンターボックスがオープニングゲーム装置と共に前進。

全員で協力し、51マス以上進められれば、ハンター放出まで1分間の猶予が与えられる。

但し、残りの5本はハズレの鎖であり、これを引いた瞬間4体のハンターが目の前の逃走者に襲い掛かる。

アミティ「はい！14番！」

ルルー「24番・・・多分回ってこないと思うけど・・・」

くるみ「これ！7番！全部で31人だから、結構いい方だと思うけど・・・」

奏「2番・・・！ええ・・・？ハズレ引いたら、確実に捕まる・・・！」

ワリオ「おっ！30番だ・・・絶対回ってこない・・・！今日のワ

シは運がいいぞ!」

マリオ「ほっ! 28番か・・・」

はやて「17番!? うわぁ、微妙やな〜・・・」

ティアナ「最悪・・・11番だ・・・絶対ハズレ引くって・・・」

鎖を引く順番は、くじ引きにより決まる。全ては運任せだ・・・

1人目は・・・ウィッチ

過去のぷよぷよで、度々登場した見習い魔法使い。その性分はいかに・・・

ドラコ「ウィッチ何色?」

リユカ「何色にするの?」

ウィッチ「当然・・・青!」

響「何で? 何で当然なの?」

ウィッチ「青色の服を着てるからですわ」

アルル「ボク青狙ってたのに・・・」

ウィッチ「行きますわよ！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

ウィッチ「せーの・・・」

ジャラッ！

シーン・・・

ウィッチ クリア

スバル「何番？」

ひかり「数字は何ですか？」

ウィッチ「えつと・・・3ですわ」

引いた数字は3・・・ハンターボックス3マス前進・・・

鎖を引き抜いた逃走者は、スタート地点から10m後ろの場所で、ハズレが引かれるかクリアするまで待機する。

ウィッチ「誰がハズレを引くのか楽しみですわ・・・」

残る鎖は29本・・・クリアまで残り48マス

2人目は・・・南野 奏

今年新しいプリキュアとして活躍が期待される少女。その運が試される・・・

トウーン「何色？何色？」

奏「白を引きます！」

ラフィーナ「白は危ないでしょ！？」

ピット「何で白？」

奏「大丈夫な感じがするから」

シェゾ「あれ絶対ハズレだ・・・！」

なのは「逃げる準備しとこう・・・」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

奏「行きます！」

ジャラッ！

シーン・・・

南野 奏 クリア

キャロ「何番引きました？」

奏「えっと・・・あつ、結構いいかも・・・！4です！」

引いた数字は4・・・ハンターボックス4マス前進・・・

残る鎖は28本・・・クリアまで残り44マス

3人目は・・・九条ひかり

フェイト「ひかり何色？」

ひかり「これにします！鈍色^{にび}！」

レッド「何でまた、そんな訳の分からない色を・・・」

ひかり「黒より明るいい色なんで、多分大丈夫かなと」

エリオ「ひかりさん、何か良く分かんないけど引きそう・・・」

リデル「こ・・・怖いです・・・」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

ひかり「行きます!」

ジャラッ!

シーン・・・

九条ひかり クリア

シグ「何番?」

フェーリ「勿体^{もったい}振らないで、早く言いなさいよ!」

ひかり「一寸待って下さい・・・! えっと・・・あっ! すごい数字です・・・! 5!」

引いた数字は5・・・ハンターボックス5マス前進・・・

はやて「結構近付いてきよったな・・・」

レムレス「3人終わって12マス前進か・・・」

ゆり「放出する前に、無事にクリアできるかしら・・・?」

残る鎖は27本・・・クリアまで残り39マス

4人目は・・・クルーク

マリオ「あいつ絶対引くな」

ワリオ「間違いない・・・！引く・・・！」

せつな「運無さそうなものね・・・」

ラフィーナ「ところで、何色引くの？」

クルーク「カーキ！色的にもこれはハズレじゃない！」

フェイト「断言しちゃった・・・」

ドラコ「その言葉、裏切ってくれ・・・！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

クルーク「せーの・・・」

ジャラッ！

シーン・・・

クルーク クリア

クルーク「まっ、当然だね！」

なのは「で、数字は？」

クルーク「数字は・・・ええっ!?!?い・・・1!?!?」

ルルー「1つてどういう事よ!?!?」

レッド「全然進んでないじゃん!」

ティアナ「こんな所でいい流れを止めないでよ!」

せつな「そういう事も少しは考えなさいよ!」

クルーク「ボクにそんな事言っただけ・・・」

引いた数字は1・・・ハンターボックス1マス前進・・・

残る鎖は26本・・・クリアまで残り38マス

5人目は・・・キャロ・ル・ルシエ

史上最年少で逃走中に参加となった魔導師・・・このオープニング
ゲームにどう挑むのか・・・

エリオ「キャロ何色？」

トウーン「早く決めて!」

キャロ「それじゃ・・・ピンクを!」

はやて「何でや?」

響「どうして？」

キャロ「優しい感じの色なんで・・・」

レッド「『自分の色だから』じゃないんだ・・・」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

キャロ「引きます！」

ジャラッ！

シーン・・・

キャロ・ル・ルシエ クリア

スバル「何番引いた？」

キャロ「えっと・・・嘘！？また1です・・・！」

マリオ「おい！」

シェゾ「こんな所にいつまでもいたくねえんだ、俺は！」

キャロ「・・・ゴメンなさい・・・！」

引いた数字は1・・・ハンターボックス1マス前進・・・

残る鎖は25本・・・クリアまで残り37マス

この後、6人目・シグが紺色を引いてクリア。引いた数字は4・・・

7人目・美々野くるみが黄緑を引いてクリア。引いた数字は2・・・

8人目・ドラコケンタウロスが緑を引いてクリア。引いた数字は1・・・

9人目・フェーリが黄土色を引いてクリア。引いた数字は2・・・

10人目・月影ゆりが青紫を引いてクリア。引いた数字は5・・・

続々と抜けていく中、11人目・ティアナ・ランスターが黄色を引いてクリア。引いた数字は3・・・

12人目・トゥーンリンクが青緑を引いてクリア。引いた数字は4・・・

13人目・スバル・ナカジマが小豆色を引いてクリア。引いた数字は2・・・

14人目・アミティが赤を引いてクリア。引いた数字は3・・・

これで、ハンターまでは僅か10m。

ハズレを引けば、ハンター放出と同時に確保されてしまう危険が非常に高い。

残る鎖は16本・・・クリアまで残り11マス

ハズレの確率は16分の5・・・

オープニングゲーム（１）（後書き）

次回、ゲームが本格的にスタート！

オープニングゲームでハンターの餌食となってしまう哀れな逃走者は！？

初めて挿絵を入れてみましたが、どうでしょうか？

あと「鎖が１人分足りないじゃん」というツツコミは無しでお願いします。

というか、「１人分少ない」事が今後のゲームに影響してきます。

オープニングゲーム(2) (前書き)

遂に、180分のゲームがスタートする！

このオープニングゲームでハンターの餌食となる哀れな逃走者は誰なのか！？

因みに逃走者には、これまで同様、一緒にいる筈のスタッフはいないという設定です。誰かに話し掛けている様な台詞は、独り言だと思ってください。

オープニングゲーム(2)

残る鎖は16本

> i 1 6 3 5 9 — 2 0 9 6 <

15人目は・・・アルル・ナジャ

過去のぷよぷよの主人公として活躍した魔導師の卵。恐怖のゲームに挑む・・・

ルル「もうそろそろ引く頃じゃない・・・？」

フェイト「かなり確率高くなってるしね・・・」

ピット「何色にするの？」

アルル「青引かれちゃったからな・・・じゃあ・・・エメラルド！」

ワリオ「そんな色あるのかよ・・・」

リデル「き・・・危険な臭いが・・・」

アルル「引くよ！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

アルル「せーの・・・」

ジャラッ！

シーン・・・

アルル・ナジャ クリア

シェゾ「嘘だろ？絶対ハズレだと思ってたのに・・・！」

はやて「いくつや？」

アルル「ん・・・？えっ・・・！2だ・・・」

マリオ「2つて・・・！殆ど進ほんんでないじゃん・・・！」

なのは「まあ、しょうがないよ・・・大きな数字が結構引かれちゃったし・・・」

引いた数字は2・・・ハンターボックス2マス前進・・・

残る鎖は15本・・・クリアまで残り9マス

16人目は・・・リユカ

エリオ「もう引いてくれ」

ラフィーナ「もうこれで絶対ハズレ引く筈よ」

せつな「何色？」

リュカ「怖いな．．．それじゃあ．．．銅！」

レッド「銅？何で金とか銀じゃなくて銅？」

リュカ「何となく．．．ボクの勘」

レムレス「あの子、勘が冴えなさそうだな．．．」

マリオ「逃げる準備しといたほうがいいな、絶対．．．」

クリアか．．．？ ハンター放出か．．．？

リュカ「それじゃ．．．引くよ！」

ジャラッ！

シーン．．．

リュカ クリア

シェゾ「おい．．．！まだ出ねえのかよ．．．！？」

ワリオ「ワシ・・・嫌な予感しかないぞ・・・！」

ラフィーナ「・・・で、いくつなの？」

リュカ「えつとね・・・うわぁゝ嘘だ！1じゃん・・・！」

響「また1！？なんかさ、違う意味でくじ運無いつていうか・・・！」

せつな「クリア出来るか、不安になってきたわ・・・」

引いた数字は1・・・ハンターボックス1マス前進・・・

残る鎖は14本・・・クリアまで残り8マス

17人目は・・・八神はやて

マリオ「ハズレ引いてくれ！運無し女！」

はやて「誰が運無しや！」

リデル「な・・・何色を引かれますか・・・？」

はやて「せやなゝ・・・」

響「ホントに直感でいいですよ」

はやて「それやったら・・・これ引くわ・・・オレンジ！」

ピット「ここに來てのオレンジか・・・」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

はやて「行くで！」

ジャラッ！

シーン・・・

八神はやて クリア

シェゾ「いい加減にしろよ！さっさと誰がハズレ引けよ！」

エリオ「ボクまで回ってきそうだな・・・」

なのは「はやてちゃん、何番？」

はやて「ん・・・？おっ！これえんちゃう？4や！4番！」

響「おお！クリアまであと少しだ！」

ルルー「あと4マス・・・次で4以上が出ればクリアね・・・！」

引いた数字は4・・・ハンターボックス4マス前進・・・

残る鎖は13本・・・クリアまで残り4マス

18人目は・・・レッド

シエゾ「おいレッド！絶対4以上出せよ！」

レッド「そんな事約束出来ないよ！運任せな訳だし・・・」

せつな「ダメ！約束して！」

レッド「そんなの守れる保証無いよ・・・！」

フェイト「何色？」

レッド「これ相当なプレッシャーだな・・・」

なのは「早く決めて！」

レッド「分かってますよ・・・もういいや、これで！ゼブラ！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

レッド「引くぞ！」

ジャラッ！

シーン・・・

レッド クリア

シェゾ「さあ何番だ？3以下だとは言わせないぞ」

レッド「うわっ！最悪・・・」

リデル「え・・・？」

レッド「2だって・・・」

ワリオ「何じゃとー！」

ラフィーナ「何であんたは、そう空気読まないのー！？」

レッド「だから運任せだって言っただじゃない・・・！」

マリオ「そんなもん、理由になるかー！」

引いた数字は2・・・ハンターボックス2マス前進・・・

残る鎖は12本・・・クリアまで残り2マス

19人目は・・・レムレス

リデル「あの方なら・・・きっと大丈夫です・・・」

響「クリアに導いてくれる筈だね・・・」

エリオ「何色にします？」

レムレス「これなんか怪しいな．．．マゼンタ！」

なのは「マゼンタ？そんな色あったの？」

シエゾ「微妙な色だな．．．」

クリアか．．．？ハンター放出か．．．？

レムレス「それじゃ、引くよ！せーの．．．」

ジャラッ！ ガコン！

残りの逃走者「わああー！！」

門が外れてしまい、4体のハンターが放出。ゲームが始まった．．．

散り散りになり、一目散に逃げていく逃走者達。

ハンターの視界には．．．

ピーーーーーー

レムレス「ううおゝ！」

レムレスだ．．．

レムレス「な・・・何て速さだ、このハンターっていうのは！」

必死に逃げ続けるレムレス。しかし、その差はどんどん縮まってく。最早、逃走不可能・・・

レムレス「ひゃゝ！」 ポンッ

> i 1 6 4 8 8 — 2 0 9 6 <

レムレス「何てこった・・・油断したかな・・・？」

一瞬の油断が命取りとなる・・・

プルルルル プルル

トウーン「あつ・・・メールだ・・・！」

確保情報は、全ての逃走者にメールで通達される。

くるみ「『観覧車付近にてレムレス確保、残り30人』・・・！」

フェーリ「ええゝ！？捕まったの・・・！？」

エリオ「クリア直前だったのに・・・！何て事してくれたんだ、あの人は・・・！」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

逃走劇の舞台となるのは、多くの客で賑^{にぎ}わいを見せる、とある深夜の遊園地。広さは東京ドームおよそ4個分。またアトラクション内へは原則進入出来ない。この狭いエリアの中を30人の逃走者は、4体のハンターから逃げ回る。

従業員「ポップコーンはいかがですか？」

スバル「ポップコーン？いいんですか？」

従業員「はい。どうぞ」

スバル「有難う御座います」

ポップコーンをもらったスバル。

スバル「こんなのくれるんだ・・・嬉しい・・・しかも美味しい！」

シグ「皆楽しそう」

ひかり「こんな時間に遊園地で楽しむ人もいるんだ・・・」

クルーク「人混みに紛れるっていうのもいいかもね」

群衆に紛れ、ハンターから身を隠す作戦のクルーク。果たして、上手く行くのだろうか。

奏「今、時間はどのくらい経ってるのかしら？」

キヤロ「残り178分50秒で・・・7千円・・・！」

ワリオ「もう7千円だ・・・！やっぱり逃走中は、いい金稼ぎになるな・・・！」

賞金は1秒ごとに100円ずつ上昇。180分間逃げ切れれば108万円を獲得出来る。

更にこのゲームは自首も出来る。エリア内3ヶ所に設置されている公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

但し、ハンターに捕まれば賞金は0円・・・

彼等は、驚異のスピードと持久力を併せ持つ。逃げ切るのは容易ではない。

生き残るのは・・・誰だ・・・？

オープニングゲーム(2) (後書き)

遂に幕を開けた恐怖の逃走劇！

逃げ切る者は現れるのか！？

そして、開始早々謎の存在が動き出す！？

新たな挿絵を入れてみました。どうでしょうか？

今度こそ、次回は16日の放送後に更新します。

16日の逃走中、楽しみですね

謎の行動（前書き）

逃走中面白かったですね

放送も終わったので、早速更新します！

逃走者の様子をモニター越しに見ている謎の存在・・・

ゲーム開始早々動き出す！

謎の行動

フェイト「狭くない、このエリア？」

同じ場所出会ったフェイト・リユカ・ひかり。

ひかり「何か狭く感じますね・・・」

リユカ「少し動いただけで、こんな3人も会っちゃうなんて・・・」

フェイト「離れて行動した方が良さそうだね・・・」

リユカ「絶対そうした方がいいって・・・!」

ひかり「何人も同じ場所に固まってたら、ハンターに分かりやすいですから・・・」

3人は別行動をとる事に。

ドラコ「楽しそうだな、皆・・・」

遊園地で楽しむ観客を羨ましそうな目で見つめるドラコケンタウロ
ス。

ドラコ「遊園地は、こんな怖い思いをして来る所じゃないね」

フェーリ「何処かい隠れ場所無いかしら？」

隠れ場所を探すフェーリ。

その前方から、前々回の記念すべき(?) 最初の確保者・ピット・

ピット「あれ？フェーリだけ？何してんの？」

フェーリ「何してるのって・・・見れば分かるでしょ、逃げてるのよ・・・！」

ピット「そんなの皆一緒じゃん・・・」

フェーリ「そんな事より、何処かい隠れ場所・・・この近くに無い？」

ピット「うん・・・この遊園地、意外と見通しのいい所が多いんだよね・・・」

そこへ、はやてが合流。

はやて「おお？その2人、立ち止まったらハンターが見つかるで？」

ピット「あつ、はやてさん・・・」

フェーリ「今、隠れ場所を2人で話し合ってたのよ」

はやて「そうなん？」

しかし、その3人にハンターが迫る・・・

はやて「これ、いつハンターが来てもおかしいで？ホンマに・・・」

ピット「ですよね・・・どうすれば・・・あつ、ハンターだ！」

フェーリ「嘘でしょ!？」

はやて「アカン！」

見つかった・・・

ハンターに追われ、散り散りになって一目散に逃げる3人。

ピット「来た、来た・・・！ハンター来た・・・！」

はやて「こんな所で捕まりたくない！」

フェーリ「何とか撒いたかしら・・・？」

3人とも、ハンターの視界から上手く消えた様だ。

ピット「危なかった・・・」

ゆり「それにしても、30人だと結構狭いわね・・・この遊園地・・・」

アルル「逃げ切るの難しそうだな・・・」

ティアナ「ハンターが全然見えない・・・！」

トウーン「これからどうしよう・・・?」

謎の存在「・・・」

・ 心の内を口々に言う逃走者達をモニター越しに見ていた謎の存在・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには『VOTE』の文字が・・・

それをタッチすると、更にいろんな項目が現れた・・・

謎の存在は、その中の『DROP OUT』をタッチした・・・

プルルルル プルル

せつな「あら?何かしら?」

メールだ・・・

ラフィーナ「誰か捕まったの?」

スバル「まだ3分しか経ってないよ?」

マリオ「いくらなんでも早過ぎないか?」

響「メール・・・えっ・・・？通達・・・？」

ウィッチ「『逃走者諸君、実は現在1人定員オーバーだ』・・・えっ？」

エリオ「定員オーバー・・・？えっと・・・『君達の多数決により』・・・」

ワリオ「『君達の多数決により、脱落させる1人の逃走者を決めてほしい』・・・」

くるみ「『残り175分までに、誰かの名前を記入しメールで送信せよ！』・・・」

クルーク「『送らなかった者は強制失格となる。急ぎたまえ！』・・・」

キャロ「ええっ・・・！？一寸待つて・・・！私この中で1番下っ端だよ・・・！？」

奏「何で・・・？何でそんな人を売る様な事を・・・」

なのは「あっ・・・！だからか・・・だからオープニングゲームで鎖の数が30本だったんだ・・・！」

アミティ「1人招かれざる客がいるというか・・・」

シグ「キャスティングミスって事？」

逃走者に通達された1通のメール・・・

生き残っている30人の逃走者の中から、脱落させてもいいと思う者を1人選び、残り175分までに投票しなければならない。投票を放棄すれば、強制失格となってしまふ。

マリオ「足遅い奴の方がいいだろ・・・？」

リデル「自首するかもしれないと・・・言ってた人に・・・しようかな・・・？」

くるみ「あの人、30人の中で1番偽善者ぶってるでしょ・・・」

はやて「そう上手い事行かへんって事を教えたる・・・！」

レッド「お前・・・！」

ワリオ「お前だ・・・！」

なのは「送信・・・！」

リユカ「送信つと・・・！」

ルルー「OK・・・！送ったわ・・・！」

スバル「よしっ・・・！」

戸惑いながらも、謎の投票に参加した逃走者達。全員が制限時間内に投票を完了させた。

だが・・・

この時の選択が、後の逃走劇に大きな影響を及ぼす・・・

マリオ「これ、誰が脱落したかっていうのもちゃんとメールで来るのか？」

ティアナ「脱落したらどうしよう・・・？ますます人間不信になる・・・！」

せつな「こんな所で脱落したくないわ・・・！」

アミティ「次のメールの内容が怖い・・・」

謎の存在「・・・」

不安に駆られる逃走者達をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

すると、突然画面が切り替わり、『RESULT』の文字が浮かび上がった・・・

それと同時に、12名の逃走者の名前が浮かび、得票数を棒グラフで表示していく・・・

そして、最多得票となった1人の逃走者の欄に『DROP OUT』の文字が点滅する・・・

謎の存在は、その点滅する文字をタッチした・・・

すると何と言う事が、『DROP OUT』の文字が『BETRAYER』に変わってしまった・・・

プルルルル プルル

アルル「来た・・・！」

メールだ・・・

トウーン「結果だな、きっと・・・！」

フェイト「お願い・・・！脱落しないで・・・！」

ゆり「『多数決の結果が出た』・・・！どうなったの・・・？」

響「『脱落させようと思ったが、気が変わった』・・・えっ・・・？何それ・・・？」

キャロ「『この気の毒な逃走者には』・・・」

ドラコ「『ある特別な役割を』・・・」

リデル「『与える事にする』・・・」

クルーク「『その役割とは』・・・」

奏「『その役割とは』・・・？」

シグ「『その役割とは』……」

逃走者全員「『裏切り者だ!』……!」

逃走者達の手によって、1人の裏切り者が選ばれた……

その人物は、他の逃走者の位置情報をハンターに通報。

その情報が確保に結び付けば、通常の賞金に加え、ボーナスとして1人に付き10万円が支払われる。

この時点で、全ての逃走者は仲間では無い……

裏切り者は、一体誰なのか……

せつな「えっ……? 裏切り者が誰かは通達されないの……!?!」

ラフィーナ「誰が裏切り者かは、その人が捕まらなないと分からないって事ね……!」

レッド「誰なんだ、裏切り者は……?」

マリオ「誰だ……!?! 一体誰なんだ……!?!」

アルル「誰も信用出来ない逃走中って……何かヤダ……!」

裏切り者が逃走者の位置を通報すれば、4体のハンターは一斉に確保へと動く。

但し、裏切り者もこれまで同様、ハンターに追われ捕まれば失格。通常賞金もボーナスも全て没収となる。

ピット「女が裏切り者の確率が高いな．．．30人中20人が女だから．．．」

奏「誰とも顔を合わせられないって．．．厳し過ぎる．．．!」

リデル「あそこに．．．誰がいる．．．」

フリーフォールの近くに身を潜めるリデル。遠くに人影を発見。

リデル「これ．．．移動した方が．．．いいかな．．．?」

ハンターと裏切り者の恐怖に耐え兼ね、移動を試みようとする。

しかし．．．

裏切り者が、リデルの姿を捉えた．．．

???（裏切り者）「リデル、フリーフォール付近にいます．．．」

裏切り者の通報を受けたハンターが、一斉にリデルの確保へと向かう。

リデル「少しでも．．．人目の付かない所に移動出来れば．．．」

ハンターとの距離が、加速度的に縮まっていく。

リデル「何処かに隠れていれば・・・ってハンター！」

迫り来るハンターに気付き、一目散に逃げるリデル。

なのは「あれリデルちゃん・・・？追われてる・・・！」

尚も逃げ続けるリデル。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。
最早、逃走不可能・・・

リデル「いやゝ！」 ポンッ

> i 1 6 8 9 0 — 2 0 9 6 <

リデル「ま・・・負けましたゝ・・・」

作戦を実行する間もなく散った・・・

プルルルル プルル

ウィッチ「メール・・・？」

マリオ「確保情報だ・・・！」

スバル「『裏切り者の通報により』・・・」

くるみ「『フリーフォール付近にて』・・・」

シエゾ「『リデル確保』・・・！」

シグ「『残り29人』・・・？」

奏「裏切り者が動き出したわね・・・！」

ルルー「誰なのよ、ホントに・・・！」

遂に現れた、通報による確保者。裏切り者は誰なのか・・・

今回の逃走劇となっている、深夜営業の遊園地・・・

この遊園地には、ある危機が迫っていた・・・

実はこの遊園地、元々は海底資源などが豊富である事で有名な、とある地域に造られた場所である・・・

その為この遊園地では、まだ多くの海底資源が眠っているという噂が絶えなかった・・・

しかし、その噂によって遊園地付近を荒らし回る者が急増・・・遊園地は昼間の営業が出来なくなってしまった・・・

このような混乱を避ける為に、遊園地は人気ひんけが少ない深夜に営業時間を移転した・・・

ところが、この深夜の営業と言う事に目を付けた謎の集団が、今宵遊園地を乗っ取ろうと計画していた・・・

アルファ「ベータ、ガンマよ・・・」

ベータ・ガンマ「はっ！」

アルファ「あの遊園地において、何か情報は得られたか・・・？」

ベータ「はい・・・アトラクションが多く立ち並ぶメイン会場の海底資源は、十数年ほど前からの騒動により、既に枯渇に近い状況になってしまった様です・・・しかし、メイン会場の東西南北4つのエリアに、まだ多くの資源が地中の奥深くに眠っているそうです・・・」

アルファ「ふふっ・・・なるほど・・・それで、そのエリアも遊園地の領地なのか・・・？」

ガンマ「はい・・・しかし・・・困った事に、そこは現在封鎖されていて、客は疎かおろ関係者の立ち入りも禁止されているそうなんです・・・照明なども消えていて、運営されている様子が全くありませんでした・・・」

アルファ「何・・・！？関係者も立ち入る事が許されないとは・・・十中八九何か裏がありそうだな・・・ベータ、ガンマよ・・・！もう1度行つて参れ・・・！」

ベータ・ガンマ「はっ！」

客「あれ？何でここ入れないんだろう？」

客「マップには、ちゃんとエリアとして載ってるのに・・・」

客「変なの」

多くの客も疑問に思う、封鎖されたエリア・・・

この存在が、ゲームの行方を大きく左右する・・・

はやて「裏切り者には氣い付けんと・・・」

プルルルル プルル

はやて「ん？何や？」

メールだ・・・

リュカ「来た・・・！ミッションだ・・・！ミッション１・・・！」

ひかり「『現在、君達が逃げているエリアは全面積の半分でしかない』・・・えっ・・・？」

レッド「『これより、東西南北４つのエリアを一時的に開放する』・・・」

エリオ「『残り１５５分までに、それぞれのエリアにある電源盤のレバーを上げられれば』・・・」

シェゾ「『そのエリアは、以後も逃走可能となる』・・・！』」

フェーリ「やるかやらないかは、君達の自由だ!」・・・」

MISSION? 逃走エリアを拡大せよ!

現在、逃走者が逃げているエリアは本来の面積の半分ほどしか無い。これより、エリアの東西南北4つのエリアを一時的に開放。残り15分までに、それぞれのエリアにある電源盤のレバーを上げる事が出来れば明かりが灯され、以後逃走エリアとなる。なお、残り15分になるとレバーを上げられなかったエリアは再び封鎖される。その時に残っていれば強制失格となる。

アルル「やっとううよ、これは・・・!」

響「出来れば、メチャクチャ有利になるじゃん・・・!」

トウーン「勇気出して、やるしかないな・・・!」

シェゾ「やる訳ねえだろ、こんなもん・・・!面倒臭え・・・」

ティアナ「誰かやってくれる筈だよ・・・!」

フェーリ「暗闇の中に入ったら、確実にハンターに見つかるじゃない・・・!」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高くなる。

また、逃走者は発光している衣装を着ている為、開放されているエリアに入れば、ハンターに見つかるリスクが更に高まる。

ミッション終了まで、およそ14分。

エリアを拡大する事が出来るのか!?

謎の行動（後書き）

逃走者に迫る、ハンターと裏切り者の恐怖！

チャンスを活かし、ピンチを乗り越えられるのか！？

挿絵・・・タイマーの部分を少しリニューアルしました。

より本家らしくなったと思うのですが、いかがでしょうか？

あと、裏切り者は「お金欲しさに」ではなく「仲間に見捨てられて」と言う形にしてみました。

それに引き換え、誰なのか予想が立てやすいかと思います。

エリア拡大へ！（前書き）

逃走者に与えられた、逃走成功の確率アップのチャンス。

全てのエリアを拡大できるのか！？

エリア拡大へ！

残り155分までに、一時的に開放されたエリアにある電源盤のレバーを上げられれば、そのエリアは以後も逃走エリアとなる。

せつな「全部クリアできれば、結構広くなるわね・・・行つとくベ
きかしら・・・？」

シグ「怖いな・・・ハンターに見つかるかも・・・」

しかし、エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高くなる。

更に、裏切り者が潜んでいる為、無闇に動けば通報される可能性が高い。

トウーン「よしっ・・・！今回こそは、1つでも多く活躍するぞ・・・！」

ミッションクリアに奮起するトウーンリンク。その前方から・・・

トウーン「うわっ！」

リュカ「わあっ！」

リュカだ・・・

トウーン「ちよつと・・・リュカじゃない・・・！急に現れないで
よ・・・吃驚したじゃん・・・！」

リュカ「ゴメンゴメン・・・あつ・・・ねえ、トウーン・・・」

トウーン「ん？」

リュカ「裏切り者じゃない・・・よね・・・？ボク・・・違つよ・・・」

トウーン「ボクも違つよ・・・！」

リュカ「さっきの投票、誰に入れたの・・・？」

トウーン「ボクはワリオに入れた・・・リュカは・・・？」

リュカ「あの・・・くるみって人に入れた・・・」

トウーン「ああ、そうなんだ・・・」

ピリリリリリ

リュカ「わっ！何、何、何・・・！？」

トウーン「電話だ・・・！ボクのだ・・・！えつと・・・あつ、はやてさんからだ・・・もしもし？」

はやて「もしもし？はやてやけど・・・トウーン君さ・・・誰に入れたん？」

トウーン「ボクはワリオに入れました・・・それで、近くにリュカがいるんですけど・・・彼はくるみって人に入れたそうです・・・」

はやて「なるほど・・・了解や・・・」

・・・と、その時・・・

裏切り者が、トゥーンとリュカの姿を・・・見た・・・

???（裏切り者）「トゥーンリンクとリュカ、メリーゴーランド付近にいます・・・」

裏切り者の通報を受けたハンターが、一斉に確保へと向かう。

リュカ「ここから西の開放エリアに行けるね・・・」

トゥーン「でしょ・・・？ここにある電源盤のレバーを上げれば、エリアが広がるんだよ・・・！」

リュカ「行くの・・・？」

トゥーン「勿論・・・！ゲームを有利に進めたいし・・・！」
もちろん

リュカ「そうだね・・・ハンターが増える訳じゃないし・・・ってハンター来た！」

トゥーン「嘘!？」

近くまで追ってきたハンターの姿を捉え、二手に分かれて一目散に逃げる2人。

ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーー

リュカ「こつち来るなー！」

リュカだ・・・

スバル「あの悲鳴・・・リュカ・・・？」

奏「捕まっちゃうんじゃない・・・？」

リュカ「ヤダッ！」

逃げ続けるリュカ。しかし、その差はどんどん縮まる。最早、逃走不可能・・・

リュカ「ああッっ！」 ポンッ

> i 1 7 0 4 5 — 2 0 9 6 <

リュカ「嘘っ・・・！もう終わりっ・・・？早過ぎるよっ・・・！」

その一方で、トゥーンリンクは何とか逃げ延びた様だ。

トゥーン「リュカ捕まったのかな・・・？」

キャロ「『裏切り者の通報により』・・・」

アミティ「『リュカ確保』だって・・・！」

リユカ「裏切り者だって・・・絶対トウーンだ・・・！最悪だ、あの人・・・！」

トウーン「裏切り者・・・？誰か近くにいたって事・・・？」

響「よしっ・・・！もう少しだ・・・！もう少しで北エリアだ・・・！」

北エリアの拡大に動く、新プリキュア・キュアメロディの響。

ピリリリリリ

響「何だよ・・・こんな時に電話・・・？ん・・・？はやてさんだ・・・もしもし？」

はやて「もしもし、響ちゃん？あの・・・誰に入れたん？」

響「あたしは・・・マリオに入れました」

はやて「OK・・・了解や・・・！」

響「はやてさんは誰に入れ・・・」

ピッ

はやては、一方的に電話を切った。

響「はやてさん怪しいな・・・」

探る者・・・探られる者・・・全ての逃走者が真実を言っていると

は限らない・・・

くるみ「このミッションだけは、誰かがやってくれる事を信じる・・・！」

何故か「にじファン」内で評判が非常に悪いくるみ。このミッションには興味が無い様だ。

ワリオ「俺様は絶対動かない方が賢明だ・・・！」

シェゾ「ここにさえ隠れてれば、絶対捕まる事は無い・・・！」

クルーク「もう7万円超えてるじゃん・・・！自首出来るな・・・」

動かない男達・・・彼等もミッションは他人任せの様だ。

ひかり「ここかな・・・？」

漸く東エリアに到着したひかり。彼女は危険を顧みず、ミッションに参加する。

ピリリリリリ

ひかり「ええ・・・？誰・・・？あつ、はやてさんだ・・・もしもし、ひかりです・・・」

はやて「もしもし、ひかりちゃん？あの・・・さつき誰に入れたん？」

ひかり「えっ……？それ……言っていないんですか……？」

はやて「うん……私の情報もちゃんと教えるから……！」

ひかり「マリオさんです……」

はやて「OK……！これでマリオ君3票や……！」

ひかり「えっ……！？3票……ですか……？」

はやて「うん……！多分な……」

ひかり「はい……！」

ピッ

またしても、はやては一方的に電話を切った。

ひかり「はやてさん……ホントに頭いい……」

ラフィーナ「何処なのよ、封鎖されていたエリアって……！」

開放されているエリアを探すラフィーナ。

ラフィーナ「あら……？あれって……まさかハンター……！？」

遠くにハンターを見たラフィーナ。一目散に逃げる。

しかし、ハンターは気付いていない様だ。

ラフィーナが逃げた先に、ゆりの姿・・・

ゆり「何？」

ラフィーナ「ハンターが・・・！」

ゆりも釣られて逃げる。

ラフィーナ「危なかったわ・・・」

ゆり「ちよつと待つて・・・まさか・・・まさかのラフィーナ・・・？だから今、私の方に走つて来たの・・・？」

ラフィーナに疑いの目を向けるゆり。近くに見つけた別のハンターも、ラフィーナの差し金なのか・・・

ひかり「あつた・・・！」

東エリアの電源盤を見つけたひかり。彼女は下がっているレバーを上げる。

しかし・・・

ひかり「あれ・・・？あれ・・・！？電気が点かない・・・！何で・・・！？」

レバーを上げたにも拘らず、^{かわ}照明が灯されない・・・一体どういう事なのか。

それは、北エリアでも同じ事が・・・

響「何で！？何にも間違ったことしてないのに！」

その時、響が何かを見つけた・・・

響「あれ・・・？何だこれ・・・？」

それは、電源盤の起動力になっている歯車仕掛けの機械だった。それを
を見た響は・・・

響「あれ・・・！？歯車が全然動いてない・・・！ていうか・・・
歯車が1個足りないじゃん！」

エリアの照明を灯すには、それぞれの開放エリアに落ちている歯車を
機械に詰め込んでからレバーを上げなければならない。

これよりひかりと響は、エリアの何処かにある歯車を探さなければ
ならない。

響「こんなの絶対見つかるじゃん・・・！」

ひかり「ハンターに來られたら、絶対逃げ切れないよ・・・！」

発光している衣装を着ている為、暗闇のエリアに長時間いれば命取
りとなる。

南エリアの電源盤にやって來たフェイト。

フェイト「このレバーを上げればいいんだ・・・せーの・・・！」

彼女は下がっているレバーを上げる。

しかし、照明は灯されない・・・

フェイト「ええ・・・！？何で・・・！？」

そこへ近付く、黒い影・・・

フェイト「レバーを上げればいいんじゃないの？何で・・・ってうわぁ〜！」

見つかった・・・

フェイト「速い！ハンター速い！」

一目散に逃げるフェイト。しかし、ハンターに差を詰められていく。最早、逃走不可能・・・

フェイト「キャー！」 ポンッ

> i 1 7 0 5 0 — 2 0 9 6 <

フェイト「嘘〜！ハンター速過ぎる・・・！勝てない・・・！」

プルルルル プルル

フェーリ「メール・・・？」

なのは「ええっ！？フェイトちゃん捕まった・・・！」

エリオ「フェイトさん確保・・・！？」

ルルー「『残り27人』・・・」

ピット「うわゝ、これヤバいかも・・・」

スバル「南エリアって、あたしが今向かおうとしてる所じゃん・・・！ヤバい、ハンターいるって事じゃん・・・！」

レッド「やっぱり、暗い所には自分から行くもんじゃないなゝ・・・」

ティアナ「全然ミッションやってくれる人いないじゃん・・・！信じられない・・・！」

ゲーム開始から、ジェットコースターの陰に身を潜め続けるティアナ。

ティアナ「裏切り者がいるせいで、もうホントに誰も信じられない・・・！スバルもなのはさんも・・・その他の仲間も初めてあった人達も・・・皆あたしの敵なんだよ・・・？」

裏切り者が潜んでいる今、信じられるのは己のみ・・・

北エリアで歯車を探している響。

響「もうゝ、何処なんだよ・・・！」

そこへ・・・

アルル「あれ？」

響「うわっ、吃驚びっくりした！アルル・・・いきなり声出さないでよ・・・！」

アルル「ゴメン・・・さっき電源盤見たらレバー上がってたけど、何で電機が点いてないの？」

響「レバーの隣にあつた歯車だらけの物見た？」

アルル「ああ、そういえばあつたね」

響「あれ・・・歯車が1個足りないから動かないんだよ」

アルル「ええゝ・・・！？じゃあ、それを付けないと・・・」

響「レバー上げても意味が無いんだよ。それで、あたし今その歯車を探してるんだけど、この暗さのせいもあつて全然見つからないんだよ・・・アルル、お願い手伝つて・・・！」

アルル「勿論いいよ・・・！ハンター来る前に、早く見つけよう・・・！」

響「当たり前だよ・・・！」

2人は手分けして歯車を探す。

一方、東エリアのひかりは・・・

ひかり「歯車、歯車・・・結構大きい物だったから・・・ん・・・？」

前方に、円形の金属の様な物体を発見。近付いてみると・・・

ひかり「歯車だ・・・！やっと見つけた・・・！」

ひかり 歯車獲得

これを電源盤横の機械に嵌め込み、もう1度レバーを上げれば照明が灯される。

やっとの思いで、西の開放エリアにやって来たトゥーンリンク。

トゥーン「とりあえず、電源盤探さないと・・・！」

彼はまだ、歯車の欠陥で電源盤が作動出来ない事を知らない。

ひかり「ハンター来てないね・・・！よしっ・・・！」

ハンターを警戒しながら進み、遂に電源盤に到着。

彼女は持っていた歯車を欠落していた部分に嵌め込み、レバーを再度動かす。

すると、東エリアに照明が灯された。それと同時に、エリア内のアトラクションも稼働し始めた。

九条ひかり ミッションクリア

ひかり「やった・・・！ミッションクリア・・・！」

シグ「『九条ひかりの活躍により、東エリアが開放された』・・・
ありがとう・・・」

くるみ「ひかりすごい・・・！ありがとう・・・！感謝するわ・・・！」

せつな「やっぱりひかりって、すごい頑張るわね・・・！私もこの
ぐらいやらないと・・・！」

ひかりの活躍により、東エリアが開放され、逃走エリアはおよそ1・
2倍に広がった。

ミッション終了まで、およそ5分。残るは北・西・南のエリア。

逃走者達は、無事解放出来るのか。

エリア拡大へ！（後書き）

早くも次回の逃走中の情報が流れてますね。

よみうりランドが「卑弥呼ランド」って・・・やはり、この前の続きと言う感じですね。

1ヶ月半後が楽しみです！ 気が早い！

ミッション1終了！（前書き）

残る開放エリアは、北・南・西エリア。

逃走者達は、開放エリアを我が物にする事が出来るのか！？

ミッション1終了！

東エリアが開放された事で、逃走エリアが1・2倍となった。

しかし、残る3つのエリアを全て開放出来れば、逃走エリアは開始時の約2倍となる。

現在、響とアルルが北エリアの電源盤の歯車を探しており、トゥーリンクが西エリア、スバルが南エリアの開放へ向かっている。

マリオ「くそ……怖いな……」

ハンターの目を掻い潜り、開放エリアへ向かおうとするマリオ。しかし、リスクの高さから行動に踏み切れない。

ピット「あっ……！先客がいるみたいだな……！」

西エリアに辿り着いたピット。前方にトゥーリンクを発見。

トゥーン「あった……！」

電源盤を見つけたトゥーリンク。すぐさまレバーを上げる。

しかし、隣に設置された歯車仕掛けの機械の歯車が1個欠けている為、電源盤は作動しない。

トゥーン「あれ……！？何で明るくならないの……！？」

ピット「嘘……！？レバー上げたのに……！？」

ピットも驚きを隠せない。

その時・・・

ピリリリリリ

ピット「何？誰から・・・？えっ・・・？ひかりだって・・・もしもし？」

ひかり「あの・・・ピットさん、何処かの開放エリアに行きました？」

ピット「今、西の方に来ているけど・・・」

ひかり「電源盤のレバーはまだ上げちゃダメです」

ピット「何で？さっきトゥーンが上げたみたいだけど、全然変化がなくて・・・」

ひかり「そのエリアの中から歯車を探して下さい」

ピット「歯車？」

ひかり「電源盤の隣にある機械に歯車をセットしてからじゃないと、意味が無いんです」

ピット「マジで！？分かった・・・！トゥーンに伝えておくよ」

ひかり「有難う御座います」

2人は電話を切った。

ピット「トウーン！歯車探そう！」

トウーン「ピット・・・！歯車？何でそんな物を？」

ピット「さっきひかりから電話があつて、電源盤の隣にある機械に歯車を入れてからレバーを上げないとダメなんだって」

トウーン「はあ！？何それ！？で、その歯車は何処にあるの？」

ピット「この西エリアの中だと思う」

トウーン「OK！」

2人は、手分けして歯車を探す。

ミッション終了まで 4分

ゆり「早いところ、開放エリアに向かわないと・・・！4分切つてるし・・・！」

ミッションに挑む、キュアムーンライトこと月影ゆり。

しかし・・・

その姿を・・・裏切り者が・・・見た・・・

???（裏切り者）「月影ゆり、コーヒークップ付近にいます・・・

「

裏切り者の通報を受けたハンターが、一斉にゆりの確保へと向かう。

ゆり「この狭さじゃ、自分も苦しいだけだし・・・」

ハンターとゆりとの距離が、徐々に詰められていく。

ゆり「やっぱりこのゲームに出たからには、任された仕事はちゃんと・・・ハンター！」

追って来るハンターに気付き、一目散に逃げるゆり。逃げ切れるのか。

ゆり「嘘でしょ！？ハンター速い！」

ウィッチ「誰か追われてる・・・！ここは危ない・・・！」

追われるゆりの姿を見て、ウィッチはその場から離れる。

ピーーーーー

ゆり「不味い！」

尚も逃げ続けるゆり。しかし、その差がどんどん無くなっていく。最早、逃走不可能・・・

ゆり「あうっ！」 ポンッ

ゆり「何これ・・・！？こんな呆気なく・・・！」

最年長プリキュア、ここに散る・・・

プルルルル プルル

エリオ「またメール・・・？多くない・・・？」

ルルー「あつ・・・！『裏切り者の通報により、コーヒークップ付近にて』・・・」

レッド「『月影ゆり確保』・・・！」

くるみ「嘘でしょ・・・？あのゆりがこんな早くに・・・？しかも裏切り者って・・・！」

ドラコ「裏切り者による犠牲者が3人も出てる・・・！」

はやて「えげつないな・・・！」

奏「ホントに誰、裏切り者・・・？」

ミッション終了まで 3分

響「何処だ？」

アルル「無いな・・・」

ハンターに見つかる危険を顧みず、暗闇の北エリアで歯車を探す2

人。

スバル「何とか着いた・・・！」

漸く南エリアに到着したスバル。しかし、彼女は歯車が欠けているせいで電源盤が作動しない事を知らない。

スバル「何処だ、電源盤・・・？にしても、ハンターに見つかるの怖い・・・！」

シグ「今いくら・・・？13万4千円・・・？これ自首でもいいかも・・・」

エリア内3ヶ所に設置されている公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金を獲得し、ゲームからリタイア出来る。

シグ「10万円あれば、何か買えるもん・・・」

クルーク「うゝん・・・今自首するか・・・20万円ぐらいまで釣りあげるか・・・」

クルークも自首に悩み出す。

ピット「あつた？」

トウーン「無い・・・」

西エリアで歯車を探しているトウーンリンクとピット。

ピット「あれ？」

ピットが前方に何かを見つけた。

トウーン「何、何？」

ピット「これは・・・あつた！歯車だ！」

ピット 歯車獲得

これを電源盤横の機械に嵌め込み、もう1度レバーを上げれば照明が灯される。

トウーン「おおー！ナイス！」

ピット「早く電源盤に行こう！もたもたしてたら、ハンターに見つかる！」

トウーン「了解！」

足早に電源盤を目指す。

ミッション終了まで 2分

シェゾ「まだ1人しか動いてないのか・・・？早く広くしてくれよ・・・！」

ワリオ「根性無いな、あいつら・・・！」

ミッションクリアをただただ待つ2人。動く気は更々無い様だ。

スバル「これか、電源盤・・・！」

電源盤を見つけたスバル。彼女はレバーを上げる。

案の定、電源盤は作動しない。

スバル「えっ・・・！？何これ・・・！？何で明るくならないの・・・！？」

戸惑いを隠せない。

そこへ・・・

ひかり「あっ・・・！スバルさん・・・！」

東エリアを開放させたひかりが、危険を顧みず、南エリアの開放へやって来た。

スバル「ひかり・・・！さっきミッションやったみたいだね」

ひかり「はい・・・！それは兎も角・・・スバルさん、歯車探ししました？」

スバル「歯車？」

ひかり「見てください、電源盤の隣・・・歯車仕掛けの機械があるじゃないですか。この機械の1個の歯車が、この南エリアの何処かに落ちてるみたいなんです」

スバル「ええっ！？じゃあ、その歯車が無いと動かないって事・・・

？」

ひかり「そうなんです。なので、一緒に探しましょう・・・！」

スバル「OK・・・！」

2人は南エリアに落ちている歯車を探す事に。

ピット「これだ！」

電源盤に到着したピット。持っていた歯車を嵌め込み、レバーを再度動かす。

すると、西エリアに照明が灯された。それと同時に、エリア内のアトラクションも稼働し始めた。

トウーンリンク・ピット ミッションクリア

ピット「よしっ！明るくなった！」

トウーン「これで逃げやすくなったね！」

キャロ「『トウーンリンク・ピットの活躍により、西エリアが開放された』・・・すごい・・・！」

アミティ「やった・・・！これはすごいアドバンテージだよ・・・！」

西エリアが開放され、逃走エリアは通常のおよそ1・4倍に広がった。

更に・・・

アルル「あつたよ!」

響「ホントに!?!」

アルル・ナジャ 歯車獲得

響「じゃあ、あたしが持つてくよ!アルルはそこで待つて!」

アルル「捕まんないでね!」

歯車を託された響。間に合うのか。

ミッション終了まで 1分

現在開放出来ていないのは、北と南のエリア。ここにいる4人は、クリア出来なければ、エリアが封鎖され強制失格となってしまう。

ひかり「あと1分切りました・・・!」

スバル「ヤバい・・・!急がないと・・・!」

まだ歯車を探している2人。このまま強制失格となってしまうのか。

響「着いた!」

持ち前のフットワークを活かし、電源盤に辿り着いた響。

持っていた歯車を嵌め込み、レバーを再度動かす。

すると、北エリアに照明が灯された。それと同時に、エリア内のアトラクションも稼働し始めた。

北条 響・アルル・ナジャ ミッションクリア

響「よっしゃー！電機点いたぞー！」

アルル「間に合った！あと40秒切ってた！」

スバル「あつた！」

漸く^{やっぴ}歯車を見つけたスバル。

スバル・ナカジマ 歯車獲得

> i 1 7 1 8 6 — 2 0 9 6 <

ひかり「あと30秒です！」

スバル「急ごう！」

せつな「お願い・・・！クリアして・・・！」

ティアナ「早く誰かやってよ・・・！」

2人の思いは届くのか。

スバル「これだ・・・！これに歯車を嵌め込めばいいんだよね？」

ひかり「そうです」

電源盤に辿り着いた2人。

スバルは持っていた歯車を嵌め込み、レバーを再度動かす。

すると、南エリアに照明が灯された。それと同時に、エリア内のアトラクションも稼働し始めた。

スバル・ナカジマ・九条ひかり ミッションクリア

スバル「OK！」

ひかり「ギリギリセーフでしたね」

スバル「ひかりが来てくれなかったら、絶対クリア出来なかったよ」

ひかり「そんな事無いですよ・・・」

プルルルル プルル

ティアナ「頼む・・・！」

マリオ「ミッション結果だ・・・！おっ！『ミッションクリア。全てのエリアが開放され、その広さは約2倍となった』・・・！よしや・・・！」

なのは「やった〜！ミッションクリア！スバル有難う！」

ラフィーナ「これで、かなり精神的に楽になったわ・・・！」

4人の活躍により、北と南のエリアが開放され、全てのエリアが逃走可能となった。現在、エリアの広さは東京ドームおよそ8個分となっている。

エリオ「行動範囲が広がった・・・！さて、これからどうしよう・・・？」

エリアが拡大され、移動を試みるエリオ。その前方から・・・

キャラ「あっ・・・エリオ君・・・」

エリオ「キャラ・・・？」

最年少逃走者2人が出会った。

キャラ「エリオ君・・・裏切ってないよね・・・？私違うよ・・・！」

エリオ「ボクも絶対違う・・・！ボク、レッドって人に投票したんだよ・・・キャラは？」

キャラ「私・・・シグって人に入れた・・・」

その声を遠くで聞いているのは・・・

はやて「あれ、ライトニング分隊の2人の声やな・・・お互いの事疑い合つとるわ・・・」

キャラ「絶対違うよね．．．！エリオ君、そんな人じゃないもんね．．．！」

エリオ「絶対違う．．．！ボクは裏切り者なんかじゃない．．．！神様に誓ってもいい．．．！」

キャラ「分かった．．．信じる．．．！」

エリオ「有難う．．．あつ．．．！」

キャラ「えっ．．．？」

エリオがキャラの手を引いて一目散に逃げる。彼が見たのは．．．

レッド「広がったエリアに、ちょっと行ってみようかな．．．？」

エリオが疑いの目を向けるレッドだ．．．

レッド「じつとしても何も始まらないしな．．．」

エリアが広がった事で、動く事を決意した様だ。

しかし．．．

その姿を．．．真の裏切り者が．．．見た．．．

???（裏切り者）「レッド、東エリアのお化け屋敷付近にいます．．．」

通報を受けたハンターが、レッドの確保へと向かう。

レッド「ここまで来たら、ハンターからも裏切り者からも逃げ切つてやる・・・！」

その思いと裏腹に、ハンターがレッドに迫る。

レッド「逃げ切れる、逃げ切れる・・・って来たー！」

追って来たハンターに気付き、一目散に逃げるレッド。

ピーーーーーー

レッド「ヤバーい！捕まるー！」

逃げ続けるレッド。しかし、彼がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

レッド「ぎゃえー！」 ポンッ

>i17187—2096<

レッド「マジかよー？くそ・・・」

ハンターにも裏切り者にも勝てなかった・・・

プルルルル プルル

アミティ「メールだ・・・」

奏「また裏切り者・・・！」

フェーリ「『お化け屋敷付近にて、レッド確保』……」

ティアナ「『残り25人』か……」

エリオ「レッドさんじゃなかった……」

キヤロ「ますます分かんなくなってきた……」

マリオ「結構少なくなっただな……」

ルルー「誰なのよ……!？」

疑心暗鬼になる逃走者達。

そして次回、謎の集団が遊園地に現る!？

ミッション1終了！（後書き）

残る逃走者は、アルル・シェゾ・ルルー・アミティ・シグ・ラフィ
ーナ・クルーク・フェーリ・ウィッチ・ドラコ・マリオ・ワリオ・
トウーン・ピット・ひかり・くるみ・せつな・響・奏・なのは・は
やて・スバル・ティアナ・エリオ・キャロの25人

生き残れる逃走者は現れるのか！？

探り合い（前書き）

裏切り者が暗躍する中、逃走者同士の探り合いが始まる！

- ・そして、謎の集団の遊園地の奪取作戦が遂行されようとしていた・

探り合い

ピリリリリリ

くるみ「電話・・・？あつ・・・偽善者03ゼロスリー・・・」

偽善者03ゼロスリーとは・・・？

くるみ「もしもし？」

はやて「くるみちゃん？さっきの投票、誰に入れたん？」

くるみ「偽善者01ゼロワンに・・・」

はやて「偽善・・・えっ・・・？それ誰や・・・？」

くるみ「高町なのはって人・・・」

はやて「お・・・OK・・・了解や・・・」

くるみ「それじゃ・・・」

2人は電話を切った。

はやて「くるみちゃん・・・なのはちゃんの事、偽善者01ゼロワンって・・・
・何やねん、その渾名あだな・・・」

理解不能な渾名あだなに困惑するはやて。

くるみ「兎に角私は、機動六課の誰かが絶対裏切り者だと思ってるから・・・」

せつな「もうトイレ行きたくなってきたわ・・・」

ハンターと裏切り者の恐怖に慄くおののせつな。

ピリリリリリ

せつな「えっ・・・誰・・・？奏から・・・もしもし？」

奏「せつなさん？突然だけど、変な事聞いていい？」

せつな「な・・・何？」

奏「せつなさんでしょ、裏切り者・・・！」

せつな「ええ・・・！？私が裏切り者・・・！？」

奏「外れてたらゴメンなさい・・・」

せつな「実の事言っと・・・私自身、自分が裏切り者なんじゃないかなと思ってたんだけど・・・」

奏「えっ・・・？ど・・・どどういう事、それ・・・？」

せつな「でも私、奏の事裏切りたくないわ・・・！」

奏「ええ・・・？どっちだろう、その反応・・・？」

せつな「あつ・・・！ちょっと待って・・・今ね、はやてさんから
キヤッチ入ったから・・・」

奏「じゃあ、切るわね・・・」

せつな「ええ・・・」

ピッ

奏「はやてさんから電話が来たって事は・・・やっぱり皆がせつ
なさんの事疑ってるんでしょうね・・・」

せつな「もしもし？」

はやて「せつなちゃん？さっきの投票、誰に入れたん？」

せつな「私は・・・くるみに入れたんですよ・・・」

はやて「了解や・・・！」

せつな「はい、失礼します・・・」

2人は電話を切った。

はやて「くるみちゃんに2票入ったな・・・くるみちゃんも怪しい
わ・・・」

はやて、マリオに続くくるみを容疑者として脳にインプットした。

一方、くるみは・・・

ピリリリリリ

なのは「あつ、電話だ・・・!」

なのはに電話を掛けていた。

なのは「もしもし、くるみちゃん?」

くるみ「なのは・・・あんた裏切り者でしょ?」

なのはに投票したと自称していたくるみ。今も、彼女に疑いを掛けている。

なのは「そう言うくるみちゃんも怪しいけど・・・」

くるみ「私が裏切り者・・・!?!」

なのは「正直に言つて・・・!」

くるみ「私は・・・裏切り者なんかじゃない・・・!」

なのは「私も違うから・・・!」

くるみ「私は・・・悪いけど・・・あんただと思つてるから・・・」

なのは「私もくるみちゃんだと思つてるよ・・・ハッキリ言つて、あんまり信用してないんだけど・・・」

くるみ「本当に裏切り者じゃないのね・・・?」

なのは「絶対に違う……！」

くるみ「分かったわ……その言葉、信用する……」

なのは「それじゃ……」

2人は電話を切った。

くるみ「偽善者01……怪し過ぎる……！」
ゼロワン

互いに疑心暗鬼になる逃走者達。

ここでも……

ピリリリリリ

ワリオ「誰だよ……！マリオかよ……何だ？」

マリオ「ワリオ？お前だろ、裏切り者……！」

ワリオ「そう言ってるお前が裏切り者なんじゃないのか？」

マリオ「ボクは違う……！神に誓っても裏切り者じゃない……

！」

ワリオ「今何処にいるんだよ？」

マリオ「今か？今は……大型ブランコのアトラクションの所だ……

。」

嘘だ・・・誰が裏切り者が分からない為、自分の位置情報は教えられない。

更に、ここでも・・・

ピリリリリリリ

スバル「ひかりから・・・もしもし？」

ひかり「スバルさん、さっきは有難う御座います・・・」

スバル「あっ・・・はぁ・・・」

ひかり「それで、こんな事言うの変だと思っんですけど・・・スバルさん、あの後電話とかしました？」

スバル「まさか・・・あたしの事、裏切り者だって疑ってるの？」

ひかり「可能性は薄いと思っってますけど・・・一応確認の為に・・・」

「

スバル「あたしは・・・自分の中では、さっきの投票で1票も入ってないと思ってる・・・！」

ひかり「私も、自分は0票だと思っってますんで・・・」

スバル「じゃあ、お互い裏切り者の可能性は粗^ほ0^ほって考えていいね・・・？」

ひかり「大丈夫です・・・」

スバル「OK・・・！それじゃ・・・」

ひかり「はい、失礼します・・・」

2人は電話を切った。

ひかり「スバルさんは、信じて大丈夫だと思う・・・」

はたまた、ここでも・・・

ピリリリリリ

響「アルルだ・・・はいよ」

アルル「響、ボクの事通報してない？」

響「な・・・何その言い分・・・まるで、あたしが裏切り者みたいじゃない・・・」

アルル「どうなの？」

響「あたしが裏切り者な訳無いじゃない・・・！そっちこそ、あたしの位置ハンターに教えてないでしょうね？」

アルル「ボクはそんな事しないもん・・・！裏切るなんて事しないよ・・・！」

響「ホントかな？・・・？何か怪しい・・・」

アルル「と．．．兎に角、ボクじゃないからね．．．！」

響「分かった．．．その言葉信じる．．．それじゃあね」

アルル「うん」

2人は電話を切った。

響「ここから先は、一応全員を疑っていかなきゃな．．．いつ見られてるか分からないし．．．」

裏切り者の通報は、いつも突然．．．その為、いつ何処で見られているか分からない。故に、一瞬の気の緩みさえ許されない。

逃走者同士の駆け引きがヒートアップする中、こんな事も．．．

ピリリリリリ

アミティ「電話．．．もしもし？．．．あれ．．．？もしもし？．．．ええ．．．？もしもし、ラフィーナ？」

ラフィーナ「．．．」

ラフィーナは電話を耳から遠ざけ、辺りを見渡している。

ピッ

疑問に思ったアミティは、そのまま電話を切る。

アミティ「ラフィーナから電話掛かってきたのに・・・無言電話なんだけど・・・若しかして、ラフィーナが裏切り者・・・!?それで、あたしが喋っている声聞いて、あたしの位置を調べようとしてた・・・?こんな事する人いるの・・・?もう怖いよ・・・!」

一方、牢獄では・・・

レムレス「残念だったね」

レッド「今回ばかりは行けると思ってただけだね・・・」

最近捕まったレッドが入獄してきた。

フェイト「誰が裏切り者だと思う?」

リデル「私は・・・シェゾさんに入れたんですけど・・・捕まる直前に・・・赤い被り物をしていた人を・・・2人見かけたんです・・・」

リュカ「それ、マリオとアミティだね・・・」

リデル「は・・・はい・・・私は、その2人が怪しいと見てるんですが・・・」

ゆり「私は、最後に見たのはラフィーナだったわ・・・」

リュカ「ボクはトゥーンと話をしていて、追い掛けられて捕まったんだよ・・・ボクの方から駆け寄ったんだけど、どうもボクが来る事知ってた感じの素振りだったから・・・あの人は怪しい・・・」

レムレス「他の人は誰に入れたの？」

フェイト「私はワリオって人に・・・」

レッド「俺はラフィーナに入れたんだよ・・・」

リデル「まだ情報が少ないですね・・・」

ゆり「もう少し様子を見てから話し合う方が良さそうね・・・」

その頃、遊園地の下見に来ていたベータとガンマは・・・

ベータ「こ・・・これは・・・！」

ガンマ「何と言う事だ・・・！」

遂に、2人によって逃走者が開放した4つのエリアを見つけられてしまった・・・

ベータ「ここが、誰も入る事が許されなかったエリアか・・・」

ガンマ「アトラクションがたくさん立ち並んでいるにも拘らず、関係者をも立ち入りを禁じられていた事には、少々疑問を抱くが・・・そんな事など今はどうでもいい・・・」

ベータ「早速、この区域の海底資源を調べてみるか・・・」

すると2人は、地面に掌のひらを当てて、念を送る・・・そして・・・

ベータ「す．．．すごいぞ、これは．．．！」

ガンマ「遂に我々は、今まで調べた中で最高の場所にあり付けたぞ．．．！」

ベータ「この封鎖されていたエリアごと、遊園地を我々の物としてしまえば、アルファ様の野望は叶ったも同然．．．！」

ガンマ「我々の苦勞が、遂に報われる時が来たぞ．．．！」

不敵な笑みを浮かべながら、喜びに浸る2人．．．その時．．．

ベータ・ガンマ「ん．．．？何だ、あれは．．．？」

2人は目の前にある物を発見した。

ベータ「これは．．．ただの置き物の様だが．．．」

ガンマ「なかなか珍しい置き物だな．．．」

2人が見つけたのは観音開きのボックス．．．

その中には、ハンターが仕込まれていた．．．

ルルー「嫌な予感がするわ．．．そろそろミッションが来そう．．．」

プルルルル プルル

ルル「ほら、メール来たもん・・・！」

ウィッチ「来た・・・！ミッション2・・・！」

ティアナ「『エリア内に30個のハンターボックスを設置した』・・・はぁ・・・！？30個・・・！？」

シグ「『残り130分になると、それぞれのボックスの扉が開き、ハンターが放出される』・・・」

フェーリ「『阻止するには、ボックス横のレバーを2人で同時に下ろし』・・・」

トウーン「『ハンターを封印しなければならない。急ぎたまえ！』・・・！」

キャラ「30体も出てくるの・・・！？きつ過ぎるよ・・・！」

MISSION？ ハンター放出を阻止せよ！

エリア内に設置された30個のハンターボックス。残り130分になると、それぞれのボックスの扉が開き、最大30体のハンターがエリアに放出される。阻止するには、ボックス横にあるレバーを2人で同時に下ろし、ハンターを封印しなければならない。

エリオ「ハンター増えるのヤダな・・・」

くるみ「よしっ・・・！やるっきゃないわね・・・！」

はやて「封印向かうか・・・！」

ピット「30体はヤバいでしょ・・・！」

ドラコ「出てきたら、絶対逃げられない・・・！」

エリアには4体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

更に残り130分になると、その数は最大34体が増えてしまう。

また、逃走者の中に裏切り者が潜んでいる為、無闇に動けば命取りとなる。

ハンター放出まで、およそ14分。

30体の放出を阻止出来るのか！？

探し合い（後書き）

大量ハンター放出の危機！

逃走者達は、ハンターを4体のままにする事が出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！（前書き）

逃走者に課せられた、大量ハンター放出阻止のミッション。

この危機を乗り越えられるのか！？

ハンター放出阻止へ！

残り130分までに、ボックス横のレバーを2人同時に下ろさなければ、最大30体のハンターがエリアへ解き放たれる。

ドラコ「30体はヤバいつて・・・！これは止めとかないと・・・！」

せつな「ただハンターがいるから、それには十分注意しないと・・・」

エリアには4体のハンターが逃走者を搜索。動けば見つかる危険が高まる。

なのは「協力する相手が裏切り者だったら、酷い事になる・・・！」

ピット「迂闊^{うかつ}に出会えないな・・・」

更に、逃走者の中に裏切り者が潜んでいる為、下手に動けば通報される可能性も高くなる。

スバル「ここはやっぱり、ひかりに電話かな・・・？」

ピリリリリリ

ひかり「スバルさんから・・・はい、ひかりです」

スバル「ひかり？ミッションどうする？」

ひかり「当然行きます・・・！」

スバル「ホント？今何処？」

ひかり「今、フリーフォールの所です」

スバル「おっ、近い近い・・・！じゃあ、あたしがそっちに行くよ」

ひかり「分かりました・・・！ここで落ち合いましょう・・・！」

2人は電話を切った。

スバル「フリーフォール・・・」

エリオ「ここから行けそうだね・・・」

キャロ「ホントだ・・・」

偶然一緒にいたエリオとキャロ。2人でハンターの封印へと向かう事に。

・・・しかし・・・

裏切り者が、2人の姿を・・・捉えた・・・

???（裏切り者）「エリオ・モンディアルとキャロ・ル・ルシエ、西エリアのジェットコースター付近にいます・・・」

裏切り者の通報を受けたハンターが、2人の確保へと向かう。

キャラ「30体は絶対止めないと、誰も逃げられないもんね」

エリオ「そうだね・・・あんまり時間無いから急ごう・・・!」

キャラ「うん・・・!あつ、ハンターだ・・・!」

エリオ「えっ・・・!?不味い、こっちに逃げよう!」

近くまで迫ってきたハンターの姿を捉え、一目散に逃げる2人。

しかし・・・

キャラ「わっ!向こうからも来た!」

エリオ「嘘!?もうダメだ・・・逃げられないよ・・・!」

前方からも別のハンター・・・

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

挟まれた・・・

キャラ「どうするの?」

エリオ「もういいよ・・・キャラ、ボクが囷おとりになるからその間に逃げて!」

キャラ「ええ!?!」

エリオ「このままじゃ2人とも捕まっちゃうから!」

キャロ「う．．．うん、分かった．．．！」

エリオが、追って来る2体のハンターを引き寄せ、その間にキャロがエリオの許もとから離れていく。

キャロ「ゴメン、エリオ君．．．！」

囿おどろになったエリオは、2体のハンターから逃げられる筈が無い。最早、逃走不可能．．．

エリオ「．．．っ！」 ポンッ

>i17392—2096<

エリオ「しょうがない．．．これはしょうがないよ．．．」

キャロ「ホントにゴメン、エリオ君．．．！エリオ君の分も頑張るから．．．！」

プルルルル プルル

奏「またメール．．．確保情報．．．」

ワリオ「また裏切り者かよ．．．！？『裏切り者の通報により』．．．」

ルルー「『ジェットコースター付近にて、エリオ・モンディアル確保』．．．」

せつな「『残り24人』・・・裏切り者は、これで5人を確保に陥れた訳ね・・・！」

シエゾ「誰なんだよ、ホントに・・・！そんなに脱落になったのが腹立つのか・・・？」

くるみ「偽善者02に次いで偽善者08ゼロエイトも捕まった・・・」

はやて「アカンわ・・・」

スバル「いた、いた・・・！ひかり」

ひかり「スバルさん・・・！」

ひかりの許もとに到着したスバル。これより2人は、ハンターボックスを探す為に、行動を共にする。

ラフィーナ「あら？」

何かを見つけたラフィーナ。

ラフィーナ「これじゃない、ハンターボックスって・・・！」

偶然ハンターボックスを見つけた。しかし、封印するにはもう1人の協力が必要だ。

ラフィーナ「誰かに来てもらわないと・・・でも、誰も信用出来ないわ・・・！」

誰に電話を掛けるか迷っている様だ。

ひかり「あれじゃないですか？」

スバル「ホントだ・・・！あつた、あつた・・・！」

2人もハンターボックスを発見。

スバル「じゃあ、そっちのレバーお願いね」

ひかり「はい」

ひかり・スバル「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろそうとした。

しかし・・・

スバル「あれ！？何これ！？レバー下がらないんだけど！？」

ひかり「こっちもです！ロックされたみたいにな、ビクともしません
！」

封印する為のレバーが動かない。これは一体、どういう事なのか。

その時、スバルがレバーの近くに何かを見つけた。

スバル「何だこれ？」

ひかり「どうしました？」

スバル「なんか・・・テンキーみたいなボタンがあるんだよ・・・」

ひかり「あっ・・・！私の所にもありますよ」

レバーを動かせるようにする為には、左右異なる暗証番号を入力してレバーのロックを解除しなければならない。暗証番号は従業員しか知らない為、彼等に聞かなければならない。

しかし、その事に気付かなければ、ハンターボックスを封印する事は出来ない。

アルル「あつた！」

別の場所でハンターボックスを発見したアルル。しかし、1人ではハンターを封印出来ない。

アルル「響に電話してみようかな？」

ピリリリリリ

響「ん・・・？アルルだ・・・はいよ」

アルル「響？今何処にいるの？」

響「えっ・・・？何でそんな事聞くの？」

アルル「コーヒークップの近くにハンターボックスを見つけたんだよ」

響「マジで？あつ、すぐ近くだ・・・！じゃあ、ちょっと待ってて。」

すぐ行くから」

アルル「OK・・・！」

2人は電話を切った。

アルル「ここ阻止したら、あと5つ6つ行けそうだね・・・！」

ミッションに動くものが多い中、この者達は・・・

ティアナ「誰も封印しないからさ・・・このままじゃ動くに動けな
いって・・・」

ワリオ「ハッキリ言って、動かないのは性に合わんが・・・」

シグ「ここでじっとしてよ・・・」

全ては金の為・・・

クルーク「おお・・・もう20万円超えてる・・・！じゃっ、そろ
そろ自首しに行こうかな・・・？」

自首に動こうとするクルーク。

しかし、その近くにハンター・・・

クルーク「1番近い公衆電話は・・・メリーゴーランド辺りか・・・
よしっ、行こう・・・！・・・ってハンター！？」

見つかった・・・

クルーク「何でこんな時に！最悪だ〜！」

悲鳴に近い声を上げながら一目散に逃げるクルーク。しかし、その距離はどんどん縮まる。最早、逃走不可能・・・

クルーク「ニヤホ〜！」 ポンッ

> i 1 7 3 9 3 — 2 0 9 6 <

クルーク「速い・・・何だよ、あの尋常じゃない速さ・・・くそ〜、何で自首しようとした瞬間にハンターが・・・信じられないよ・・・」

自首ならず・・・

ウィッチ「クルークが捕まりましたわ・・・」

マリオ「アホだあいつ・・・！多分自首しようとして捕まってるよ・・・！」

スバル「あっ！すみません！」

暗証番号の獲得の方法が分からずにいたひかりとスバル。近くを通り掛かった従業員に声を掛ける。

従業員「はい」

ひかり「あれ？この人・・・マリオさんの弟のルイージさんじゃ・・・」

スバル「えっ？あつ、ホントだ！」

従業員（ルイージ）「ルイージ？どなたですか、それ？」

スバル「そ．．．そんな事より．．．あの、この左右のレバーの暗証番号を教えてほしいんですけど．．．」

従業員（ルイージ）「左が５７３で、右が１０９です」

ひかり「有難う御座います！」

２人は教えてもらった暗証番号を入力する。すると、レバーに付いている小さなモニターに『RELEASE』の文字が浮かび上がった。

スバル「これで今度こそ大丈夫だね？」

ひかり「大丈夫でしょう」

ひかり・スバル「せーの．．．」

２人は左右のレバーを下ろす。

スバル「よしっ！まずは１体！」

ひかり「きつと近くにいくつかハンターボックスがある筈です。行きましょー！」

スバル「OK！」

2人は危険を顧みず、別のボックスを探す。

ラフィーナ「何で掛けた人が皆消極的なよ・・・！？考えられない・・・！」

ミッシヨンの誘いの電話を掛け続けているラフィーナ。

その近くに黒い影・・・

ラフィーナ「こんな所にいつまでもいたら、絶対ハンター来る・・・って言った傍から!？」

見つかった・・・

ピーーーーー

ラフィーナ「こんな時に捕まるなんて・・・絶対認めないわ！」

一目散に逃げるラフィーナ。自慢の足を活かしハンターを撒いた様だ。

ラフィーナ「また探さないと・・・」

ハンターに追われ、思う様に動けない。

アルル「響・・・!こつちこつち・・・!」

響「やっと会えた・・・!」

漸く出会えたアルルと響。

響「これか・・・」

アルル「そつちお願い！」

響「了解！」

アルル・響「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろそうとする。

響「あれ！？」

アルル「動かない！？」

響「何で！？おかしいよ！」

ロックされたレバーに困惑する2人。

その近くにハンター・・・

アルル「何で動かないの！？」

響「分かんないよ、そんな事・・・ヤバイ、ハンターだ！」

アルル「ええゝ！？」

見つかった・・・

一目散に逃げる2人。しかし、ハンターに追われてお互いバラバラに・・・

ハンターは2人を見失った様だ。

響「最悪・・・！せつかく会えたのに・・・逸れた・・・！」
はぐ

その頃、ひかりとスバルは別のハンターボックスを発見。運がいい事に、そこには3つのボックスが固まって置かれていた。

ひかり「ラッキーですね・・・！」

スバル「早く処理しちゃおう・・・！」

2人は、先程教えられた暗証番号を入力し、レバーを下ろす。これで、3体のハンターが封印された。

そこへ、ハンターに追われたアルルが姿を現した。

アルル「こんな所にもボックスが・・・！」

ひかり「アルルさん・・・！」

アルル「ひかりにスバルじゃない・・・！もうやったの？」

ひかり「やりました・・・！あつ、アルルさん・・・暗証番号って知ってます？」

アルル「暗証番号？」

スバル「レバーを下ろすには暗証番号が必要なんだよ。それで、左が573で右が109なんだよ」

アルル「左が573で右が109？有難う！早速響に教えよう！」

ピリリリリリ

響「アルルだ・・・！はい」

アルル「響？レバー下ろせなかった原因が分かったよ」

響「何？」

アルル「暗証番号を入れないとダメらしいんだよ。それで、左が573で右が109なんだって」

響「そうなんだ・・・有難う！」

アルル「誰か見かけたら教えてあげて。そして、その人と一緒にやって」

響「分かった！」

2人は電話を切った。

響「573と109・・・誰か近くにいないかな？」

はやて「アカン・・・！早よせなハンターがいつぱい出てまう・・・！」

大量ハンターの放出に焦るはやて。そこへ・・・

せつな「はやてさん！」

せつなが現れた。

はやて「せつなちゃん・・・ミッションやるんか？」

せつな「やりましょうよ・・・！このままじゃ、皆捕まりますし・・・！」

はやて「せやな・・・行くしかないな・・・！」

ハンターボックスを探す2人。しかし、2人は暗証番号を入力しなければクリア出来ない事を知らない。

くるみ「誰かいないかしら、信じられる人・・・」

ミッションの相手を探すくるみ。その近くに・・・

奏「くるみさん？」

くるみ「わっ！か・・・奏・・・」

奏だ・・・

奏「くるみさん、ハンターボックス封印行く？」

くるみ「行かないと不味いでしょ・・・！」

奏「ハンターと裏切り者に注意して行きましょう……！」

2人も共に行動する。

アミティ「早くしないと、ハンターが……！」

果敢にもミッションに向かうアミティ。その近くに……

???（裏切り者）「アミティ、南エリアの大型ブランコ付近にいます……」

裏切り者だ……

通報を受けたハンターが、アミティに迫る。

アミティ「協力してくれそうな人……誰かな……？裏切り者じゃなさそうな人……うーん、思い浮かばない……えっ……？嘘でしょ!？」

ハンターの姿を捉え、一目散に逃げるアミティ。

アミティ「ヤバ〜い!うわぁ!こっちからも来た〜！」

逃げた先にもハンター……アミティとの距離が徐々に詰められていく。

アミティ「ハンター多過ぎるよ〜！」

尚も逃げ続けるアミティ。しかし、3体に囲まれ万事休す。最早、逃走不可能……

アミティ「うわあゝ！」 ポンッ

> i 1 7 3 9 4 — 2 0 9 6 <

アミティ「悔しいゝ．．．！もう少し逃げたかったよゝ．．．！」

シグ「ああゝ．．．アミティ捕まったゝ．．．」

ピット「また裏切り者．．．！？」

キャラ「もう9人も捕まってるじゃん．．．！」

この間、ひかりとスバルは4つのハンターボックスの封印に成功。

ひかり「封印されていないの、いくつなんでしょうか？」

スバル「分かんない．．．他の人がやってくれてる事を信じよう．．．！」

ひかり「はい．．．！」

響「誰かいないかな．．．？あつ、あの人って．．．」

響が見つけた人物。それは．．．

響「なのはさん！」

高町なのはだ．．．

なのは「響ちゃん?」

響「ミッションやりましょう!」

なのは「私も丁度やろうと思ってたところ・・・でも相手がいなかったもんだから・・・」

響「一緒に行きましょう。それと、暗証番号教えておきますね」

なのは「暗証番号?何でそんな物を?」

響「暗証番号を入れないと、レバーが下ろせないんですよ。それで、左が573で右が109なんですよ。さっきアルルから聞きました」

なのは「573と109ね・・・!もう結構時間経ってるから急ごう!」

響「はい!」

アルル「あっ・・・!誰がいる・・・!」

アルルも誰かを見つけた。

トウーン「どうしたらいいんだろう?」

トウーンリンクだ・・・

彼はハンターボックスの近くで、相手を探していた様だ。

アルル「トウーン!」

トウーン「アルル！」

アルル「ボックスあるね」

トウーン「うん・・・ただ相手がいないもんだからどうしようかと思つて・・・」

アルル「暗証番号入れないと」

トウーン「えっ？」

アルル「番号を入れないとレバー下ろせないんだよ。えっと・・・左が573・・・右が109・・・つと！」

トウーン「おお！すごい！」

アルル「早くそつちお願い！」

トウーン「はいよ！」

アルル・トウーン「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

トウーン「これでOK？」

アルル「OK！次行こう！」

この間に、ひかりとスバルのペアは3つ、響となのはのペアは2つ

のボックスの封印に成功。

現在、ハンターボックスの封印に向かっているのは、ひかりとスバル・響となのは・せつなとはやて・くるみと奏・アルルとトゥーンリンクの5組。ボックスは14個が封印された。

ハンター放出まで、およそ6分。

このまま全てのボックスを封印出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！（後書き）

次回、ミッション2が終了！

5組の逃走者達は、残る16個のハンターボックスを封印出来るのか！？

ミッション2終了！（前書き）

ハンター放出まで、残り6分

逃走者達は、残る16個のボックスを全て封印出来るのか！？

ミッション2終了!

現在、ハンターボックスの封印に向かっているのは、ひかりとスバル・響となのは・せつなとはやて・くるみと奏・アルルとトゥーンリンクの5組。

残り130分までに、16個のハンターボックスを封印出来なければ、封印されなかったボックスからハンターが放出される。

響「南エリアの方、誰も行ってないんでしょうか？」

なのは「分からない・・・」

トゥーン「あと時間どのくらい？」

アルル「えっと・・・あと5分半しか無い・・・!」

トゥーン「嘘・・・!？」

奏「あつた・・・!これでしょ、ハンターボックスって」

くるみ「そう、そう」

ハンターボックスを見つけたくるみと奏。しかし、彼女達はレバーを下ろすのに暗証番号が必要である事をまだ知らない。

くるみ「早く下ろした方がいいでしょ？」

奏「そうね・・・あつ、待って・・・!ハンターが近付いて来てる・

・・・！」

くるみ「嘘・・・！？こんな時に・・・！？」

遠くにハンターを見た2人は、一目散に逃げる。ハンターは気付いていない様だ。

しかし、思い思いの方向に逃げてしまい、2人は散り散りになってしまった・・・

・・・その時・・・

裏切り者が、逃げる奏の姿を・・・見た・・・

???（裏切り者）「南野 奏、北エリアの観覧車付近にいます・・・」

通報を受けたハンターが、奏に迫る。

ティアナ「さつき、くるみと奏の声が聞こえた・・・絶対どっかが裏切り者だ・・・！ほら、ハンターが何かを嗅ぎ付けた様に走ったもん・・・タイミング良過ぎるでしょ・・・？」

近くに潜んでいたティアナ。ハンターが走る姿を見て、疑惑の念を更に強める。

奏「何でこういう時にハンターが来るのよ・・・！？くるみさん、大丈夫かしら・・・？」

他人の心配をしている場合では・・・ない・・・

ハンター放出まで 5分

ティアナ「捕まらなかった方が裏切り者だって・・・あたしは8割9割断定する・・・！」

奏「すぐに合流しないと・・・って来た〜！」

ハンターに見つかった奏。一目散に逃げる。

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

奏「いや〜！助けて〜！」

悲鳴を上げながら逃げ続ける奏。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

奏「ああっ！」 ポンツ

> i 1 7 6 2 8 — 2 0 9 6 <

奏「ええ〜・・・！？嘘〜・・・ハンター速過ぎる・・・！全然振り切れない・・・！」

プルルルル プルル

フェーリ「また確保情報・・・？」

マリオ「『裏切り者の通報により』・・・」

キヤロ「『北エリアの観覧車付近にて、南野 奏確保』……！」

響「ええ〜！？奏〜！」

ルル「また裏切り者……！」

ティアナ「来た……！くるみだ……！くるみが裏切り者だ……！」

奏「『裏切り者の通報』だって……完全にくるみさんでしょ、裏切り者……！」

ひかり「ありました……！2つありますね」

スバル「さつさと封印しよう……！」

ひかり「はい！」

2つのハンターボックスを見つけたひかりとスバル。暗証番号を入力してレバーを下ろし、ハンター2体の封印に成功。

響となのはも2つのボックスを封印。

アルルとトゥーンリンクも1つ封印させる事が出来た。

はやて「これや！」

せつな「やつと見つけた……！」

漸くハンターボックスを見つけたせつなとはやて。しかし、暗証番

号を入力してロックを解除しなければレバーを動かす事は出来ない。

ハンター放出まで 4分

せつな「このままレバーを同時の下ろせばいいんですね？」

はやて「あれ？ちょっと待って」

せつな「どうしました？」

はやて「なんか・・・テンキーみたいなのがレバーの横に付いてるんやけど・・・」

せつな「あっ・・・こつちにもあります」

はやて「若しかして、番号入れないと動かへんとちゃう？」

せつな「番号？そんなの知らないですよ・・・ひょっとして、係員さんだったら分かるんじゃないでしょうか？」

はやて「なるほど・・・！近くにおれへんかな、係員」

2人は暗証番号を知っている従業員を探す事に。

ドラコ「不味い・・・！時間無いよ・・・！」

果敢にミッションに挑むドラコケンタウロス。しかし、肝心のハンターボックスが見つからない。

そこへ、裏切り者の疑いが一気に強まったくるみが姿を現した。

ドラコ「ん・・・？くるみ・・・？」

くるみ「あんた・・・確かドラコだっけ・・・？ミッションやるの・・・？」

ドラコ「やるに決まってるじゃん・・・！30体だよ・・・！？」

くるみ「さっきボックス何個が見かけたから、2人で戻りましょう・・・！」

ドラコ「OK、OK・・・！」

せつな「従業員さん・・・！」

せつなが従業員を見つけた。

せつな「すみません・・・！」

従業員「何でしょう？」

せつな「えっ・・・？この人・・・誰だっけ・・・？」

はやて「この人・・・『ゼルダの伝説』や『スマブラ』に出てるリンク君や無いの？」

せつな「リンク・・・ああ！ホントだ！」

従業員（リンク）「リンク？誰の事ですか？」

せつな「あ・・・あの・・・あのボックスの左右にあるレバーの番号を教えてほしいんです・・・」

はやて「早よう教えて・・・！時間無いねんって・・・！」

従業員（リンク）「左が573で、右が109です」

せつな「有難う御座います！」

2人はボックスに戻り、教えてもらった暗証番号を入力する。

せつな・はやて「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ハンター放出まで 3分

はやて「これでOKかな！」

せつな「あと3分切りました！」

はやて「ホンマに！？急がな！」

2人はそのまま別のボックスを探す。

この間に、暗証番号を既に知っている3ペアは1つずつボックスの封印に成功。

これで、ハンターボックスはあと7つ・・・

ドラコ「何処？」

くるみ「あれ、あれ・・・！」

ハンターボックスを見つけたくるみとドラコ。しかし、2人ともレバーのロックを解除する番号を知らない。

くるみ「じゃあ、そっちのレバーお願いね」

ドラコ「OK！」

くるみ・ドラコ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろそうとした。

くるみ「ええ！？何これ！？動かないんだけど！」

ドラコ「こっちも！どうすんの！？封印出来ないじゃん！」

くるみ「どうすんのかって言われたって・・・あつ、ちょっとそのあんた」

くるみが近くを通り掛かった従業員に声を掛ける。

従業員「はい」

くるみ「あら・・・？この人・・・見た事ある・・・」

ドラコ「マルスじゃん！『ファイアーエムブレム』や『スマブラ』に出てる・・・！」

くるみ「マルス・・・？ホント！何で従業員の格好なんかしてんのよ？」

従業員（マルス）「マル・・・はて、それは一体誰ですか？」

くるみ「下らない話はさて置いて・・・あのさ、このボックスのレバー動かないんだけど・・・どうしたらいいの？」

従業員（マルス）「それ・・・左右それぞれに違う暗証番号を入力しないと動かない仕組みになってるんです。悪戯防止^{いたずら}の為に・・・」

ドラコ「じゃあ、その番号教えてよ。このままじゃハンターが出ちやうからさ」

従業員（マルス）「分かりました・・・左が573で、右が109です」

くるみ「573と109ね・・・」

ハンター放出まで 2分

2人は教えてもらった暗証番号を入力する。

ドラコ「ホントだ、『RELEASE』って出た・・・これ解除されたって考えていいんだよね？」

くるみ「そうでしょうね」

ドラコ「じゃあ、さっさと下ろそう」

くるみ・ドラコ「せーの・・・」

2人は左右のレバーを下ろす。

ドラコ「OK・・・！封印した・・・！」

くるみ「不味いわ・・・！もう2分切ってる・・・！急いだ方がいいわね・・・！」

ラフィーナ「見つけたボックス全部封印されてる・・・封印されていないのが全然見つからない・・・おまけに相手も見つけられない・・・」

1人でハンターボックスを探すラフィーナ。

その姿を裏切り者が・・・捉えた・・・

???（裏切り者）「ラフィーナ、中央エリアの巨大観覧車付近にいます・・・」

通報を受けた4体のハンターが、ラフィーナの確保へ動く。

ラフィーナ「誰もがミッションに非協力的なのが納得いかないわ・・・！30体増える事がどういう事なのか、分かっているのかしら・・・？ん・・・？あれハンター・・・？こつち来てるじゃない！」

ハンター放出まで 1分30秒

追って来るハンターを見つけたラフィーナ。一目散に逃げる。

ラフィーナ「こんな所で、捕まりたくないか・・・ってこっちから
もー!?」

逃げた先に別のハンター・・・

ラフィーナ「こっちがダメならこっちに・・・あぁっ!」

・
彼女は方向転換しようとして転んでしまった。最早、逃走不可能・

ラフィーナ「・・・」 ポンツ

> i 1 7 6 2 9 — 2 0 9 6 <

ラフィーナ「ここで終わりだなんて・・・何かの間違いよ・・・!」

ブルルルル プルル

シェゾ「またか・・・?」

ピット「『裏切り者の通報により、巨大観覧車付近にて』・・・」

ルルー「『ラフィーナ確保、残り20人』・・・また裏切り者が・
・!」

ワリオ「ちょっと待てよ・・・こいつもう8人通報してるのか・・・
?という事は、80万円プラスされて・・・はあ!?こいつ、もう
100万円以上稼いでんのか・・・!?どれだけ金で人を売るんだ
よ、こいつは・・・!」

ハンター放出まで 1分

このままでは6体のハンターが放出され、合計10体となってしまう。

スバル「これだ、これだ！」

ひかり「何とか間に合いました！」

ハンターボックスを見つけた2人。暗証番号を入力し、レバーを下ろす。

スバル「もうこれで終わりかな、この辺りは？」

ひかり「みたいですね・・・残りは、誰かがやってくれるのを祈りましょう」

響「あつた！」

なのは「これが最後だね。もう45秒だし・・・」

響となのはもハンターボックスを見つけ、暗証番号を入力した後レバーを下ろす。

なのは「皆頑張って・・・！」

響「残り全部封印して・・・！」

アルル「見つけた！」

トウーン「ギリギリだ・・・！」

> i 1 7 6 3 1 — 2 0 9 6 <

アルルとトウーンリンク、ハンターボックスを発見。すぐに暗証番号を入力し、レバーを下ろす。

アルル「もうこれで、ボク達の仕事は納め時だね・・・」

トウーン「もう20秒か・・・」

せつな「間に合った！」

はやて「早よう番号入れよう！」

2人も急いで暗証番号を入力してロックを解除し、レバーを下ろした。

せつな「間に合った・・・良かった・・・」

はやて「他の皆、大丈夫かな・・・？」

ドラコ「あつ、もう無理だ・・・！10秒切ってる・・・！」

くるみ「嘘・・・！？あのボックスからは離れた方がいいわね・・・！」

ドラコ「逃げよう・・・！」

そして、封印されなかった2つのボックスからハンターが放出。その数は合計6体となった。

プルルルル プルル

マリオ「頼む・・・！」

ウィッチ「ええ！？『ミッション失敗』！？」

ティアナ「『2つボックスからハンターが放たれ、合計6体となった』・・・！6体・・・！？」

ピット「まあ・・・30体も出てくるよりは全然マシな方だね・・・」

フェーリ「6体・・・そんなに対して変わっていないと思うけど・・・」

なのは「何とか逃げたいな、6体から・・・あれ・・・？」

なのはが、こちらに向かって歩いてくる観客を見て疑問の声を上げた。

なのは「えっ・・・？嘘・・・だよね・・・？」

観客「な・・・何がですか・・・？」

なのは「君・・・リュカ君の知り合いの・・・ネス君・・・だよね・・・？」

ネス「そうですよ」

なのは「な．．．何でこんな深夜に遊園地に来てるの．．．？」

ネス「だって、この遊園地深夜に開くって聞いたんで．．．それで、少し遊んでみようかなって思ってた」

なのは「それで．．．来ちゃったって事．．．？」

ネス「そうですね．．．まあ、ボクの友達のパーラとジェフとプーも来てるみたいなんで．．．この後待ち合わせしてるんですよ」

なのは「そうなんだ．．．」

ネス「はい．．．じゃあ、この辺で失礼します」

そう言うのと、ネスはなのはの許^{もと}から去っていった。

なのは「へ．．．あんな子でも深夜に遊園地に遊びに来る事あるんだ．．．」

くるみ「えっ．．．？ちよつと待って、あれ誰．．．？えっ．．．ん．．．ええ．．．！？うわっ、最悪．．．」

くるみが見た3人の人物、それは．．．

くるみ「偽善者03の付き人じゃない．．．何だっけ、あの人達．．．名前忘れちゃった．．．ヴォルケーノとか付くんじゃなかったっけ．．．？そういう組織．．．」

ヴォルケンリッターのシグナム・ヴィータ・シャルダ・・・

くるみ「何で偽善者04と05と10が^{ゼロフォー　ゼロファイブ　ワンゼロ}ここに來てるのよ・・・！
？ホント最悪・・・！」

何処までも機動六課の者を嫌うくるみ・・・

その3人に近付くのは・・・

ひかり「あれ？あの人達って・・・確かスバルさんの上司・・・上司じゃないか・・・シグナムさんとヴィータさんとシャルさんだよね・・・？」

九条ひかりだ・・・

ひかり「こんばんは」

ヴィータ「ああ？お前は？」

ひかり「あつ・・・私、九条ひかりと申します。初めまして」

礼儀正しく挨拶を交わす。

シャル「ひかりさん・・・でしたっけ・・・？その格好は・・・？」

ひかり「やっぱり目立ちますよね・・・？私、今逃走中っていうゲームに参加してハンターから逃げてるんです」

ヴィータ「ちよつと待て・・・逃走中ってまさか・・・！」

ひかり「知ってるんですか？」

シグナム「知ってるも何も、主はやてが参加すると報告してきたもんだからな・・・」

ひかり「そうだったんですか・・・はやてさんはまだ逃げてると思います。まだ確保情報で名前が出てきて無かった筈ですから」

シグナム「そうか・・・」

ひかり「じゃあ、ハンター来そうなんで、私はそろそろお暇いとまします。それでは」

シャマル「頑張ってくださいね」

ひかり「有難う御座います！」

ひかりはヴォルケンリッターの3人の許もとから去る。

ヴィータ「しかし、あのひかりがまた参戦するとはな・・・あたしも出てみたいもんだ・・・！」

どうやら3人は、ひかりが再参戦しているのを何故か知っていた様だ。

シグ「もう30万円か・・・そろそろ自首しよう・・・」

自首を決意したシグ。しかし、その背後からハンター・・・

シグ「ハンターには気を付けないと・・・あつ、来てる・・・」

ハンターに気付き、移動するシグ。幸い、ハンターには気付かれていない様だ。

彼が逃げる先にピットの姿が・・・

シグ「ハンター来てるよ・・・」

ピット「嘘・・・!？」

釣られて逃げるピット。2人は別方向へと逃げていく。

ピット「シグ、まさか電話してないだろうね・・・ボク一応シグに入れたからな、さっきの投票で・・・」

シグ「あつ、電話ボックスだ・・・自首、自首・・・」

電話ボックスへ駆け込むシグ。しかし・・・

シグ「あつ・・・」

突如目の前にハンターが現れた。最早、逃走不可能・・・

シグ「・・・」 ポンツ

> i 1 7 6 3 0 — 2 0 9 6 <

シグ「うへ・・・」

秒殺だ・・・

アルル「シグも捕まった・・・！うわぁ、新しい主人公達が皆捕まった・・・！」

マリオ「こいつもまた、自首しようとして捕まったんじゃないのか・・・？」

ウィッチ「残り人数が20人を切りましたわ・・・」

キャロ「捕まるペースが早過ぎる・・・！」

響「まさか・・・皆捕まっちゃうんじゃないの・・・？」

スバル「それだけはヤダな・・・」

現在、エリアには6体のハンター。逃走者達はハンターと出会う確率が高くなっている。

次に捕まってしまうのは・・・誰だ・・・？

ミッション2終了！（後書き）

残る逃走者は、アルル・シェゾ・ルルー・フェーリ・ウィッチ・ドラコ・マリオ・ワリオ・トゥーン・ピット・ひかり・くるみ・せつな・響・なのは・はやて・スバル・ティアナ・キャロの19人

そして次回、遂に謎の集団が遊園地を乗っ取る為、行動を起こす！

更に、謎の存在も逃走者達を更に苦しめる！？

遊園地と逃走者に迫る危機（前書き）

今回は、いつもより短めになると思いますがご了承ください。

謎の集団が、遂に遊園地を乗っ取りに動き出す！

そして、謎の存在も・・・！？

遊園地と逃走者に迫る危機

牢獄

レムレス「来たね」

先程確保されたシグが牢獄にやって来た。

シグ「もう・・・悔しいよ・・・」

そう呟きながら、彼は入獄する。

アミティ「結局、新ぶよぶよのメンバーは殆ど捕まっちゃったね・・・」

ラフィーナ「しかも裏切り者の通報だなんて・・・屈辱よ！」

リデル「皆さんは・・・誰に入れたんですか・・・？あの投票で・・・」

エリオ「ボクはレッドさんに入れたんだけど、レッドさん裏切り者のせいでここにいるし・・・知らない情報だよね？」

ゆり「私もレッドに入れたわ・・・でも違うとなったら、一体誰なのかしら・・・？」

レッド「俺だってラフィーナに入れたけど、全然当てにならない情報だもんね・・・」

ラフィーナ「そんな事言ったら、私の情報だつて……クルークに入れた訳だし……」

アミティ「あたしも実はクルークに入れたんだよ……」

クルーク「何で2票も入ってるんだ、ボクは……！そんなに信用出来ないの……？」

ラフィーナ「勿論！^{もちろん}」

フェイト「そう言うクルーク君は誰に入れたの？」

クルーク「はやてって人だよ」

リュカ「意外な人に入れたね……」

シグ「ボクはワリオって人に入れた……」

奏「私はマリオって人に入れたけど、捕まる直前にくるみさんに会ったから……くるみさんじゃない？」

レムレス「12人も捕まってるのに、知らない情報が多過ぎて、結局少量しか得られなかったね……」

ゆり「でもメールを見る限り、裏切り者によって捕まってる人の位置が結構散らばってるのよね……」

エリオ「散らばってる？……と言うのは？」

ゆり「裏切り者は、1ヶ所に来る逃走者を待ち構えてるんじゃないく

て・・・」

ラフィーナ「自分自身で逃走者を探し回ってるって事ね・・・！」

リデル「すごい行動的ですよね・・・」

奏「行動的となると・・・結構運動神経いい人が裏切り者である可能性は高いわね・・・」

レッド「そう考えたら、やっぱりくるみって奴が怪しいよな」

シグ「マリオも疑わしい・・・」

アミティ「響って人じゃない？」

リュカ「意外となのはって人だとか・・・」

レムレス「どのみち、もう少し様子を見ないと分からないって事が・・・」

フェイト「それにしても・・・なんか捕まっていくスピード速くない？」

リデル「な・・・何ですか・・・？」

フェイト「だって、もうすぐで60分経つ頃なのに12人も捕まってるって・・・」

ゆり「統計的に考えたら、全滅の線が濃厚ね・・・」

クルーク「全滅か．．．それはヤダな．．．ハンターに負けた感じがして．．．」

ラフィーナ「そんなの、絶対認めたくないわ！私達がハンターに敗れるなんて．．．！」

奏「誰でもいいから逃げ切ってほしいわ．．．！」

エリオ「裏切り者には、逃げ切ってほしくないけどな．．．！」

リュカ「そりやそうでしょ．．．だって、今の時点で110万円以上も稼いでるんだから．．．」

レッド「早く捕まれ、裏切り者．．．！」

> i 1 7 7 9 0 — 2 0 9 6 <

遊園地での逃走中．．．

ゲーム開始60分が経過。残り時間は120分．．．

現在エリアには19人の逃走者と、それを追う6体のハンター。

更に、逃走者の中に1人の裏切り者が潜んでいる。

ピリリリリリ

くるみ「電話．．．？ええ．．．？偽善者07ゼロセブンから．．．」

偽善者07とは……？
ゼロセブン

くるみ「何よ？」

ティアナ「くるみ……？とうとう尻尾を出したわね……！」

くるみ「どういう意味よ、それ？」

ティアナ「言い逃れしたって無駄よ……！あたしには全部分かつ
てるんだから……！」

くるみ「何の事よ？」

ティアナ「あんたなんでしょ、裏切り者……！」

くるみ「何よ、その口……！あたしが裏切り者な訳無いじゃない・
……！」

ティアナ「あんたが奏って人を密告したんでしょ……？陰から見
てたわよ……！」

くるみ「どうやって別れて逃げた奏を密告出来るのよ、私が……
！？」

ティアナ「一緒に行動してれば、そんなの簡単でしょ……？」

くるみ「……もう切る」

ピッ

くるみは一方的に電話を切った。

くるみ「気分悪い・・・！何処まであの人は偽善者ぶってんのよ・・・！？」

ティアナ「完全に痺れを切らした・・・絶対くるみだ・・・！」

互いに疑心暗鬼になる2人。

トウーン「6体は厳しいやな・・・」

エリアを彷徨さまようトウーンリンク。

背後からハンター・・・

トウーン「エリアが広くなっても、ハンター増えたら一緒じゃん・・・あれ・・・？あれハンターじゃん・・・！ヤバい・・・！」

迫るハンターに気付き、一目散に逃げるトウーンリンク。彼が逃げる先に・・・

ワリオ「ここまで逃げてるのは、奇跡に近いな・・・」

ワリオだ・・・

ワリオ「ん・・・？今トウーンが通ったぞ・・・なっ・・・！？ハンターじゃねえか・・・！こっちに向かって来てる・・・！」

ハンターに見つかる前に移動するワリオ。

しかし、ハンターは2人には気付いていない様だ。

ワリオ「くそ……裏切り者が近くにいるかもしれないと思うと、全く動けん……！」

響「厄介だな、ハンター6体とか……裏切り者が1番厄介……！」

ここまで、全てのミッションに参加している響。彼女の視線の先に……

ひかり「響さんだ……」

響と同じく、全てのミッションに参加してきているひかりの姿……

響「ひかり？裏切り者じゃないよね？あたし違うよ」

ひかり「私も絶対違います！」

己の潔白をアピールする2人。

ひかり「響さん、あの投票誰に入れたんですか？」

響「あたし？マリオって人……はやてさんにも電話越しに教えた」

ひかり「響さんもですか……！？」

響「えっ……？ど……どういう事？」

ひかり「私もマリオさんに入れたんですよ・・・それで、結構前にはやてさんから電話が来て、その事を教えたら、マリオさんに3票入ってるらしいんですよ」

響「マジで・・・！？マリオって人、怪しいね・・・」

ひかり「マリオさんが裏切り者である確率は、かなり高いでしょうね・・・」

3票入っており、裏切り者の可能性が高い・・・

マリオ「結構少なくなってきたしな・・・」

マリオ・・・

マリオ「この後の展開、かなりヤバいかもしれないな・・・」

裏切り者の情報収集をし続けるのは・・・

はやて「あと誰やったっけ、聞いてへんの・・・？」

機動六課長、史上最強の魔導師・八神はやてだ・・・

ピリリリリリ

なのは「電話だ・・・！あつ、はやてちゃん・・・！もしもし？」

はやて「なのはちゃん？あのかな・・・さっきの投票、誰に入れたん？」

なのは「私は・・・マリオ君に・・・」

はやて「おお！マリオ君、これで4票入った・・・！」

なのは「4票も・・・！？それってまさか・・・」

ピッ

はやては一方的に電話を切った。

なのは「切られた・・・それが聞きたかっただけ、まさか・・・？」

スバル「マジで危険だよ、この遊園地・・・！」

ピリリリリリ

スバル「電話・・・？部隊長から・・・！お疲れ様です・・・！」

はやて「あのな・・・ちょっと聞きたい事あんなんだけど・・・」

スバル「はい・・・」

はやて「あの時の投票、誰に入れたん？」

スバル「あたし、くるみに入れました・・・」

はやて「ホンマに・・・？」

スバル「本当です・・・」

はやて「アカン．．．くるみちゃん3票入ってもうた．．．」

スバル「えっ．．．？3票．．．ですか．．．？」

はやて「まあ．．．とりあえずありがとな．．．」

スバル「はい．．．失礼します．．．」

2人は電話を切った。

はやて「ええ．．．？と言う事は．．．マリオ君とくるみちゃん
のどっちかつちゅう事が．．．？」

スバル「くるみに3票つて．．．危険性大じゃん．．．！」

くるみ「残ってる偽善者は．．．ゼロワン ゼロスリー ゼロシックス ゼロセブン ゼロナイン01と03と06と07と09．．．
この5人の中に絶対裏切り者がいる．．．！」

探り探られる．．．それが今回の逃走中だ．．．

フェーリ「もう動かない方がいいわね、ハンター増えてるし．．．」

ハンターが増え、弱気なフェーリ。

その近くに2体のハンター．．．

フェーリ「こんな見つかりやすい場所にいたら、すぐに追い掛けられて．．．つてゝ！？」

見つかった．．．

フェーリ「ちよつと・・・こんな時に追い掛けて来ないでよー！」

そつ叫びながら一目散に逃げるフェーリ。しかし・・・

フェーリ「ええ！？こんなの無しでしょ！？」

逃げた先にも別のハンター・・・

フェーリ「もう・・・しんど過ぎる・・・！」

尚も逃げ続けるフェーリ。しかし、その差は縮まっていくな一方。最早、逃走不可能・・・

フェーリ「きやうつ！」 ポンッ

> i 1 7 7 9 1 — 2 0 9 6 <

フェーリ「こ・・・こんな^は筈じゃ・・・」

新ぶよぷよメンバー、全滅・・・

プルルルル プルル

ルル「メール・・・また確保情報・・・！」

ドラコ「『フェーリ確保、残り18人』だつて・・・！」

キャロ「もう18人・・・」

ウィッチ「減るスピードが尋常じゃないですわ．．．！」

シェゾ「まさか、このまま全滅なんて事は．．．」

一方、謎の集団のアジトでは．．．

アルファ「戻って来たか．．．」

ベータとガンマが、遊園地の海底資源の調査から戻って来た．．．

ベータ「アルファ様、吉報で御座います．．．！」

ガンマ「遊園地の封鎖されていたエリアには、我々の予想をはるかに上回るほどの資源が貯蔵されておりました．．．！」

ベータ「そして現在、その封鎖されていたエリアは、何者かの手により誰でも入れる状況になっておりました．．．これは正に、またとないチャンスで御座います．．．！」

アルファ「ふふっ．．．面白い．．．！実に面白い．．．！ベータ！ガンマ！」

ベータ・ガンマ「はっ！」

アルファ「愈々いよいよ作戦実行だ．．．！」

ベータ・ガンマ「はっ！」

謎の集団が、遊園地の占領作戦を実行し始める！

謎の存在「・・・」

作戦の準備をする謎の集団をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには『RESET THE PRIZE』の文字が・・・

謎の存在は、それをタッチする・・・

その瞬間、開放された北エリアと南エリアに「賞金リセット装置」が・・・

東エリアと西エリアに「賞金単価減額装置」が設置された・・・

アルル「怖い・・・！」

プルルルル プルル

アルル「何・・・？」

メールだ・・・

アルル「不吉なメールっぽい・・・うわぁ・・・ミッション3・・・」

「せつな」「エリア内に賞金リセット装置と賞金単価減額装置が2台ずつ設置された」・・・」

「ワリオ」「残り100分になると、全員の賞金が0円からの再スタートとなり」・・・はあ!？」

「ピット」「それ以降の賞金単価も1秒50円となる」・・・!？減り過ぎでしょ、お金・・・!」

「キャロ」「阻止するには、それぞれの装置のレバーを2人で同時に下ろさなければならない」・・・」

「ルルー」「今度は離れてやらなきゃいけないって事・・・?」

MISSION? 賞金リセットと賞金単価減額を阻止せよ!

エリア内に2台ずつ設置された賞金リセット装置と賞金単価減額装置。残り100分になると賞金リセットされ、全員が0円からの再スタートとなり、それ以降の賞金単価も1秒100円から50円に減額される。阻止するには、それぞれの装置のレバーを2人で同時に下ろさなければならない。また、このミッションの結果は裏切り者にも影響する。

賞金単価減額装置だけ止められなければ、逃げ切った場合の賞金は78万円となり、裏切り者のボーナスも1人確保に付き5万円に減額される。

賞金リセット装置だけ止められなければ、逃げ切った場合の賞金は60万円となり、裏切り者がその時点で獲得したボーナスは全て消えてしまう。

両方とも止める事が出来なければ、逃げ切った場合の賞金は30万円となり、裏切り者はボーナスを失うだけでなく、それ以降のボーナスも5万円に減額されてしまう。

ワリオ「おい、おい、おい……！マジかよ……！金減るのかよ……！？」

マリオ「失敗したら大損だぞ、このミッション……！」

響「装置が置かれてるエリアって、さっき広げた所でいいのかな？」

せつな「連絡を取り合いながらじゃないと出来ないわね……」

はやて「離れた所にあるうちゅうのが曲者やな……」

スバル「裏切り者のお金は減ってほしいけど、そうするとあたし達のお金も減る訳だし……」

シェゾ「難しいところだな……」

エリアには6体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

また、逃走者の中に裏切り者が潜んでいる為、無闇に動けば命取りとなる。

賞金リセット及び賞金単価減額まで、およそ14分。

逃走者が選ぶのは、金か……それとも、身の安全か……！？

遊園地と逃走者に迫る危機（後書き）

発動された新ミッション！

逃走者達は、賞金を減らさずに済むのか！？

賞金リセット&mp・単価減額阻止へ！（前書き）

逃走者に課せられた新ミッション・・・

賞金の減額を止める事は出来るのか！？

賞金リセット&単価減額阻止へ！

残り100分になると、全員の賞金が0円からの再スタートとなり、それ以降の賞金単価も1秒100円から50円に減額される。

阻止するには、エリア内に設置されたそれぞれの装置のレバーを2人で同時に下ろさなければならない。

ワリオ「金が減るのは困る・・・！このミッションはやつとくか・・・」

金に目の無いメタボな社長・・・初めてのミッションへ向かう。

マリオ「どっちも止められなかったら30万円！？被害額78万円はでかいぞ・・・！よしっ・・・！とりあえず、リセット装置を止めに行くか」

マリオも賞金リセット阻止へと動く。

しかし、エリアでは6体のハンターが逃走者を搜索。動けばリスクも高い。

更に、裏切り者に位置情報を伝えられると、ハンターは一斉に確保へと動く。

ミッションへの参加は、常に危険が伴う。

スバル「あたし達のお金が減るのは確かに嫌だけど・・・単価減額装置に行こう・・・！リセットの方が止められなかったら、60万

円に減るけど、裏切り者のボーナスも0円になる訳だし・・・」

裏切り者にボーナスが支払われる事を阻止する為、スバルは賞金単価減額装置を目指す。

同じ考えを持った逃走者がもう1人・・・

アルル「最低でも単価減額装置は止めておきたいな・・・60万円も獲れば十分だもん」

魔導師の卵・アルル・ナジャだ・・・

アルル「裏切り者は、もう120万円も手にしてるんだよ・・・？
1人だけ100万円以上も持って帰るなんて、狡い事ずるこの上ないよ・・・！」

ルル「やっぱり、手始めにリセット装置を止めとくべきね・・・
単価が減っても、0円再スタートよりはマシな筈・・・！」

せつな「ここまで積み上げてきたお金が無くなるのは辛いわ・・・
リセットの方に行きましょう！」

ピット「誰かと連絡を取りながら行かないとな・・・とりあえず、
単価減額の方に行くか」

なのは「皆多分リセットの方に行くと思うから、単価減額の方に行く
こう・・・！」

ひかり「西の単価減額装置近い・・・！ここからすぐ行けそう・・・
！」

響「裏切り者・・・お金の事を考えて動いてるかもな・・・そこに注意を払って行かないと通報される・・・!」

続々とミッションクリアへと動く逃走者達。一方・・・

ティアナ「このミッション、殆ど^{ほんと}の人が止めに行ってる筈・・・だったら、あたし1人が行かなくても支障はない・・・だからこのままここにいる・・・!」

シエゾ「俺1人が行かなかったところで、誰かに迷惑が掛かる訳でもないしな・・・行かん・・・!絶対行かん・・・!」

ウィッチ「誰かがやってくれる筈ですわ・・・動いたらハンターや裏切り者に出くわしてしまうかもしれません・・・」

この3人は、ミッションに興味が無い様だ・・・

トウーン「こっちから行けば、北エリアすぐだ・・・!」

北エリアに設置された賞金リセット装置を目指すトウーンリンク。

しかし、彼が向かう先にハンター・・・

トウーン「お金減るのは誰だって嫌だもんね・・・ここはやっぱり止めとかないと・・・えっ・・・?ハンター来てるじゃん!」

見つかった・・・

トウーン「ヤバ〜い!」

ハンターに追われ、一目散に逃げるトゥーンリンク。逃げ切れるのか。

ピーーーーーー

トゥーン「来た〜!」

尚も逃げ続けるトゥーンリンク。しかし、ハンターは徐々に距離を詰めていく。最早、逃走不可能・・・

トゥーン「わぁー!」 ポンッ

> i 1 7 9 4 7 — 2 0 9 6 <

トゥーン「くそ〜・・・! 嘘だ〜・・・!」

ブルルルル プルル

ドラコ「またメール・・・? 最近多いな・・・」

キャラ「あつ・・・! 『トゥーンリンク確保、残り17人』・・・」

せつな「えっ・・・! ? 北エリアって、私が今向かってる所じゃん・・・!」

くるみ「何でさ・・・ハンターってミッションの近くに絶対いる訳・・・? 行きたくなるじゃない、こういう事になると・・・」

ひかり「これだ！賞金単価減額装置！」

西エリアの賞金単価減額装置を発見したひかり。

ひかり「これで東エリアの方に、もう1人来てくれればいいんだ・
・！誰が向かってるのかな・・？」

2台ずつある装置は、全て離れた位置にある為、逃走者同士の連携がクリアへの近道となる。

ひかり「やっぱりスバルさんかな・・？」

ピリリリリリ

スバル「おっ、ひかりからだ・・はい」

ひかり「スバルさん、ミッションやってます？」

スバル「当然！」

ひかり「今何処に向かってます？」

スバル「えつとね・・東エリアの単価減額装置・・。」

ひかり「あっ！丁度いい！今私、西エリアの単価減額装置の前にいるんですよ」

スバル「ホントに！？」

ひかり「はい」

スバル「OK、分かった！着いたらまた連絡するよ！それで『せーの』で下ろそう！」

ひかり「了解しました！」

2人は電話を切った。

ゲーム開始から、共にミッションをこなしているひかりとスバル。ここでも息を合わせられるか。

スバル「よしっ、急ごう……！」

ルル「南のリセット装置……そのままっすぐ行けばすぐね……！」

南エリアの賞金リセット装置を目指しているルル。

前方からハンター……

ルル「やっぱり、もらえるお金は多いに越した事はないから……ってハンター！？」

見つかった……

ルル「何でこういう時に限ってハンターが来るのよ……！」

愚痴を零しながら一目散に逃げるルル。

驚異的な脚力を生かし、ハンターの追跡をかわした。

ルル「ハンターが鬱陶^{うつとう}しいわ・・・！あと数分待たきゃいけないなんて・・・！」

ハンターに追われ、思う様に近付けない。

ひかり「スバルさん、大丈夫かな・・・？」

スバルからの連絡を待つひかり。その近くに・・・

ひかり「わっ！」

アルル「うわっ！吃驚^{びっくり}した・・・！」

アルル・ナジャだ・・・

アルル「ひかり来てたんだ」

ひかり「はい・・・ほんの数分前ですけど・・・今私、スバルさんからの連絡を待ってるんです」

アルル「じゃあ、スバルが今東エリアに向かっているんだ」

ひかり「はい」

アルル「それじゃあ、ボクこの辺見張ってるよ。ハンター来るかもしれないし・・・」

ひかり「お願いします」

ワリオ「くそ……リセット装置が遠い……」

北エリアの賞金リセット装置を目指しているワリオ。しかし、メタボな体型が災いして思う様に動けない。

ワリオ「こんな所でハンターに追われたら最悪だな……」

彼が目指す賞金リセット装置には……

せつな「やつと着いたわ……」

せつなが到着していた。

せつな「あとは、誰かに南エリアに行ってもらえばいいのね……」

はやて「6体いる中で動くのはしんどいわ……」

ピリリリリリ

はやて「ん……？電話や……せつなちゃんから……！もしもし？」

せつな「はやてさん？ミッションやってます？」

はやて「一応参加はしてるで」

せつな「南エリアの方に行ってくださいませんか？私今、北エリアの賞金リセット装置の前について……」

はやて「ホンマに？ほんなら行くわ、南エリア」

せつな「すみません、お願いします」

2人は電話を切った。

はやて「南エリア・・・アカン、急がんと・・・!」

スバル「あつた!」

漸く東エリアの賞金単価減額装置に辿り着いたスバル。

スバル「ひかりに電話だ・・・!!・・・って嘘でしょ!？」

見つけたのは・・・ハンター・・・

スバル「何でこんな時に!ヤバい!このままじゃ捕まる!」

アトラクションの建物の角を利用し、一目散に逃げるスバル。

間一髪撒いた様だ。

スバル「くそっ・・・!止められるチャンスだったのに・・・!」

スバルを追ったハンターが、次の標的を見つけた・・・見つかったのは・・・

はやて「ちよっときついな、これは・・・ん・・・?うわあ!」

八神はやてだ・・・

はやて「最悪やー!」

一目散に逃げるはやて。しかし、彼女の足がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

はやて「あうっ!」 ポンッ

> i 1 7 9 4 8 — 2 0 9 6 <

はやて「最悪やゝ・・・!こんな所で捕まってもうた・・・せつなちゃん、ゴメンな・・・力になれへんかったわ・・・」

史上最強の魔導師、ここに散る・・・

なのは「ええっ!?はやてちゃん捕まった!?!」

響「『残り16人』・・・もう半分だよ・・・?まだ折り返しにもなっていないのに・・・ヤバ過ぎるって・・・!」

くるみ「偽善者03は裏切り者じゃなかったのね・・・」

せつな「嘘!?はやてさん捕まった!どうしよう・・・誰か代わりの人・・・」

はやての確保を知り、別の人を探すせつな。

そこに近付くハンター・・・

せつな「誰がりセットの方に行きそうかしら・・・?それも考慮すると・・・あっ、ハンター来た・・・!」

ハンターを見つけ、賞金リセット装置から離れ一目散に逃げるせつな。

ハンターは、せつなには気付いていない様だ。

せつな「あちこちにいないじゃない、ハンター・・・！これじゃ、ミッションクリア出来ないわ・・・！」

ハンターがいる為、思う様に動けない。

スバル「ハンターいないね・・・」

やっこの思いで、再び賞金単価減額装置に辿り着いたスバル。

ハンターを警戒しながら、ひかりに連絡する。

ピリリリリリ

ひかり「スバルさんだ・・・！はい」

スバル「ひかり？そっち大丈夫？ハンター近くにいない？」

ひかり「さっきアルルさんが来て、見張ってもらってます。今のところ、ハンターはいないみたいです」

スバル「OK！じゃあ、下ろそう！」

ひかり「はい！」

ひかり・スバル「せーの・・・」

2人はレバーを下ろす。

すると、賞金単価減額装置のランプが消えた。

ミッションクリア

スバル「OK！消えた！」

ひかり「スバルさん、毎回有難う御座います！」

スバル「いやいや・・・じゃあね！健闘祈るよ！」

ひかり「はい！有難う御座います！失礼します」

2人は電話を切った。

ひかり「やっぱりスバルさん、男気がある・・・！カッコいい・・・！」

アルル「下ろしたの？」

ひかり「OKです」

アルル「そう。じゃあ、バラバラで」

ひかり「そうですね。ハンター来そうですし・・・」

2人はハンターに見つかる前にその場を離れる。

プルルルル プルル

シエゾ「またメールかよ……」

ティアナ「あつ……ミッション途中経過だつて……」

ドラコ「『九条ひかり・スバル・ナカジマの活躍により、賞金単価減額阻止成功』……！おお、すごい……！」

ピット「あつ……単価減額の方はもう大丈夫みたい……」

なのは「あとはリセットのだけつて事……？」

せつな「時間無いわね……！早く戻らないと……！」

ルル「全然辿り着けない……！ハンターが本当に鬱陶^{うっとう}しい……！」

ひかりとスバルの活躍により、賞金単価減額は免れた。

残るは賞金リセット装置のみ……

現在装置に向かっているのは、マリオ・ワリオ・せつな・ルルの4人。

賞金リセットまで、およそ6分。

間に合うのか！？

賞金リセット&単価減額阻止へ！（後書き）

逃走者達の賞金は、続行か・・・それとも、再スタートか・・・

全ては4人の逃走者の手に委ねられた！

果たして！？

ミッション3終了！（前書き）

今日から事実上の春休みです！

これから少しペースを上げて更新していきます！

逃走者達は、賞金リセット装置を止める事が出来るのか！？

ミッション3終了！

現在賞金リセット装置へ向かっているのは、マリオ・ワリオ・せつな・ルルーの4人。

残り100分までに2人で同時にレバーを引けなければ、全員が0円からの再スタートとなり、積み上げてきた賞金を全て失う。

ルルー「ハンター増えたのは、やっぱり相当な痛手ね・・・」

賞金リセットまで 5分

せつな「あとどのくらい・・・？あと5分・・・！？不味い・・・！」

ワリオ「ヤバい・・・！時間が無い・・・！早くレバーを下ろさなければ・・・！」

マリオ「何処だ・・・？全然見つからない・・・！」

ミッションに挑む4人に対し、この女は・・・

ウィッチ「今いくら・・・？45万2千円・・・！これ自首もありですわね・・・」

高額賞金に心が揺れている。

エリア内にある公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

ウィッチ「45万円って、なかなか手に入らない金額な訳だし・・・
自首しようかね、この騒ぎの中・・・」

自首しようかどうかで悩む見習い魔法使い。

ピット「リセット装置、誰か向かってるのかな？」

なのは「行ってる人の中に裏切り者がいる可能性は、かなり高いね・・・」

キャロ「ボーナスが水の泡になるのに危機感持ってる筈だし・・・」

ミッションに参加する者の中に裏切り者がいると読んでいる3人。
果たして、その読みは当たるのか。

響「リセットの方には行かない方がいいね。裏切り者を助ける事になっちゃっ」

響にも賞金リセット装置に向かう意思は無い様だ。

しかし、その近くにハンター・・・

響「さて・・・あたしは体力温存しとこう・・・この後のすごいミッションに備えて・・・ってハンターいるじゃん・・・!」

近付いてくるハンターに反応し、一目散に逃げる響。

ハンターは気付いていない様だ。

しかし・・・彼女が逃げる先に別のハンター・・・

賞金リセットまで 4分

響「やっぱり6体は多いよ・・・何処行ってもいるんだもん・・・
ってこつちにも〜!？」

今度は見つかった・・・

響「ヤバい、最悪だ！」

方向転換し、一目散に逃げていく響。逃げ切れるのか。

響「ヤバ過ぎる！」

ポスト夏木りんの異名を持つ響。驚異的な脚力を生かし逃げ続ける。

そして、何と言う事が、ハンターを振り切ってしまった。

これが、逃走成功本命の実力・・・

響「もう追って来てない・・・？危なかった・・・すぐ目の前に
ハンターがいたよ・・・」

ワリオ「もう無理だな・・・全然近付けん・・・足取りも重くなっ
てる・・・乳酸溜まつてるな、確実に・・・」

賞金リセット装置まで、まだかなりの距離を残すワリオ。時間が無いのを理由に諦めた・・・

スバル「誰も止めないでほしいな、リセット装置・・・60万円でいいでしょ？60万円だつてすごい金額なんだから・・・」

アルル「裏切り者が100万円以上も持つて帰る事になっちゃうもんね・・・失敗してほしいな・・・最低だな、ボク・・・ミッションなのに失敗しろつて・・・どうかしてるつて思われちゃうよ・・・」

何故かミッション失敗を祈っている2人・・・

ひかり「でも、行った人が絶対裏切り者だつていう確証は無い訳だし・・・」

ドラコ「単にパーになるのが嫌だつて人も、中には絶対いる筈だから・・・」

くるみ「判断し難いわね・・・どう思つかは個人の勝手だから、私がどうこう言える事じゃないもんね・・・」

賞金リセットまで 3分

マリオ「よしっ！着いた！」

漸く南エリアの賞金リセット装置に辿り着いたマリオ。

マリオ「これで、あと1人北エリアの方に来てもらえばいいんだ・・・！誰が近くにいそうかな・・・？」

賞金リセット装置を止めるには、もう1人必要だ。

ルルー「もう少しなのに・・・」

ピリリリリリ

ルルー「ええ・・・？電話・・・？マリオから・・・何？」

マリオ「ルルーか？北エリアに向かっているのか？」

ルルー「えっ？どういう事？まさかあんた、南エリアの方にいるの？」

マリオ「おお。もう装置の前にいる」

ルルー「ああ、そうなの・・・じゃあ、もう私には無関係ね・・・」

マリオ「はあ？どういうこと・・・」

ピッ

ルルーは一方向的に電話を切った。

マリオ「切られたんだけど！？何あいつ！？」

ルルー「もう行かなくてもいいわね。マリオがいるみたいだし・・・」

「

南エリアの装置前にマリオがいる事を知り、ルルーはミッションを放棄した。

マリオ「くそ・・・！誰がいるんだよ・・・？」

賞金リセットまで 2分

このまま賞金リセット装置を止められなければ、全員の賞金が0円からの再スタートとなり、逃げ切った場合の賞金は108万円から60万円に減額されてしまう。

北エリアの賞金リセット装置を目指しているのは・・・

せつな「結構距離あるわ・・・！でも時間無いし・・・怖いけど・・・急がないと・・・！」

東 せつなだ・・・

シェゾ「あと1分45秒か・・・あれから全然ミッションのメールが来ないぞ・・・？誰も行ってねえのか、まさか・・・おい・・・！早く止めるよ・・・！108万円持って帰れねえだろうが・・・！」

ティアナ「リセット装置に行った人、相当金にかめつい人だよね・・・別に0円から再スタートしても、痛くも痒くもないでしょうに・・・」

賞金リセットまで 1分30秒

マリオ「あいつかな、ここは・・・」

ピリリリリリ

せつな「電話・・・？マリオから・・・！もしもし」

マリオ「せつな？北エリアの装置に行ってるか？」

せつな「今行ってるわ」

マリオ「おお！OK！ボク南エリアの装置の前にいるからさ！」

せつな「ホントに？都合いいわ！」

マリオ「じゃあ、このまま掛けっ放しにしとくから、着いたら教えてくれ」

せつな「分かったわ！」

賞金リセット装置へ急ぐせつな。

賞金リセットまで 1分

マリオ「悪いな、ホントに・・・皆の賞金の為に」

せつな「そんな事無いわよ・・・」

マリオ「ハンターにだけは気を付けろよ」

せつな「分かってるわよ。十分警戒してるから」

>i18010—2096<

マリオ「急げ、急げ。45秒切ったぞ」

せつな「待つて。もう少しだから」

せつな、間に合うのか。

せつな「見えた、見えた！リセット装置！」

マリオ「OK、OK！」

せつな「今、装置前に付いたわ！」

マリオ「よしっ！それじゃ、下ろすぞ！」

マリオ・せつな「せーの・・・」

2人はレバーを下ろす。

すると、賞金リセット装置のランプが消えた。

ミッションクリア

せつな「ランプが消えたわ！」

マリオ「よしっ！クリアだ！」

せつな「マリオ有難う。手伝ってくれて」

マリオ「おお。お前も今後頑張れよ」

せつな「ええ！」

2人は電話を切った。

プルルルル プルル

ワリオ「メール来たぞ……！」

ルルー「『マリオ・東 せつなの活躍により、賞金リセット阻止成功』……！やるじゃない、2人とも……！」

シェゾ「ヨツシャ……！これで108万円獲れるチャンスがまた来たな……！」

くるみ「ギリギリね……まあ、でも良くやったわ……！」

ミッシヨンクリアを称える者が現れる一方……

スバル「マジかよ……クリアしちゃったよ……最悪……！」

アルル「裏切り者助けちゃったじゃん……」

ピット「どっちかが裏切り者なのかもしれないな、これ……」

響「裏切り者、これで100万円以上死守出来ちゃった訳でしょ？」

キャロ「最悪の展開……」

クリアを悔やむ声も少なからず上がっていた……

せつな「初めてよ、こんな大きな仕事成し遂げたの……！」

ミッションクリアに貢献したせつな。

しかし・・・喜ぶのも束の間・・・

裏切り者が、せつなの姿を・・・見た・・・

???（裏切り者）「東　せつな、北エリアの観覧車付近にいます・
・・」

通報を受けたハンターが、せつなの確保へと動く。

せつな「すごいわ、この達成感・・・！このまま逃げ切りたいわね・
・・！」

彼女の思いとは裏腹に、続々と集まるハンター。

せつな「精一杯頑張った甲斐があったわ・・・！！・・・って嘘でしょ！！？」

前方にハンターを見つけたせつな。一目散に逃げる。

せつな「ここまで逃げてきたのに、捕まりたくない！！・・・って、こっちからも！！？」

逃げた先にも別のハンター・・・

せつな「ヤダ～！来ないで～！」

尚も逃げ続けるせつな。しかし、大勢のハンターに追われ万事休す。
最早、逃走不可能・・・

せつな「いやあ！」 ポンッ

> i 1 8 0 0 8 — 2 0 9 6 <

せつな「もう何で？ ミッションもクリアして、調子が上がってきた矢先に・・・ああ悔しい・・・！」

くるみ「ええ！？」裏切り者の通報により、北エリア観覧車付近にて・・・」

キャラ「『東 せつな確保、残り15人』・・・！また裏切り者・・・！』」

スバル「ほら・・・だからこういう事になるんだよ・・・」

なのは「裏切り者は・・・ええ！？もう133万円も稼いでるの！？」

ドラコ「どんだけ通報すれば気が済むんだよ、この人は！？」

牢獄

レムレス「また裏切り者だよ」

レッド「これで何人が犠牲になったんだ？」

クルーク「確か9人の筈だよ」

フェイト「そうね。9人が通報で確保されてる」

リユカ「どうすんの、これ？」

アミティ「やっぱり、ゆりさんの言ってた通り全滅になるのかな？」

奏「それだけは絶対嫌だ！」

ラフィーナ「そんな事、私が認めないわ！」

裏切り者について口々に言っている牢獄の者達の許に、はやてがやって来た。

はやて「何や？随分と揉めとるな」

エリオ「お疲れ様です」

はやて「ホンマに、久し振りに本気で走って疲れたわ」

そう言いながら、はやては入獄する。

リデル「はやてさんは・・・誰が裏切り者だと思っんですか・・・？」

はやて「それ以前にな、私いろんな人から電話で情報もらっとなねん」

シグ「へえ・・・そうなんだ・・・」

トウーン「で・・・どんな情報が得られたんですか？」

はやて「マリオ君に4票、くるみちゃんの3票入っとなねん。マリオ君に入れたんが・・・私となのはちゃんと響ちゃんとひかりちゃんなんや。ほんで、くるみちゃんに入れたんが・・・リュカ君とせつなちゃんとスバルなんや」

フエーリ「2人が怪しいって事ね」

奏「あつ・・・マリオって人なら、私も投票しましたよ」

ゆり「ええ？奏も？」

レムレス「と言う事は、マリオって子には5票も入っている事になるじゃないか」

トウーン「マリオだよ、裏切り者」

アミティ「5票も入ってれば、ほぼ間違いないね」

レッド「でも分かんねえよ。はやてが聞いてない人の中に、くるみに入れた人が3人以上いるかもしれないじゃないか」

エリオ「それは確かに否定出来ませんね・・・」

ラフィーナ「あと、他の誰かに6票以上入ってるかも分からないし・・・」

ゆり「その可能性は低いんじゃないかしら？1人に10票も入る様な投票じゃなかったもの」

リユカ「内容がおかしいんだよね。『脱落させてもいい』って言い方が何かね……」

シグ「でも3票って言ったら、ワリオって人も怪しいよね……」

はやて「えっ？　どういう意味や？」

フェイト「私とシグとトゥーンはワリオに入れてるのよ」

はやて「ホンマに？　ほんなら、3人が候補に挙がとるっちゅう事かいな？」

フェーリ「どのみち、その3人の内誰かが裏切り者よ。そうよ、そうに決まってるわ！」

深夜の遊園地での逃走中……

間もなく折り返し地点……賞金は50万円を超えている。

そして次回、遂に裏切り者の正体が明らかに！

裏切り者は、候補に挙がっている、マリオか……くるみか……ワリオか……それとも……

ミッション3終了！（後書き）

残る逃走者は、アルル・シェゾ・ルルー・ウィッチ・ドラコ・マリ
オ・ワリオ・ピット・ひかり・くるみ・響・なのは・スバル・ティ
アナ・キャラの15人

この中に裏切り者が潜んでいる・・・

逃走者を減らし、何食わぬ顔で金を釣り上げているのは、果たして
誰なのか！？

そして、謎の集団が遂に遊園地を襲撃する！

更に、謎の存在が大量のハンターを用意している！？

裏切り者（前書き）

遂に裏切り者の正体が明らかに！

そして、謎の集団が本格的に動き出す！

更に、謎の存在も何かを企んでいる！？

裏切り者

> i 1 8 1 0 0 — 2 0 9 6 <

残りは90分・・・漸くやじ折り返し地点・・・

現在生き残っている逃走者は15人・・・

対するハンターは6体・・・

逃げ切れば108万円。捕まれば0円・・・

ひかり「結構人数少なくなっちゃったな・・・」

ここまで果敢にミッションに挑んでいるひかり。

ひかり「あ・・・あれ？」

誰かを見つけ、その人物の許もとへ駆け寄る。

ひかり「あの・・・」

客「はい？」

客「あれ？ひかりじゃない」

客「ホント」

客「何してるの、こんな所で？」

客「と言つか・・・その格好って・・・」

ひかり「はい。また逃走中に呼ばれちゃいまして・・・それにしても、何で来てるんですか？プリキュア5の皆さん・・・」

ひかりが出会ったのは、プリキュア5の夢原のぞみ・夏木りん・春日野うらら・秋元こまち・水無月かれんだった。

のぞみ「何でも何も・・・ただ遊びに来てるっただけだよ？」

ひかり「そうじゃなくて・・・何でこんな深夜に皆さん揃って・・・」

こまち「この町に深夜にだけオープンする遊園地があるって口コミで広がって・・・」

かれん「それで実際にみたのよ。そしたら、深夜にも拘らず大評判ね」

うらら「私達、次にコーヒークップに乗りに行こうとしてるところなんだ」

ひかり「そうなんですか・・・あっ、そう言えばりんさん。あの時獲った賞金どうしました？」

りんは、前回の逃走中の覇者だ。

りん「まあ、何て言うか・・・家族皆で有意義に使わせてもらったって言っとくよ」

ひかり「分かりました。じゃあ、私はこの辺でお暇いとまさせてもらいます。それでは」

そう言つて、ひかりは5人と別れる。

ひかり「中学生にも人気のスポットって感じだね、この遊園地」

ルルー「それにしても、さっきのマリオからの電話・・・何か怪しいわね」

先程マリオからの電話を受けたルルー。何やら腑に落ちない点がある様だ。

ルルー「いかにも北エリアの装置に行かせる感じに聞こえなくもなかったけど・・・考え過ぎかしら？」

シェゾ「これからのミッションも、誰かやってくれるだろう・・・」

ゲーム開始から、叢くさむらの中にずっと隠れ続けているシェゾ。

シェゾ「逃げる為のゲームなのに、何故ミッションなんてものがあるんだ・・・？おかし過ぎるだろ・・・！」

ミッションに不快感を露にする。

同じ様に隠れ続けている、もう1人の逃走者・・・

ティアナ「くるみが捕まらないと、全く動けない・・・早く捕まれ・・・！」

ティアナ・ランスターだ・・・

彼女は、くるみを裏切り者だと断定している様だ。

くるみ「ホントに怖い・・・!」

その怪しい女・美々野くるみ・・・

そこへ・・・

マリオ「ハンターいたぞ・・・!」

くるみ「えっ・・・?」

怪しい男・マリオだ・・・

近くにハンターがいる事から、マリオはハンターを見つけ、逃げてきたらしい。

奇しくも怪しい2人がニアミス・・・互いに携帯を手に牽制し合う・・・

果たして、くるみとマリオ、どちらかが裏切り者なのか・・・

くるみ「マリオ・・・!あんた裏切り者・・・!」

マリオ「ボク?違うって・・・!くるみが裏切り者・・・ちよつと待て・・・!」

近付いてくるハンターに反応し、逸早くその場から逃げる2人。

そして、互いの姿が見えなくなった瞬間、2人は携帯を操作し始めた。

裏切り者は……

マリオ「しかし、ボーナスがパーにならなくて良かったわ……」

マリオだ……

時は、残り175分まで^{さかのぼ}遡る……

投票終了後、マリオにだけ届いた1通のメール。それは・・・

マリオ「『君が脱落者に決定した』！？あいつら絶対許さねえぞ！」

通報1人目・リデル

マリオ「リデルがいるな、あそこに・・・」

彼は迷わず携帯を取り出す。

マリオ「リデル、フリーフォール付近にいます」

その直後、彼女は確保された。

マリオ「これで10万円入った・・・！」

通報2人目・リュカ

マリオ「おつ、獲物が2匹いるな・・・これは美味しいぞ・・・！」

2人を餌食にする為、彼はハンターに通報する。

マリオ「トゥーンリンクとリュカ、メリーゴランド付近にいます」

この直後、リュカのみが確保された。

マリオ「裏切り者の通報により、メリーゴランド付近にて、リユカ確保」・・・チッ！1人だけか・・・」

通報3人目・月影ゆり

マリオ「あれは・・・ゆりって奴だな・・・あいつは目の上の瘤だ・・・！邪魔臭い・・・！」

そう呟き、彼は居場所を伝える。

マリオ「月影ゆり、コーヒークップ付近にいます」

この直後、彼女は確保された。

マリオ「裏切り者の通報により、コーヒークップ付近にて、月影ゆり確保」・・・よしっ！ざまあみる！」

通報4人目・レッド

マリオ「あれはレッドか・・・悠々と歩いてやがる・・・バカな奴だ・・・！」

レッドを嘲い、彼はレッドを密告する。

マリオ「レッド、東エリアのお化け屋敷付近にいます」

彼はそのまま、レッドが確保される瞬間を見届けようとする。

マリオ「捕まれ．．．！捕まれ．．．！」

彼が見守る中、レッドは確保された。

マリオ「よしっ．．．！恥を知れ．．．！」

通報5人目・エリオ・モンディアル

マリオ「おお、また2人だ．．．！よしっ．．．今度こそ2人同時に捕まえてやる．．．！」

再び2人を餌食にする為、彼はハンターに密告。

マリオ「エリオ・モンディアルとキャロ・ル・ルシエ、西エリアのジェットコースター付近にいます」

この直後、エリオのみが確保された。

マリオ「『裏切り者の通報により、ジェットコースター付近にて、エリオ・モンディアル確保』．．．クソッ！また1人だけかよ．．．！上手い事1人逃げやがって．．．！ハンターに捕まっちゃえば楽なのによ．．．！」

通報6人目・アミティ

マリオ「アミティだな・・・あいつには、さつさと消えてもらっか・・・！」

彼はすぐさま携帯を取り出し、アミティを通報する。

マリオ「アミティ、南エリアの大型ブランコ付近にいます」

この直後、アミティは確保された。

マリオ「おお・・・！もう75万円だ・・・！こりゃあ200万円超えも夢じゃないぞ・・・！」

通報7人目・南野 奏

マリオ「奏って奴か・・・逃げてるな・・・もつと逃げさしてやるよ・・・！^{せいぜい}精々苦しむんだな・・・！」

不敵な笑みを浮かべ、彼はハンターに位置情報を教える。

マリオ「南野 奏、北エリアの観覧車付近にいます」

その直後、奏は確保された。

マリオ「裏切り者の通報により、北エリアの観覧車付近にて、南野 奏確保」・・・！ヨッシャ・・・！身から出た錆だ・・・！」

通報 8 人目・ラフィーナ

マリオ「ラフィーナか・・・あいつが捕まるところ、見てみたいもんだな・・・」

そう呟き、彼はラフィーナの位置情報をハンターに通達する。

マリオ「ラフィーナ、中央エリアの巨大観覧車付近にいます」

彼はそのまま、ラフィーナが確保される瞬間を見届けようとする。

マリオ「捕まれ・・・！捕まれ・・・！」

彼が見守る中、ラフィーナは転倒し確保された。

マリオ「こけやがった・・・！ヨッシャ・・・！ざまあみやがれてんだ・・・！」

通報 9 人目・東 せつな

せつなとの電話を切った直後・・・

マリオ「ご苦労だったな、せつな・・・お前には、ここで死んでもらう・・・！」

冷酷な表情で、せつなを切り捨てた。

マリオ「東　せつな、北エリアの観覧車付近にいます」

この直後、せつなは確保された。

マリオ「自分が話した相手が裏切り者だと気付かないとは・・・バカな女だ・・・！クククク・・・！」

現在、マリオは通常賞金＋90万円を手に入れている。

このまま逃げ切れば、198万円を獲得出来る。

マリオ「ダメなんだって、ボクを敵に回したら・・・！そう言う事はちゃんと教えておかないとな・・・！」

くるみ「これマリオっぽい・・・！」

マリオに姿を見られ、くるみ絶体絶命・・・

マリオ「あそこにくるみがいるけど・・・ここは一旦通報はしないでおう・・・あいつが結構疑われてるって言うのを小耳に挟んだからな・・・あいつを残しておけば、自分は絶対疑われない・・・！」

裏切り者・マリオの思惑で泳がされるくるみ。

彼女は牢獄前に逃げ込んできた。

奏「あつ！裏切り者！」

リュカ「裏切り者！」

レッド「早く捕まれよ！」

くるみ「誰、裏切り者？」

ゆり「くるみでしょ？」

ラフィーナ「こう言ってるんだから、あんたしかいないじゃない」

くるみ「違う、違う・・・！私は裏切り者じゃないって・・・！」

フェーリ「ホントに？」

レムレス「間違いない？」

エリオ「神様に誓っても嘘じゃないですか？」

くるみ「ホントだってば・・・！大体こんな所で嘔吐いてもしようがないじゃない・・・！」

シグ「それもそうだね・・・」

くるみ「あんた達は誰に入れたの？」

はやて「私の情報では、くるみちゃんには3票入ってんねんけど、マリオ君にも5票入っとんねん」

フェイト「あと、ワリオって人にも3票入ってるの」

リデル「やつぱり・・・マリオさんなんじゃないでしょうか・・・？」

くるみ「マリオだったら、さっきあそこで鉢合わせになったのよ」

トウーン「ヤバいじゃん」

アミティ「見られてるよ。通報されちゃうじゃん」

クルーク「ここから離れた方がいいって」

牢獄の者達に促され、くるみはその場を去る。

響「ホントにマリオなのかな、裏切り者・・・？」

疑問を抱きながら、エリアを彷徨^{さまよ}う響。

その時・・・

響「うわっ！」

目の前に何かが現れ、響は驚いて尻餅を着いてしまった。

響「痛たたたた・・・」

???「驚かせてすみませんでした・・・」

響「だ・・・大丈夫、大丈夫・・・ちょっと吃驚^{びっくり}しただ・・・って、ええゝ!？」

目の前に浮遊している、体長約30cmの物体を見て、響は驚愕の声を上げる。

???「な・・・何ですか？」

響「あんた・・・なのはさんのところの・・・はやてさんと良く一緒にいる・・・リインフォース^{リヴァイ}?じゃない!」

リイン?「リインフォース?一体誰の事ですか？」

響「だから、あんたでしょ？」

リイン?「私はその様な者では無いです。私はこの遊園地を守る妖精です」

響「よ・・・妖精?絶対違うでしょ・・・だって羽が無いじゃん・・・一人称も違うし・・・」

妖精(リイン)「妖精には羽があると決め付けてはいけません。中には私の様に、羽が無い妖精もたくさんいるんです」

響「そ・・・そうなんだ・・・あつ、それはそうとして・・・さつき、やけに慌ててなかった？」

妖精(リイン)「はっ!そうでした!大変です!この遊園地、かな

り危険な状況になりつつあります!」

響「何、その危険な状況って……!」

妖精（リイン）「それが何かはまだ分かりませんが……兎に角、危険な殺気を向こうから感じるんです!」

響「向こうって……入口の方から?」

遂に、謎の集団が遊園地に迫る……

アルファ・ベータ・ガンマの3人は、ヘリコプターに乗って上空から遊園地を襲撃する様だ……

アルファ「とうとう私の野望が現実となる……!」

ベータ「アルファ様、間もなく例の遊園地上空に到着します」

アルファ「そうか……」

ガンマ「良いですね、アルファ様……」

アルファ「何がだ?」

ガンマ「遊園地にいる人間を殲滅^{せんめつ}させ、アトラクションも全て破壊し尽くしても……」

アルファ「まだ気になるのか?構わんと言っているだろ……私の

目的は、海底資源が眠ったあの土地だけなのだ・・・施設や観客と
言うものに興味などありません・・・！」

ガンマ「分かりました・・・」

アルファ「ふん・・・時にベータよ・・・」

ベータ「何でしょう？」

アルファ「地上の方はどうなっているのだ？」

ベータ「ええ・・・既に例のトレーラーを運行させております。部
下達も、直々辿り着く事でしょう・・・」

アルファ「ならば良いのだが・・・」

謎の集団の部下達を乗せた1台の大型トレーラー・・・

謎の存在「・・・」

・ 遊園地へと向かうトレーラーをモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには『ADD HUNTERS』の文字が・・・

謎の存在は、それをタッチする・・・

それと同時に、円グラフの様なものが現れ、メーターが徐々に上がっていく……

そして、グラフは64を指して止まった……

その瞬間、トレーラーの荷台に64体のハンターが仕掛けられた……

プルルルル プルル

ピット「メールだ……！」

ドラコ「ミッション4……！」

キャロ「『現在、謎の集団がこのエリアに接近中だ』……何、謎の集団って……？」

スバル「『彼等は、残り70分になるとエリアに到達する』……」

アルル「『それと同時に、エリアの入り口から64体のハンターを放出する』……64体！？」

なのは「『回避するには、中央エリアにある観覧車に乗り込み避難しなければならない』……！」

ワリオ「64体とか……絶対死ぬだろ……！？」

MISSION? 観覧車へ避難せよ!

現在、謎の集団の部下達を乗せた大型トレーラーが逃走者がいるエリアを目指し走行中。トレーラーは残り70分になるとエリアに到達。部下達が次々とエリア内に進入してくる。トレーラーの荷台には64体のハンター。部下達が襲撃を開始したと同時に、エリアへと放たれる。逃走者が逃げ切るのは粗不可能となる。逃れるには、中央エリアにある観覧車に乗り込み避難しなければならない。但し、全てのゴンドラが空いている訳ではないので、観覧車に辿り着いてもすぐに乗り込めるという事ではない。ハンターが放出される前に乗れなければ、エリアを埋め尽くすハンターの餌食となる。

ティアナ「やられた……! 中央に戻れないといけないって……最悪、結構遠いじゃん……!」

シェゾ「動かなきゃいけないのかよ……? 面倒臭えな……」

マリオ「なるほど……じゃあ、観覧車付近に隠れてれば、一網打尽に出来るな……!」

エリアには6体のハンター。動けば、見つかる危険が高まる。

更に、裏切り者・マリオの存在が逃走者に脅威となつて襲い掛かる。

ハンター放出まで、およそ14分。

果たして、ハンターと裏切り者の目を掻い潜り、避難する事が出来るのか!?

裏切り者（後書き）

遊園地に迫る破滅の危機！

逃走者達は、この危機から逃れられるのか！？

以下は投票の結果です

マリオ 6 票

ワリオ・くるみ 4 票

シエゾ・クルーク 3 票

なのは・レッド・シグ 2 票

ルルー・はやて・ウィッチ・ラフィーナ 1 票

それと、タイマーの挿絵が微妙に変わっているのにお気付きでしょうか？

そして、3月6日の放送まで1ヶ月を切りました！

楽しみです

観覧車へ避難！（前書き）

ハンター64体投入の恐怖！

逃走者達は、この危機から逃れる事は出来るのか！？

観覧車へ避難！

現在、逃走者のいる遊園地に向かって64体のハンターを乗せたトレーラーが走行している。残り70分になると、ハンターがエリアに放出される。それまでに逃走者達は、中央エリアにある観覧車に避難しなければならない。

ピット「とりあえず、観覧車に行かない事には話にならないよね」

ルルー「と言うか・・・ハンター64体って・・・どういうつもりよ？」

なのは「そんなに出てきたら、すぐ終わりじゃん・・・！」

エリアでは6体のハンターが逃走者を搜索。視界に入った逃走者を見失うまで追跡する。

マリオ「観覧車近いぞ・・・！こうなれば、1人残らず通報してやる・・・！」

更に、裏切り者・マリオに居場所を通報されれば、逃げ切る事は不可能に等しい。

響「それにしてもリイン・・・じゃなくて、妖精さん」

妖精（リインフォース？）「はい、何でしょう」

先程、遊園地を守ると自称する妖精と出会い、共に行動している響。

響「危険な状況だって知ってるのに、何で遊園地を守ろうとしないの？」

妖精（リインフォース？）「守ろうとしないんじゃないんで、守りたくても守れないんです」

響「ど……どういう事？」

妖精（リインフォース？）「この遊園地を守る為には、もう1人妖精が必要なんです。でも、その妖精が何日も行方不明なんです」

響「ええ！？何処にいるのかも分からないの！？」

妖精（リインフォース？）「はい……」

遊園地を守る為には、もう1人の妖精が必要だと語るリインに似た妖精。しかし、その妖精が何処にいるか分からない為、今は遊園地を謎の集団から守る事は出来ない。

妖精（リインフォース？）「私、あの子にもしもの事があつたらと思うと……怖くて……辛くて……悲しくて……」

響「妖精さん……分かった！あたしがミッションに行きながら、一緒に探してあげるよ！」

妖精（リインフォース？）「えっ……？ほ……本当ですか……？」

響「当たり前だよ！困ってる人がいたら、助けてあげなきゃ！」

妖精（リインフォース？）「あ・・・有難う御座います・・・！何とお礼を申し上げていいのか・・・」

妖精の相棒の探索を願い出た響。しかし、そうしている間も時間は刻一刻と無くなっていく。

ドラコ「ここをまっすぐ行つて左曲がればすぐだ・・・！」

観覧車まで、あと200mの距離にまで近付いたドラコ。

しかし、向かう先にハンター・・・

ドラコ「危険だよな・・・ここでハンターに出くわしたら最悪でしょ・・・って言った傍からっ！？」

見つかった・・・

ドラコ「ヤバい！」

驚異的なフットワークで、曲がり角を利用し一目散に逃げるドラコ。

しかし・・・

ドラコ「うわぁー！」

逃げた先にもハンター・・・

彼女は方向転換し逃げ続ける。

ドラコ「ヤバイ・・・！すぐそこまで来てる・・・！」

しかし、疲労が溜まり徐々に足の運びが鈍くなっていく。それ故に、疲れを知らないハンターとの距離はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

ドラコ「あう・・・！」 ポンッ

> i 1 8 3 4 4 — 2 0 9 6 <

ドラコ「くそ・・・ハンター息一つ乱して無いじゃん・・・！おまけに足速いし・・・完全にサイボーグだよ、あれ・・・ああ・・・ハンターに勝てる自信、結構あったんだけどな・・・」

プルルルル プルル

キャロ「またメール・・・？もう、その都度鳴るから吃驚する・・・！」

ウィッチ「あつ・・・！ドラコ捕まりましたわ・・・」

スバル「あの子、まだ行けると思ってただけだな・・・」

ひかり「『残り14人』って・・・もう1桁が目の前じゃん・・・！」

ティアナ「それもこれも、裏切り者のせいね・・・！」

アルル「着いた！」

最初に観覧車に辿り着いたのは、魔導師の卵・アルル・ナジャだ。

アルル「えっ・・・？ちよつと待って・・・嘘でしょ・・・！？」

アルルがそこで見た光景。それは・・・

アルル「すごい人が並んでんだけど！」

観覧車の前にある長蛇の列。列の長さから見て、ざっと100人から150人はいるだろう。

アルル「あ・・・あの従業員さん！」

アルルは、観覧車担当の従業員に声を掛ける。

従業員「はい？」

アルル「あっ・・・！君、『ファイヤーエムブレム』や『スマブラ』のロイじゃん・・・！」

従業員（ロイ）「ロイ？誰ですか、そのロイと言うのは？」

アルル「そ・・・それはいいか、別に・・・あの・・・この列、あとどのくらい続くんですか？」

従業員（ロイ）「そうですね・・・15分は最低でも待っていただく事になりますかね・・・」

アルル「じゅ・・・15分！？」

列に並んでいては15分も掛かるという従業員。これでは、観覧車

に避難する前にハンターが放たれてしまう。

アルル「それじゃ困るんです！ボクの場合、すぐにでも乗らないと！」

従業員（ロイ）「そう言われましても・・・」

アルル「何かいい方法は無いんですか！？」

従業員（ロイ）「あの・・・この遊園地のVIPチケットをお持ちの方でしょうか？」

アルル「VIPチケット？えつと・・・あつ・・・これの事？」

アルルは、腰に付いているポシェットから一枚のチケットを出した。

実は、逃走者達にはゲーム開始前にVIPチケットと呼ばれる、この遊園地の優待入場券の様な物を支給されていたのだ。

従業員（ロイ）「それを入口にある窓口に表示していただければ、どんなアトラクションにも1分も待たずに乗れる優待パスを受け取れますよ」

アルル「そうなんですか・・・分かりました、有難う御座います！」

観覧車に避難する為には、入口にある窓口に支給されたVIPチケットを提示して、優待パスを受け取らなければならない。その事を知らなければ、64体のハンターが放出されたまま順番を待たなければならなくなる。

アルル「どうしようかな・・・？裏切り者に成功してもらうのは困るけど、誰が裏切り者か分からないもんな・・・とりあえず、一斉メールしよう・・・！このままだと人数がすごく減って、ボク達不利になっちゃうもん・・・！」

アルルは、ミッションの正確な内容を一斉メールする事に。

シェゾ「ちくしょう・・・！こんな所でうるちよろしてたら、ハンターの格好の餌食じゃないか・・・！」

ゲーム開始からずっと隠れていた事が災いし、一苦勞のシェゾ。

そこへ・・・

プルルルル プルル

シェゾ「うるさいな、この着信音・・・！気付かれるだろ・・・！何だ・・・？」

くるみ「えっ？アルルから・・・何何？『皆、直接観覧車に行っちゃダメです！』・・・えっ？」

ルル「『ポシェットの中にあるVIPチケットを入口の窓口の人に見せて優待パスを受け取らないと』・・・」

スバル「『15分も待たされちゃいます。急いで下さい！』・・・ええ！？何だよ、それ・・・！」

ティアナ「マジで・・・？入口も遠いな・・・」

マリオ「オイオイ、マジかよ……！これじゃあ、観覧車一網打尽作戦が出来ないじゃねえか……！」

アルルからのメールの内容に呆れ果てる逃走者達。しかし、動かなければハンターに捕まるのを待つしか無くなってしまう。それでも、動けばハンターに遭遇する危険も高くなる。

キヤロ「兎に角、先ずは入口に行かないと……！このままじゃ、ハンターに捕まっちゃうよ……！」

なのは「こっちから行った方が、案外近いかも」

ウィッチ「これは……本当に重労働に近いですわ……！」

続々と移動を開始する逃走者達。

ひかり「窓口つてあれの事？」

偶然入口の近くにいたひかり。

ひかり「あそこで優待パスをもらえばいいんだ、このVIPチケットを見せて……すみません」

受付人「はい、何でしょうか」

ひかり「あつ……！あなた『メトロイド』のサムス・アランさんじゃないですか」

受付人（サムス）「サムス……？人違いではありませんか？」

ひかり「そんな事言ってる場合じゃないよ・・・あの、私このチケットを持ってるんですけど・・・」

ひかりは受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サマス）「それ、VIPチケットですね。はい、少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

そこへ、キャロとアルルがやって来た。

キャロ「ひかりさん・・・!」

アルル「もう来てたんだ」

ひかり「キャロさんにアルルさん・・・」

受付人（サマス）「お待たせしました」

ひかり「はい!」

受付人（サマス）「こちらが優待パスです」

ひかり「有難う御座います!」

受付人（サマス）「いってらっしゃいませ」

九条ひかり 優待パス獲得

ひかり「すみません。それではお先に失礼します」

アルル「気を付けてね！」

ひかり「はい！」

キャラ「あ・・・あの、すみません」

アルル「これ、お願いします」

2人は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サ姆斯）「2名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

ワリオ「まだ先か、入口は・・・」

入口を目指すワリオ。

彼の姿を見たのは・・・

マリオ「おっ・・・ワリオいるな・・・ボクが1番捕まえた奴だ・・・！」

裏切り者・マリオだ・・・

マリオはワリオから、僅かながらも裏切り者の疑いを掛けられている。

マリオ「ワリオ、メリーゴーランド付近にいます」

彼は恨みを込めて、ワリオを密告・・・

通報を受けたハンターが、一斉に確保へと動く。

マリオ「あいつが捕まるところを見届けるとするか・・・」

ワリオ「回り道をした方がいいのか、ここは・・・？ハンターに気付かない様に入っていくのは難しい・・・ん・・・？ゲッ！ハンターじゃねえか！」

ハンターを目撃したワリオ。見つかる前に移動する。

しかし、気付かれた・・・

ワリオ「不味い！目付けられたー！」

ハンターに追われ、一目散に逃げるワリオ。しかし、彼がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ワリオ「ぐうああ！」 ポンッ

> i 1 8 3 4 5 — 2 0 9 6 <

ワリオ「ダメだったか・・・俺様の場合、目付けられたら即終わりだからな・・・」

マリオ「ヨッシャ・・・！ざまあみやがれ、ワリオ・・・！これで、ボクを疑っている奴はいなくなった・・・！」

いや・・・

響「よしっ・・・！もう少しで窓口だ・・・！」

響がいる・・・

ひかり「観覧車まで戻るのが大変だよ」

ひかりもいる・・・

なのは「あそこにハンターいるかも・・・」

なのはもいる・・・

受付人（サムス）「こちらが優待パスです。行ってらっしゃいませ」

その間に、窓口で待っていた2人の優待パスが発行された。

キャロ・ル・ルシエ、アルル・ナジャ　優待パス獲得

ルル「ここが入口ね・・・！」

ルルも入口付近に到着。

アルル「ルル・・・！あそこ、あそこ・・・！」

ルルー「アルル・・・もうもらったの、優待パス？」

アルル「うん。キャロももらったよ」

キャロ「待つてる時間かなりあるんで、ハンターに気を付けて下さいね」

ルルー「アドバイス有難うね・・・ここね・・・ちょっとあんた、これ・・・」

彼女は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サマス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

ひかり「すみません！従業員さん！」

観覧車に到着したひかり。

ひかり「これなんですけど・・・」

従業員（ロイ）「これは・・・優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

従業員（ロイ）「はい。確かに承りました！では、こちらへどうぞ」

ひかりは従業員に誘導され、観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

ひかり「はい」

指示されたゴンドラに乗り込むひかり。

九条ひかり ミッションクリア

ひかり「これでハンターに捕まる事も裏切り者に通報される事も無いね。はぁ、落ち着く・・・」

受付人（サムス）「こちらが優待パスです。いつてらっしゃいませ」

その間に、窓口で待っていたルルーの優待パスが発行された。

ルルー 優待パス獲得

ルルー「ホントに意外と待つわね・・・時間無いわね・・・急がないと・・・!」

現在の逃走者達の状況

ミッションクリア ひかり

優待パス獲得 アルル・ルルー・キャロ

優待パス未獲得 シェゾ・ウィッチ・マリオ・ピット・くるみ・響・
なのは・スバル・ティアナ

ハンター放出まで、およそ7分。

無事に観覧車に乗る事は出来るのか!?

観覧車へ避難！（後書き）

次回、64体のハンターが放出！

果たして、大量ハンターの犠牲になってしまう逃走者は現れてしまうのか！？

ハンター放出！（前書き）

エリアに近付く64体のハンター

放出まで、およそ7分

逃げられるのか！？

ハンター放出！

現在、優待パスを獲得出来ていないのは、シェゾ・ウィッチ・マリ
オ・ピット・くるみ・響・なのは・スバル・ティアナの9人。この
ままでは、迫り来る64体のハンターの餌食となってしまう。

ティアナ「ヤバいな・・・このままだと入口に辿り着く前に捕まる・
・・・」

窓口までかなりの距離を残しているティアナ。間に合うのか。

ピット「よしっ！着いたぞ！」

漸く窓口^{せうぐち}に辿り着いたピット。

ピット「すみません・・・これ、お願いします」

彼は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サマス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下
さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始
する。

ピット「あれ？良く見たら・・・君、サマスだよね？」

受付人（サマス）「私は受付の者です。サマスという者では御座い
ません」

ピット「でも、似てる人ボク知ってますよ?」

そこへ、なのはが到着。

なのは「ここでいいの、窓口って?」

ピット「なのはさん・・・ちょっと待って下さい。今やってもらってる最中なんで・・・」

なのは「じゃあ、少しの間見張っとくよ」

ピット「すみません」

アルル「いた、いた!」

観覧車に到着したアルル。彼女は従業員に優待パスを手渡す。

アルル「これ、お願いします・・・!」

従業員（ロイ）「君はさっきの・・・ん・・・?これは・・・優待パスですね?」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

従業員（ロイ）「はい。確かに承りました!では、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、アルルは観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

アルル「有難う御座います」

指示されたゴンドラに乗り込むアルル。

アルル・ナジャ ミッションクリア

アルル「よしっ……！これで安心……皆大丈夫かな？」

キャラ「あの人に言えばいいんだよね……？」

少し遅れて、キャラが観覧車の許に到着^{もと}。

キャラ「すみません……これを……」

彼女は従業員に優待パスを手渡す。

ルルー「ちょっと待って！私も！」

そこへ、ルルーが到着。彼女は間髪無く、優待パスを従業員に手渡す。

従業員（ロイ）「これは……優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

従業員（ロイ）「はい、確かに承りました。あの……別々のゴンドラに乗っていただく事になるのですが、宜しいでしょうか？」

ルルー「別に構わないわよね？」

キャロ「はい。大丈夫です」

従業員（ロイ）「かしこまりました。では2名様、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、2人は観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらとそちらのゴンドラにお乗りください」

指示されたゴンドラに乗り込む2人。

キャロ・ル・ルシエ、ルルー ミッションクリア

キャロ「ここまで来るのがしんどかった……」

ルルー「アルルからのメールが無かったら、絶対エリアを彷徨^{さまよ}ってたわね」

受付人（サムス）「こちらが優待パスです。行ってらっしゃいませ」

その間に、窓口で待っていたピットの優待パスが発行された。

ピット 優待パス獲得

ピット「なのはさん、ボク行きますんで……」

なのは「気を付けて！……あつ、あの……このチケットを……」

受付人（サムス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

スバル「待ってー!」

その時、スバルが突然飛び込んできた。

なのは「ス・・・スバル!？」

スバル「あの・・・あたしのもまとめてやって下さい・・・!」

受付人（サムス）「はい。VIPチケット2名様に変更ですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

スバル「助かった・・・」

なのは「何でそんなに息乱してるの？」

スバル「さっきハンターに追われてきたんですよ・・・危なかった・・・気付くのがコンマ1秒でも遅れてたら、あたし捕まっていたよ・・・」

なのは「でも、何とか撒けたんだよね？」

スバル「はい・・・前回逃げ切った、あの夏木りんって子に並ぶ為にも、こんな所で捕まる訳にはいきませんから・・・!出来る限りミッションにも参加して・・・」

なのは「そう言えばスバル、今までのミッション全部参加してたね」

スバル「そうです・・・やっぱりミッションはやつとくべきですよ・・・！さっきのミッションだって、ハンターって言う危険因子が増えるっていうのに、動かなかった人の気が知れないですよ・・・！」

ハンター放出まで 5分

シエゾ「これヤバイぞ・・・！あと5分でハンターが出てきちゃう・・・！」

ウィッチ「入口が遠いですわ・・・！」

ティアナ「あちこちにハンターいるじゃん・・・！近付けないよ・・・！」

気が知れない3人・・・

受付人（サムス）「2名様、お待たせしました。こちらが優待パスです。行つてらっしゃいませ」

窓口で待っていた2人の優待パスが発行された。

高町なのは、スバル・ナカジマ 優待パス獲得

スバル「ちょっと急ぎましょう・・・！5分切ってますから・・・！」

なのは「ホントに？時間経つの早いね・・・」

くるみ「やつとよ・・・」

別のルートから窓口に辿り着いたくるみ。

くるみ「ちよつとあんた・・・これお願い・・・」

彼女は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サムス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

その様子を陰で見ていたのは・・・

マリオ「くるみだな、あれは・・・通報する訳にはいかないな・・・」

裏切り者・マリオだ・・・

マリオ「あいつの次に来た奴を捕まるか・・・！クククク・・・
思い知るんだな・・・！ボクを敵に回したらどれだけ怖いのかをな・・・！」

またしても、くるみを泳がせる・・・

ピット「着いたぞ！」

観覧車に到着したピット。

ピット「すみません・・・！これ、お願いします・・・！」

彼は従業員に優待パスを手渡す。

従業員（ロイ）「これは・・・優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

ピット「あれ？ロイじゃん。何でこんな所でバイトしてるの？」

従業員（ロイ）「ロイじゃありません、従業員です」

ピット「いやいや・・・どう見たってロイじゃん・・・」

従業員（ロイ）「誰かの空似では無いですか？」

ピット「そうなのかな・・・？」

従業員（ロイ）「はい。では、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、ピットは疑問を抱きながら観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

ピット「分かりました」

指示されたゴンドラに乗り込むピット。

ピット ミッションクリア

ピット「しかし自分でもびっくりだな．．．前回の屈辱が嘘の様に長く生き延びてる．．．」

前回、僅か32秒で確保されたピット。今回は、その雪辱を果たせるのか。

受付人（サマス）「お待たせしました。こちらが優待パスです。行つてらっしゃいませ」

その間に、窓口で待つていたくるみの優待パスが発行された。

美々野くるみ 優待パス獲得

ハンター放出まで 4分

くるみ「不味い．．．！4分切ってる．．．！行くしかないわね、ホントに．．．！」

響「あつ．．．くるみだ．．．！」

くるみ「響？急いだ方がいいわよ。もう4分切ってるから．．．！」

響「マジで？分かった．．．！あつ．．．あれか．．．すみません。えっと．．．これを．．．」

響は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サマス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下

さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

しかし、裏切り者・マリオがその姿を・・・見た・・・

マリオ「あいつは響か・・・今回の逃走中の大本命と言われている奴か・・・だったら、その大本命の名前傷付けてやるよ・・・！相方の奏と共に、牢獄で屈辱を味わうんだな・・・！クククク・・・！」

マリオは嘲笑ちやうしょうの様な薄ら笑いを浮かべ、響を通報する・・・

マリオ「北条 響、入口付近にいます」

通報を受けた6体のハンターが、一斉に響に迫る。

マリオ「クククク・・・！大本命さんよ・・・精々せいぜい苦しんで死ね・・・！」

通報された事など知る由もなく、響は優待パスが発行されるのを待つ。そして・・・

受付人（サムス）「お待たせしました。こちらが優待パスです。行ってらっしゃいませ」

北条 響 優待パス獲得

響「ホントに時間無いじゃん・・・！ギリギリかもしれない・・・」

でも行くしかないよ・・・ってマジかよー!？」

見つかった・・・

響「タイミング良過ぎー!まさか、裏切り者のせい!?くそっ!」

ハンターに追われ、一目散に逃げる響。

マリオ「クククク・・・!これで響も終わりだ・・・!さてと・・・」

一仕事を終えたマリオは、そのまま窓口へと向かう。

マリオ「すみません・・・このチケットなんですけど・・・」

彼は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サマス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

マリオ「ん?サマス?久し振りじゃないか」

受付人（サマス）「私はサマスじゃありません。受付の者です」

マリオ「何やってんだこんな所で?バイトか?」

会話する余裕を見せる彼に対し、この女は・・・

響「こんな所で、裏切り者の思惑通りにさせてたまるか〜！」

曲がり角を利用して、更に逃げる。

響「ここで撒き切らなきゃ女が廃^{すた}る！」

入り組んだ道を利用する響。そして、何と言う事か、またしてもハンターを振り切ってしまった。

ハンターを撒いたのは、これで2度目・・・

響「絶対裏切り者潜んでたでしょ？じゃなかったら、あんな絶妙のタイミングでハンターが来る訳無いもん・・・！」

妖精（リインフォース？）「あなた・・・足速いですね・・・浮遊している私でさえ追い付くのがやっとですよ・・・」

響「まあね・・・日々鍛えてるから・・・！でもゴメンね・・・結局相棒を探せなくて・・・」

妖精（リインフォース？）「いいですよ・・・何故か分かりませんが、近い内に会える様な気がしました・・・」

響「・・・？」

響を追ったハンターが、別の標的を見つけた・・・それは・・・

ウィッチ「何だって広い遊園地だこと・・・ってえ〜！？」

ウィッチだ・・・

ウィッチ「何故こうなるの〜!？」

一目散に逃げるウィッチ。しかし、その差は加速度的に縮まっていた。最早、逃走不可能・・・

ウィッチ「ひいゃ〜!」 ポンッ

> i 1 8 4 6 1 — 2 0 9 6 <

ウィッチ「折角貯めたお金が・・・全部飛んでいってしまいましたわ〜・・・ダメだこりゃ・・・!」

ハンター放出まで 3分

受付人（サムス）「お待たせしました。こちらが優待パスです。行つてらっしゃいませ」

その間に、待っていたマリオの優待パスが発行された。

マリオ 優待パス獲得

プルルルル プルル

マリオ「メールだ・・・! さあ、嬉しい報告だ・・・! えっ・・・はあ!？」

ひかり「ウィッチさんが確保された・・・」

キャラ「『残り12人』・・・もう19人も捕まってるじゃん・・・！」

この間、優待パスを受け取ったなのは・スバル・くるみの3人が観覧車に乗り込んだ。

高町なのは、スバル・ナカジマ、美々野くるみ ミッションクリア
これで観覧車に乗れていないのは、シェゾ・マリオ・響・ティアナの4人。

ハンター放出まで 2分30秒

響「あれだ、観覧車！」

先程、入り組んだ道を利用してハンターの追跡を免れた響。観覧車に到着。

響「すみません！これで乗らせて下さい・・・！」

彼女は従業員に優待パスを手渡す。

従業員（ロイ）「これは・・・優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

従業員（ロイ）「はい。確かに承りました！では、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、響は観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

響「有難う御座いました」

指示されたゴンドラに乗り込む響。

北条 響 ミッションクリア

響「さっきの従業員さん・・・あたしの肩に乗ってる妖精さんの事、全然見向きもしなかったみたいだったけど・・・」

妖精（リインフォース？）「私の姿は、遊園地の関係者には見えずに特定の人にしか見えないんです。関係者の人達は、私の存在を噂としては知っているものの、単なる迷信で片付けちゃってますから・・・」

響「それはちょっと寂しいよね・・・」

ハンター放出まで 2分

ティアナ「やっと着いた・・・」

やっとの思いで窓口に辿り着いたティアナ。彼女は受付人にVIPチケットを提示する。

受付人（サムス）「1名様、VIPチケットですね。少々お待ち下さい」

受付人はVIPチケットを受け取り、機械に通して読み取りを開始する。

ティアナ「ちよつと早くして・・・！こっちは時間無いんだから・・・！」

シェゾ「何処だ・・・！？入口なんて何処にあるんだよ・・・！？」

まだ窓口に辿り着けていないシェゾ。果たして、間に合うのか。

マリオ「おつ、いるな」

観覧車の近くにやって来たマリオ。

マリオ「ちよつと・・・これで早く乗らしてくれ・・・」

彼は従業員に優待パスを手渡す。

従業員（ロイ）「これは・・・優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

マリオ「おっ？お前ロイじゃないか？何なんだ、この遊園地は？ボクの知ってる奴がいつばいいいるな・・・」

従業員（ロイ）「ロイではありません。従業員です」

マリオ「何で皆しらばくれるんだ？どう見たって本人なのに・・・」

従業員（ロイ）「はい。確かに承りました！では、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、マリオは観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

マリオ「おお、サンキュー」

指示されたゴンドラに乗り込むマリオ。

マリオ ミッションクリア

ハンター放出まで 1分30秒

マリオ「ゴンドラに乗って通報する事は、確か出来なかったんだよね・・・くそ・・・」

ゴンドラに乗った状態で逃走者を通報する事は違法行為である。故に、ゴンドラに乗った時点でマリオの仕事は一旦終わりという事である。

マリオ「結局一網打尽という訳にはいかなかったか・・・」

受付人（サムス）「お待たせしました。こちらが優待パスです。行ってらっしゃいませ」

その間に、待っていたティアナの優待パスが発行された。

ティアナ・ランスター 優待パス獲得

ティアナ「結構待ってる時間が長いつて・・・！このままじゃ捕まる・・・！」

シェゾ「あれはティアナか・・・？観覧車の方に行ってるという事は・・・あいつもうパスを受け取ったのか・・・！？ヤバイ・・・！まさか俺だけじゃないだろうな、獲ってないのは・・・！」

残念だが、優待パスを受け取っていないのはシェゾただ1人だ・・・

シェゾ「くそっ・・・！何としても辿り着かなければ・・・！」

焦るシェゾ・・・

ハンター放出まで 1分

ティアナ「皆もう乗ってるのかな、観覧車に・・・ずっと動いてなかったから、全然状況が把握出来ない・・・！」

シェゾ「ティアナの足取りを逆戻りすれば、その先に窓口がある筈だ・・・！」

ひかり「あと誰が乗ってないんだろう・・・？」

スバル「ティアまだ来てないんじゃない・・・？」

ルルー「絶対シェゾ来てないでしょ・・・？」

なのは「あと40秒だよ・・・？」

ピット「皆早くしないと・・・！」

> i 1 7 6 3 1 — 2 0 9 6 <

ティアナ「あつ！あつた！」

漸く観覧車に到着したティアナ。彼女は従業員に優待パスを手渡す。

従業員（ロイ）「これは・・・優待パスですね？」

従業員は、読み取り機で優待パスのバーコードを読み取る。

ティアナ「早くしてよ・・・！一大事なんだからさ・・・！」

従業員（ロイ）「はい。確かに承りました！では、こちらへどうぞ」

従業員に誘導され、ティアナは観覧車の乗り場へ。

従業員（ロイ）「では、こちらのゴンドラにお乗りください」

ティアナ「はい・・・」

指示されたゴンドラに乗り込むティアナ。

ティアナ・ランスター ミッションクリア

ティアナ「もう・・・！しんどい・・・！」

そして、トレーラーが入口付近に到着・・・謎の集団の部下達と同時に、64体のハンターが次々とエリアに放たれていく。

シェゾ「何だと・・・！？もうタイムオーバーかよ・・・！？」

次々と現れるハンターの大衆に、シェゾは入口に向かう事が出来ず、

来た道を戻る。

現在64体のハンターが放出され、その数は合計70体に。

唯一エリアに取り残され、優待パスも受け取れていないシェゾに生き残る道は・・・ない・・・

シェゾ「冗談じゃねえぞ・・・！俺はこのまま、大量のハンターの中を逃げ惑うしかねえのかよ・・・！？」

更に、謎の集団が遊園地を襲い、園内はパニックに陥っていた・・・

ポーラ「ねえ・・・あれ何？」

ジェフ「えっ？」

プー「何か俺・・・嫌な予感しかしないぞ・・・！」

ネス「ヤバイよね、絶対・・・！」

従業員（マルス）「皆さん、ここは危険です！早く避難して下さい！」

従業員（リンク）「安全な場所へ、速やかに避難をお願いします！」

従業員（ルイージ）「急いで下さい！」

ネス「やっぱり危ないって！皆逃げよう！」

ポーラ・ジェフ・プー「うわぁー！」

シエゾ「おいおい・・・！人がいなくなっていくぞ・・・！このままじゃ・・・ほら、来たじゃねえか！」

見つかった・・・

シエゾ「ヤベエ〜！」

一目散に逃げるシエゾ。しかし、相手が70体では勝ち目が無い。最早、逃走不可能・・・

シエゾ「くっそ〜！」 ポンッ

>i18462—2096<

シエゾ「マジかよ・・・！これで終わりかよ・・・！？」

多勢に無勢・・・

残る逃走者は、アルル・ルルー・マリオ・ピット・ひかり・くるみ・響・なのは・スバル・ティアナ・キャロの11人

その時・・・

>i18463—2096<

突然、タイマーが停止・・・

70体のハンターを始め、エリア内の全ての観客・従業員・アトラクションが止まってしまった・・・

それは、逃走者が避難した観覧車でも・・・

キャロ「えっ・・・？何・・・？」

ピット「急に止まったんだけど・・・」

くるみ「怖い・・・！結構上の方で止まってるじゃない・・・！」

スバル「何で止まったの・・・？」

アルル「まさか故障・・・！？」

謎の存在「・・・」

不安に駆られる逃走者達をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには、ゲーム開始以来の『VOTE』の文字が・・・

それをタッチすると、更にいろんな項目が現れた・・・

謎の存在は、その中の『TIMER』をタッチした・・・

プルルルル プルル

ルルー「何よ、もう・・・！」

メールだ・・・

マリオ「ん・・・？通達だつて・・・」

響「『これよりゲームを一時中断し、観覧車ルーレットを始める』・
・・・観覧車ルーレット？」

ひかり「『観覧車を動かしたい時間を、5分刻みで下限5分上限3
0分で入力し、メールで送信せよ』・・・」

ティアナ「『全員が入力した時間の合計時間だけ観覧車が作動する』
・・・」

なのは「『観覧車が再び停止した時、1番下にいた者は逃走中の本
戦から強制失格となる』・・・ええ！？」

ピット「うわぁ・・・今回は運任せなんだ・・・」

逃走者に襲い掛かる強制失格の恐怖。

果たして、逃走者達の運命は！？

ハンター放出！（後書き）

次回、恐怖の観覧車ロシアンルーレットがスタート！

ここで犠牲になってしまう逃走者は誰なのか！？

恐怖のロシアンルーレット　そして・・・（前書き）

1番下に来れば強制失格となる、恐怖の観覧車ルーレット！

果たして、本戦から脱落する哀れな逃走者は誰なのか！？

恐怖のロシアンルーレット　そして・・・

逃走者に課せられたのは、時間の投票。

5分刻みで、下限5分上限30分で投票し、全員の合計時間だけ観覧車が稼働する。そして、観覧車が再停止した時に1番下にあるゴンドラに乗っていた逃走者は、逃走中の本戦から強制失格となる。

残る11人の逃走者に試される運・・・

ひかり「こんなの運任せでしょ・・・？5分で・・・！」

アルル「誰かがいつぱい動かすと思うんだよ・・・だったらボクは5分で十分・・・！」

キヤロ「誰が何分にするのか分からないけど・・・20分・・・！」

ルル「ゴチャゴチャ言っても始まらないわ・・・5分・・・！」

ピット「5分でいいでしょ・・・？誰か30分とか動かすんじゃないかな・・・？」

なのは「難しい・・・15分でいいかな・・・？」

スバル「ここは・・・10分だ・・・！」

くるみ「そんなに長くなくてもいいと思うけど・・・15分にしてください・・・！」

響「1周するのにどのくらい掛かるかを考えると・・・あたしは、10分でいいと思う・・・!」

マリオ「自分の所に来ない様にするには・・・一番長い30分・・・!」

ティアナ「自分の所に来たらヤダな・・・25分だ・・・!」

謎の存在「・・・」

次々と投票を済ませる逃走者達をモニター越しに見ていた謎の存在・

すると、突然画面が切り替わり、『RESULT』の文字が浮かび上がった・・・

それと同時に、モニターに現れたタイマーの数値が徐々に増えていく・・・

そして数値は、145:00を表示して止まった・・・

謎の存在は、その下にある『START』の文字をタッチした・・・

プルルルル プルル

なのは「メールだ・・・!何だろう・・・?」

ティアナ「何何・・・？『投票の結果、観覧車の稼働時間は』・・・」

ピット「『合計145分となった』・・・！」

ひかり「2時間以上もずっと乗ってなきやいけないの・・・！？」

スバル「こんな事今までであった・・・？145分もずっと観覧車に乗り続けたなんて・・・！」

ルルー「まあ、水分補給の為にボトルがあるから問題ないかもしれないけど・・・」

マリオ「『それでは』・・・」

くるみ「『これより』・・・」

キヤロ「『観覧車を』・・・」

アルル「『再稼働させる。健闘を祈る』・・・」

響「遂に始まる・・・！」

> i 1 8 5 0 2 — 2 0 9 6 <

タイマーが動き始めた・・・

それと同時に、観覧車も再稼働・・・

恐怖のロシアンルーレットが始まった・・・

くるみ「怖い・・・」

スバル「こんな所で失格になりたくない・・・！」

ルルー「それにしても長い・・・」

響「この間、ずっと乗ってないといけないんでしょ・・・？」

マリオ「暇過ぎるだろ・・・？」

なのは「誰かと電話したいけど・・・」

ひかり「身体も神経も疲れるもんなん・・・」

ティアナ「会話出来る雰囲気じゃないし・・・第一、あたしは誰とも話したくない・・・！」

キャラ「これから何をすればいいんだろう・・・？」

ピット「1人で遊べるゲームがある訳でもないし・・・」

アルル「寝よう・・・」

今はハンターに追われている身では無い為、少しばかりの安心感がある逃走者達。やる事が無いと、彼等はゴンドラの中で、これまでのゲームで疲れ切った肉体と精神を癒す為眠りに就く。

しかし、若干名起きている者も・・・

響「さっきまでの賑やかな雰^{にぎ}囲気が嘘の様に静かだね・・・」

妖精（リインフォース？）「人もアトラクションも止まってるみたいですし・・・」

響「ねえ・・・妖精さん・・・」

妖精（リインフォース？）「何ですか・・・？急に浮かない顔して・・・」

響「さっきのメールで、『謎の集団』ってあったんだけど・・・この集団って、一体何なの？妖精さんは、彼等の事知ってるの？知ってるんだったら、教えられる範囲でいいから教えてくれないかな？」

どうやら響は、先程のミッションのメールに書いてあった「謎の集団」という言葉が頭に引っ掛かっている為に眠りに就く事が出来ない様だ。

妖精（リインフォース？）「・・・」

響「いや・・・言いたくなかったら、無理して言わなくてもいいよ・・・あたしが勝手に聞いた事だし・・・」

妖精（リインフォース？）「いえ、話しますよ・・・」

響「えっ・・・？」

妖精（リインフォース？）「でもその為には、先ずこの遊園地が、何故昼間に営業しないかのかを話す必要があります・・・」

響「そんなのに理由なんかあるの・・・？」

妖精（リインフォース？）「あります・・・この遊園地が造られたこの土地は、油田などの海底資源が豊富にあった事で有名な地域なんです・・・この辺りでは、その昔から多くの海底資源が揚げられてきました・・・しかし、まだまだ多くの資源が眠っているに違いないという噂が絶えなかったんです・・・その為、嘗て^{かつ}昼間に営業を行っていた時、営業が終わって人目に付きにくい深夜に、この付近を荒らし回されるという事件が多発したんです・・・」

響「それで・・・深夜でも監視の目が回る様に、深夜営業に転向したって事か・・・」

妖精（リインフォース？）「はい・・・ところが最近、深夜でも人目を憚^{はば}らずに、この遊園地・・・いえ、この土地を乗っ取るうとする者が現れたというのを小耳に挟んだんです・・・その名も『メイズ』・・・あのメールに書いてあった『謎の集団』の正体です・・・」

「

響「メイズ・・・？」

妖精（リインフォース？）「はい・・・彼等がいつ攻めてくるか分からなかった為、私は相方と一緒にこの遊園地をずっと守り続けてたんです・・・メイズからこの土地を乗っ取らせない為に・・・」

響「でも、相方は何日も行方不明なんですよ？」

妖精（リインフォース？）「そうなんです・・・恐らくメイズの部下の1人が観客に紛れて、相方を誘拐したんだと思います・・・多

分メイズは、私と相方が揃わないとこの遊園地を守る事が出来ない事を知っていたんじゃないかと・・・でも・・・」

響「でも？」

妖精（リインフォース？）「今はその心配も無いみたいです・・・私、相方が近くに感じるんです・・・」

響「ホントに？何処に・・・何処にいるの？」

妖精（リインフォース？）「それははっきりとは分かりません・・・これ以上深入りすると、メイズに私の居場所がばれてしまいます・・・そうなれば、この遊園地は今度こそ終わりです・・・」

響「そつか・・・要するに・・・今はどうする事も出来ないんだ・・・何かすぐくもどかしい・・・！このまま遊園地が破滅の一途を辿っていくのを、あたし達は指を咥^{くわ}えて見てるしか出来ないなんて・・・！そんなの・・・あたしが絶対許さない・・・！」

妖精（リインフォース？）「私も同じ気持ちです・・・でも、今はこれが得策と言わざるを得ないんです・・・それと・・・えっと・・・」

響「あつ・・・そう言えば、あたしの名前教えてなかったね・・・あたしは北条 響。響って呼んでいいから」

妖精（リインフォース？）「響ちゃん・・・ですか・・・いい名前ですね・・・響ちゃん、待ち時間がかなり長いみたいですから、少し睡眠を取った方がいいんじゃないでしょうか・・・？私の予想だと、これからもっと過酷な展開になると思います・・・だから、今

の内に身体を休めておかないと・・・あのハンターとかいうのにも負けてしまいますよ・・・？」

響「それもそうだね・・・今まで何回も全力疾走したから・・・通りでさつきから怠^{たる}いと思っ^だてんだよね・・・分かったよ、妖精さん・・・暫^{ひまじ}く寝させてもらうね」

妖精（リインフォース？）「はい・・・お休みなさい・・・」

こうして、響も眠りに就いた・・・

> i 1 8 5 0 3 — 2 0 9 6 <

観覧車が停止するまで、残り2時間を切った・・・

殆^{ほとん}どの逃走者は、身体を休める為に、ぐっすりと寝息を立てて眠っている・・・

しかし、やはり若干名起きている者が・・・

ティアナ「ホントにくるみなのかな、裏切り者・・・」

これまで1度もハンターに追われる事無く、ずっと隠れ続けていたティアナ。当初、くるみを裏切り者だと9割断定していたが、ここに来て更なる疑問を抱いていた。

ティアナ「あたしが窓口に着く少し前に、マリオの声が聞こえた・・・何かに驚いた様な、『はあ!？』って言う声が・・・あの声は多分、自分が思っていた事とは違う事が起こった時の声・・・しかも、その時にウィッチの確保情報が届いていた・・・つまり、ウィッチ

の確保はマリオが起こると思っていた事とは違う事・・・だとすると・・・まさか、マリオが裏切り者・・・？」

あまり人と接していない彼女にとって、声は重要な情報だ。

ティアナ「もし本当にマリオが裏切り者だったら・・・あたしがくるみへの疑いを強めたあの時・・・くるみも通報されてたって事になるじゃない・・・嘘・・・ますます分からなくなってきた・・・！」

自身の推理に困惑するティアナ。

そして、起きている者がもう1人・・・

ピット「11人中、男はボクとマリオの2人だけか・・・」

記念すべき（？）最初の確保者・ピットだ・・・彼もまた、ハンターに殆ど追われていない。

ピット「この後で男が全員捕まって、前回みたいな女だらけの逃走中になったらカッコ悪いな・・・女達に負けてやんのってバカにされるよ・・・」

長時間牢屋に投獄された者だけが分かる屈辱・・・

> i 1 8 5 0 4 — 2 0 9 6 <

観覧車が停止するまで、残り1時間を切った・・・

この頃になると、逃走者全員が疲労が溜まった心身を癒す為に、寝

息を立てて眠っていた。

気が付けば、響と共に行動している妖精も、彼女に寄り添う様にして就寝していた。

そのまま時は流れ・・・

> i 1 8 5 0 5 — 2 0 9 6 <

遂に、残り1分となった・・・

しかし、この後誰かが強制失格になるかもしれないという恐怖を忘れたかの様に、逃走者達はまだ目を覚まさない・・・

そして、観覧車ルーレットが終了・・・

観覧車は鈍い音を立てて、今にも止まりそうになる。

アルル「ん・・・？」

漸く1人の逃走者^{たふしや}が目を覚ました。

アルル「すごい変な音・・・何・・・？」

そして、観覧車が再停止。それと同時に、強い振動がゴンドラ全体に伝わった。

ひかり「うわっ・・・！何・・・！？」

スバル「何だ、今の・・・！？」

ルルー「すごい揺れ・・・！」

どうやら、その振動で全員が目を覚ました様だ。

プルルルル プルル

なのは「え・・・？何・・・？」

メールだ・・・

マリオ「はっ・・・！そうだった・・・！まだゲームの最中だった・・・！集中しないと・・・！」

キャロ「すっかり気持ち良く寝ちゃってた・・・」

くるみ「まだ逃走中終わってないのに・・・何で寝ちゃったんだろう、私・・・」

響「メールだ、メール・・・！何・・・？」

ティアナ「ぼやけて良く見えない・・・」

ピット「えっと・・・ちょっと待って・・・」

牢獄

レムレス「メール来たよ・・・！」

はやて「長過ぎるわ、ルーレット」

レッド「退屈過ぎて、皆寝ちまったぞ・・・！」

ゆり「皆起きて！結果が出たわよ！」

ゆりの声で、牢獄で眠っていた者達も一斉に起きる。

アミティ「何・・・？」

シグ「眠い・・・」

ラフィーナ「何よ、結果って・・・？」

フェイト「ロシアンルーレットの結果よ」

ワリオ「本当か？」

エリオ「誰ですか、失格になったの？」

トウーン「早く教えてよ」

リュカ「早く〜」

レムレス「じゃあ読むね・・・『観覧車ルーレット終了。強制失格になったのは』・・・」

誰だ・・・

レムレス「『キャラ・ル・ルシエ』！」

レムレス以外「ええゝ！？」

> i 1 8 5 0 6 — 2 0 9 6 <

キャラ「ええゝ・・・何でゝ・・・？」

これにより、キャラが本戦から脱落・・・

残る逃走者は、アルル・ルル・マリオ・ピット・ひかり・くるみ・響・なのは・スバル・ティアナの10人となった。

観覧車ルーレットが終了し、エリア内の全ての観客・従業員・アト

ラクシオンが再び動き始めた・・・

しかし、それは遊園地の破滅を意味する……

謎の集団・メイズの策略により、観客は遊園地から次々と逃げ出し、アトラクションは跡形もなく陥落させられていく……

そして、何と言う事か・・・メイズは逃走者10人を乗せた観覧車をも破壊してしまったではないか・・・

観覧車は大車輪の様に、大地を転がり何処かへと消えてしまった・・

遊園地は、メイズの手によって荒地と化してしまった……

そして、中央エリアに降り立った1機のヘリコプター……

そこから、あの3人が姿を現す・・・

彼等の前には、多くの部下達が待機していた・・・

アルファ「ご苦労だったな、お前達……」

ベータ「やりましたね、アルファ様……」

ガンマ「我々の願望が、遂に現実となりました……！」

アルファ「ああ・・・これでこの土地は、完全に我々メイズの物となった！ハハハハハ・・・ハッハッハッハッハ！ハーッハッハッハッハッハ！！」

アルファの高笑いが、遊園地に木霊^{こだま}する・・・

謎の存在「・・・」

その様子をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには、『REVIVAL GAME』の文字が・・・

謎の存在は、それをタッチした・・・

ブルルルル　ブルル

レムレス「あっ！またメールだ」

せつな「今度は何？」

奏「嫌な予感がするんだけど・・・」

レムレス「通達だつて・・・！」

クルーク「通達？」

ドラコ「何だろう？」

レムレス「『これより牢獄の者達を対象に』・・・」

リデル「えっ・・・？」

レムレス「『敗者復活ゲームを行う』！」

この通達に、牢獄の者達は大喜び。

エリアに取り残された牢獄の21人に復活のチャンス。

彼等は牢獄からスタートし、エリアに人数分用意されている宝箱から復活の珠を入手し、エリアの入り口から脱出すればゲームに復活出来る。宝箱の中には、復活の珠が2つずつ入れられている。逃走者はどちらか1つでも持って脱出すればよい。しかし、エリアには70体のハンター。その中を掻い潜って脱出しなければならない。また、復活の珠を1個地面に落とせば、そこから半径10m以内にいるハンターの動きを5秒間だけ止める事が出来る。制限時間は10分。

確保された21人に与えられた、ゲーム復帰の大チャンス。

このチャンスを活かせるのか！？

恐怖のロシアンルーレット　そして・・・（後書き）

次回、21人による復活ゲームがスタート！

果たして、何人が復活を遂げられるのか！？

そして、転がっていった観覧車に乗っていた10人の逃走者の安否
はいかに！？

復活ゲーム そして舞台は新境地へ・・・（前書き）

牢獄の21人に復活のチャンスが与えられた！
果たして、復活出来るのは誰だ！？

そして、死亡したと思われる、観覧車に乗っていた10人の逃走者
達は！？

復活ゲーム そして舞台は新境地へ・・・

牢獄の者達は、復活への切符となる復活の珠が入った宝箱を探し出し、それを持ってエリアの入口から脱出出来れば、それ以降のゲームに復活出来る。また、手に入れられる2つの復活の珠の内1つを地面に落して犠牲にする事で、半径10m以内にいるハンターの動きを5秒間だけ止める事が出来る。

しかし、70体のハンターがエリアを埋め尽くしている為、復活の珠を探すのはかなりのリスクを伴う。勿論ハンターに確保されれば、復活の権利を失う。

彼等に与えられた時間は僅か^{わず}10分。

レムレス「兎に角、復活の珠を入口に持っていけば、ボク達は助かるんだよ！」

牢獄の者達は喜びを爆発させる。

> i 1 8 6 2 7 — 2 0 9 6 <

復活ゲームが始まった・・・

同時に牢獄の扉が開放され、21人は一斉に脱獄する。

レッド「絶対復活するぞー！」

彼等は先ず、エリアに置かれている宝箱を探さなければならない。

しかし、1体のハンターが脱獄していく逃走者達を見つけ、確保へと向かう。

すると次々とハンターが逃走者達に迫っていく。

それに反応して散り散りになる逃走者達。

だが、逃げ遅れたリュカがそのまま確保・・・

リュカ「何で？まだ始まって20秒経ってないじゃん・・・」

更に、3体のハンターに追われているのは・・・

ワリオ「来るなー！」

ワリオだ・・・

・
一目散に逃げるワリオ。しかし距離を詰められ、成す術無く確保・・・

ワリオ「こんなの無理に決まってるだろ・・・！」

更に・・・

ラフィーナ「キャー！」

ラフィーナも2体に追われ、一目散に逃げる。しかし、逃げた先にいたハンターと挟み撃ちに遭い、逃げ場を失い確保された・・・

ラフィーナ「もう何よ・・・」

そんな中、運良く宝箱を発見したフェーリ。

フェーリ「これね・・・！あつた、復活の珠・・・！」

しかし、そこへハンターが迫る・・・

フェーリ「来たわ・・・！」

彼女は復活の珠を1つ地面に落とす。すると、迫って来たハンターの動きが止まった。

フェーリ「今の内に・・・！」

しかし、逃げた方向に復活の珠の効力を受けていないハンターが・・・
・復活の珠の犠牲が無駄に終わり確保・・・

フェーリ「折角獲った珠なのに・・・」

続々と確保されていく逃走者達。

今度はせつなが見つかった・・・

せつな「うわあゝ！」

逃げてても逃げてても現れるハンターに太刀打ち出来ず、そのまま確保・・・

せつな「ハンター多過ぎる・・・！」

一方で、ゆりは宝箱を発見。復活の珠を入手。

ゆり「あとは入口に向かうだけね・・・」

更に、クルークも復活の珠を手に入れた。

クルーク「これなら復活は目前だ・・・！」

その一方で、ドラコはハンターに追われていた・・・

ドラコ「いや〜！」

一目散に逃げるドラコ。曲がり角を利用してハンターを撒こうとする。しかし、逃げた先にも数体のハンター・・・

ドラコ「うわ〜・・・！無理だ〜・・・！」

ハンターに挟まれ確保・・・

ドラコ「宝箱にも辿り着けなかった・・・」

そんな中で、はやてが宝箱に入った復活の珠を獲得。

はやて「急がんと・・・！ハンター多過ぎるわ・・・！」

既に復活の珠を持っている、ゆりとクルーク。

10体ほどのハンターが視界に捉えたのは・・・

クルーク「嘘だろ！？こんな時に！」

クルークだ・・・

クルーク「でも、これを使えば・・・！」

彼は復活の珠の1つを地面に落とす。すると、追って来たハンター
の動きが止まった。

クルーク「5秒あれば十分だ・・・！」

ハンターが止まっている時間は僅^{わず}か5秒。この間に移動しなければ
格好の標的となる。

しかし・・・

クルーク「ふええっ!?!」

曲がり角の死角からハンターが現れ、逃げる間もなく確保・・・

クルーク「そんな・・・」

更にリデルが・・・

リデル「もう無理です・・・」

シグが・・・

シグ「多過ぎるよ・・・」

キャラが・・・

「全然逃げられないじゃん．．．！」

立て続けに確保された．．．

その中で、奏が．．．

奏「あつた．．．！」

ウィッチが．．．

ウィッチ「これですわね．．．！」

エリオが．．．

「獲ったぞ．．．！」

復活の珠を獲得した。

そして．．．

ゆり「あつた！」

ゆりが入口に到着。悠然とエリアを脱出する。

> i 1 8 6 2 8 — 2 0 9 6 <

ゆり「あれから１度もハンターに追われずに来れたなんて．．．あの意味幸運ね、私．．．！」

シエゾ「くそ……何処行ってもいるじゃねえか、ハンター……
！これじゃ探すに探せねえ……！」

物陰からハンターを監視し、隙を突いて強行突破を図ろうとするシエゾ。

しかし、背後からハンターが……気付く間もなく確保……

シエゾ「なっ……！こんな事あっていいのかよ……！？」

フェイト「ハンターいた……！」

ハンターを見つけ、物陰に一旦身を隠すフェイト。

しかし、別の方向から来たハンターに見つかり、身動き取れずに確保……

フェイト「これ、見つかったら終わりじゃない……」

はやて「アカン……！ハンターがいっぱいおって、全然近付かれへん……！」

ハンターを警戒しながら入口を目指すはやて。

10体ほどのハンターに見つかった……

はやて「最悪や……！切り札として置いたけど……しやあない！」

彼女は復活の珠の1つを地面に落とす。すると、追って来たハンタ

ーの動きが止まった。

はやて「これでもう、腹決めていくしか無くなってもうた・・・」

レムレス「これだね、宝箱って・・・」

宝箱を見つけたレムレス。復活の珠を入手。

しかし、その直後にハンターとニアミス・・・逃げる間も与えられる事無く確保・・・

レムレス「何てこつたい・・・」

これで残るは、アミティ・ウィッチ・トウーン・レッド・奏・はやて・エリオの7人・・・

はやて「あつた、あつた・・・！」

漸く入口を見つけたはやて。

しかし・・・彼女に大量のハンターが迫る・・・

はやて「アカン・・・！こんな時に・・・！」

ハンターに追われながら一目散に入口へ向かうはやて。

ゆり「あれは・・・はやて・・・？はやて早く！ダッシュ、ダッシュ！」

はやて「ダッシュしとるわ！」

ゆり「ハンターそこまで来てるわよ！」

はやて「そんなの自分で分かっとるわ！」

はやて、間に合うのか。

はやて「ヨッシャ！間に合った！」

> i 1 8 6 2 9 — 2 0 9 6 <

ゆり「ギリギリね・・・」

はやて「ホンマやで・・・70体とかハードル高過ぎるわ・・・！」

彼女に続いて入口に現われたのは・・・

奏「あそこが入口・・・？」

南野 奏だ・・・

奏「あそこにハンターが屯^{たむろ}ってるけど・・・2個持つてる私には、そんな物怖くない！」

復活の珠を2つ所持している奏。1つを犠牲にしてハンターの動きを止めて脱出を試みる。

意を決して入口へ走る奏。それに気付いた大量のハンター。

奏「私の気合いのレシピ見せてあげる！」

そう叫び、彼女は復活の珠の1つを地面に投げ付ける。すると、追って来たハンターの動きが止まった。

そして、何事も無かった様に脱出。

> i 1 8 6 3 0 — 2 0 9 6 <

はやて「奏ちゃん、勇気あるな」

奏「丁度2つ持ってたんで・・・都合が良かっただけです」

しかし、復活の珠を持っているウィッチとエリオは・・・

ウィッチ「かなり遠い所で獲ってしまったから、入口が遠いですわ・・・」

エリオ「こっちは危ないな・・・かと言って、回り道もかなりの口スになるし・・・」

まだ辿り着けない・・・

その時・・・

トウーン「もう獲られてる!?!」

トウーンリンクが宝箱を発見したが、既に誰かに獲られた後だった。

トウーン「ヤバイよ、時間も無いし・・・ってハンター来たよー!」

ハンターに見つかった・・・

一目散に逃げるトゥーンリンク。しかし、加速度的に距離を詰められそのまま確保・・・

トゥーン「くそっ・・・復活したかったっ・・・」

エリオ「あれか！」

入口付近に辿り着いたエリオ。近くにハンターがいない事を確かめ、そのまま入口へ向かう。

エリオ「よしっ！」

> i 1 8 6 3 1 — 2 0 9 6 <

エリオ「しんどい・・・！70体は恐ろしいって・・・！」

ゆり「でもまあ、復活出来たんだもの・・・良かったじゃない」

エリオ「確かにそうですね・・・」

残るは、アミティ・ウィッチ・レッドの3人・・・

アミティ「あつた！」

レッド「やつとだ・・・」

復活の珠を入手した2人。これより入口に向かわなければならぬが、果たして間に合うのか。

ウィッチ「もうハンターが多過ぎて、自分の場所が分からなくなってきましたわ・・・」

入口を目指すウィッチ。

背後からハンター・・・しかし、彼女は気付いていない。

そのまま復活の珠を使う間もなく確保・・・

ウィッチ「ええ！？こんな事ってあっていいんですの・・・！？」

レッド「ヤベエ！ハンター来た！」

ハンターに追われ、一目散に逃げるレッド。

レッド「これでも食らえ！」

彼は復活の珠の1つを地面に叩き付ける。すると、追って来たハンターの動きが止まった。

レッド「急ごう・・・！マジで時間無え・・・！」

アミティ「うわー！」

アミティもまたハンターに追われていた。

アミティ「もう使っちゃおう！」

彼女は復活の珠の1つを地面に落とす。すると、追って来たハンタ

ーの動きが止まった。

アミティ「早くしないと・・・！」

レッド「あれだな、入口って・・・！」

入口付近に到着したレッド。

しかし、大量ハンターがいる為に近付けない。

レッド「あの時使っくんじゃなかったな・・・どうしたものか・・・」

アミティ「あそこだ・・・！でも何でハンターがいるの・・・？」

アミティも入口付近に辿り着いた。しかし、やはり大量のハンターに足止めを食らう。

その時、大量のハンターが1人の逃走者を見つけた・・・見つかったのは・・・

レッド「何でこっち来るんだ〜！？」

レッドだ・・・

アミティ「あっ・・・ハンターが向こうに行ってる・・・今の内に・・・！」

この隙に、アミティは入口へ向かう。

レッド「ヤベエ〜！ホントにヤベエ〜！」

ハンターに追われ、一目散に逃げるレッド。しかし、その距離はどんどん無くなっていき、遂に確保・・・

レッド「ちくしょう〜・・・入口まで来ておいて・・・」

アミティ「辿り着いた！」

その間にアミティは脱出に成功。

> i 1 8 6 3 2 — 2 0 9 6 <

これにより復活ゲームが終了。

復活を果たしたのは、月影ゆり、八神はやて、南野 奏、エリオ・モンディアル、アミティの5人。

5人は入口に止められていたトレーラーに乗り込み、新エリアを目指す。

その頃、新たな舞台となる新エリアに観覧車に乗っていた10人の逃走者が散り散りになって・・・

10人の逃走者「ZZZZ・・・」

眠っていた・・・

響「ん．．．うん．．．？」

その時、響が起き上がった．．．

響「あれ．．．？ここ何処．．．？見覚えのない所だな．．．」

アルル「ん．．．？」

ひかり「何ここ．．．？」

なのは「さっきのエリアじゃ．．．ない．．．」

マリオ「見た事無い景色だな．．．」

ティアナ「何でこんな所にいるの、あたし．．．」

ピット「こんな花園、遊園地に無かったよね．．．？」

ルルー「こんなお城無かった筈．．．」

くるみ「ま．．．まさかここって．．．新エリア．．．！？」

そう．．．１０人がいたのは、遊園地と隣り合わせになっている新エリア．．．

エリア中央には城が建っており、それを囲む様に多くの花園があった．．．広さは東京ドームおよそ５個分．．．

スバル「それにしても、何であたしここにいるんだろう？こんな所に足を踏み入れた覚えがないのに．．．」

時はタイマーが動き出す直前に遡る……
さかのぼ

ネス「ちよつと待つて！」

深夜の遊園地に遊びに来ていたMOTHER御一行。全てのものが止まっていたが、何故か彼らだけは動いていた……

そして、ネスが何かを感じたのか、一緒に遊びに来ていたポーラ・ジェフ・プーを呼び止める。

ポーラ「ど……どうしたの、ネス？」

ジェフ「早く逃げないと……！」

プー「殺されるかもしれないんだぞ……！」

ネス「でも、観覧車の中にこの事を知らない人がいるんだよ！このままだと、観覧車が壊されて……中にいる人達皆死んじゃうよ！そんなの放っておけないでしょ！？」

ジェフ「そ……そうだけど……」

プー「でも、どうするんだよ」

ネス「皆手伝って！」

ポーラ「えっ？何で？」

ネス「中にいる人達をボク達の超能力で眠らせた後に地面に下ろすんだよ」

ポーラ「ええ！？そんな事していいの！？」

ネス「これしかあの人達を助けられる方法は無いでしょ！？後でパニックになっても困るし・・・」

ジェフ「それもそうだね・・・」

プー「仕方ないな・・・手伝ってやるよ」

ジェフ「1人も犠牲者を出したら一大事だもんね・・・」

ポーラ「しょうがないわね・・・今回だけだからね」

ネス「有難う皆・・・！」

こうして10人の逃走者達は、4人の少年少女の助けにより、観覧車が破壊される前に救出されたのだ・・・

プー「・・・で、どうすんだよ？」

ネス「どうするって・・・？」

ジェフ「助けたのはいいけど、ここに置き去りにする訳にはいかないでしょ？」

ポーラ「全てのものが動き出したら、この人達助けた意味無いわよ」

？」

ネス「分かってるよ。でも、安全な場所が何処にも・・・」

????「俺が教えてやろう・・・」

そこに現れた1人の男・・・

ジェフ「だ・・・誰・・・？」

プー「何処かで見た事ある様な・・・」

ポーラ「私も見た事ある・・・」

ネス「アイク・・・アイクじゃないか！？何でこんな所に！？」

アイク「深夜に営業されるこの遊園地が危険に曝さらされてるって聞いてな・・・そんな事より、安全な場所・・・俺は知ってるぞ・・・」

ネス「ホントに！？教えてよ！」

アイク「この隣にある別のテーマパークだ・・・あそこにはお城が建っていて、そこにいるお姫様が特別な結界を造って、テロの様な攻撃をされない様にしてあるそうだ・・・俺が案内してやるから、その10人を連れて来い・・・！」

10人の逃走者達は、MOTHERの4人とアイクによって新エリアに連れて来られたのだ・・・

しかし、催眠術に掛けられていた逃走者がそれを知る由は無い・・・

前代未聞の下見をせずに行われる新エリアでの逃走中。

果たして、彼等を待ち受けるものは一体何なのか！？

復活ゲーム そして舞台は新境地へ・・・（後書き）

次回、ゲーム再開！

復活組を加えた15人の逃走者は、逃げ切る事が出来るのか！？

ゲーム再開！（前書き）

生き残っている10人に復活した5人を加え、残る逃走者は、アル・ルルー・アミティ・マリオ・ピット・ひかり・くるみ・ゆり・響・奏・なのは・はやて・スバル・ティアナ・エリオ・の15人

ゲーム再開！

逃走者が現在いるのは、旧エリアの隣に位置する新エリア・・・通称「天空のガーデン」・・・

エリア中央には姫が住んでいる城が建っており、それを囲む様にバラ科・ユリ科・ラン科・キク科・スミレ科・アオイ科・ツリフネソウ科の花が咲き誇る7つの花園が存在する。広さは東京ドームおよそ5個分。

15人の逃走者達は、このエリアを下見無しで逃げ回る。

また逃走者達は自首も出来る。城の前に用意されている自首届を書いて姫に渡せば、その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアする事が出来る。

ブルルルル　ブルル

ひかり「えっ・・・？メール・・・？」

ルルー「『復活ゲームが終了』・・・復活ゲームなんてやってたの？」

生き残っていた10人は、遊園地に遊びに来ていたネス達によって眠らされていた為、復活ゲームが行われていた事を知らなかった。

ピット「『月影ゆり、八神はやて、南野　奏、エリオ・モンディア
ル、アミティが復活』・・・すごい、5人も復活した！メチャメチャ心強い！」

なのは「はやてちゃんとエリオ君、復活したんだ!」

響「奏が来た!すごい、すごい!」

アルル「アミティも復活だって!仲間が増えた!」

くるみ「偽善者03と08が復活してきてる・・・最悪・・・!選よりによって、何で偽善者が増えんのよ・・・!?冗談じゃないわよ・・・!」

ティアナ「『なお、これにより裏切り者のボーナスも』・・・」

スバル「『40万円減額する』・・・ああ、そうか・・・部隊長以外は通報されて捕まったんだっけ・・・?これはいい事だ・・・!」

安堵の表情を見せる逃走者に対し・・・

マリオ「『40万円減額』だと!?!」

怒りを露あらわにする裏切り者・マリオ・・・

マリオ「通報した奴が復活したら、その分を減らす算段だったのか・・・ふん、まあいいさ・・・また通報してそいつ等が捕まれば同じ事だ・・・!クククク・・・!今に見てるよ、復活者達・・・!裏切り者の本当の怖さを知るのはここからだ・・・!」

薄ら笑いを浮かべる裏切り者・・・彼の暗躍が終わる事はあるのだろうか。

そしてこれより、新エリアでの逃走劇が幕を開ける。

> i 1 8 7 7 9 — 2 0 9 6 <

ゲーム再開・・・

エリア中央に聳^{そび}え立つ城から6体のハンターが現れ、エリアに放たれた・・・

ルルー「前にいたエリアに比べると、少し狭くなった感じがするわね・・・」

ピット「このエリア高低差は結構あるけど、隠れるスペースが殆ど^{ほとんど}無いな・・・見つかったら、全力疾走して逃げるしかなさそうだな・・・厳しい・・・」

新エリアには、中央に聳^{そび}え立つ城以外の建物は殆ど^{ほとんど}見当たらない。ハンターを撒くのは至難の業だ。

くるみ「まあ、でも偽善者03と08は裏切り者じゃない事は分かった・・・あと3人の中に絶対いる筈・・・！特に偽善者01^{ゼロワン}・・・！」

なのは「綺麗な花がいっぱい・・・！こんな所が世間にあつたなんて・・・！」

くるみに疑われている偽善者01^{ゼロワン}・高町なのは・・・

ゆり「もしつぼみが来てたら、大興奮でしょうね・・・」

・ 復活組の月影ゆり。しかし今は、花を觀賞している場合ではない・

はやて「裏切り者はマリオ君で決まりやろ・・・さつきワリオ君もマリオ君に入れた言うてたし・・・他に6票も入っとる人なんて絶対おらんやろ。だから、マリオ君とハンターにさえ気を付けてれば絶対大丈夫や」

旧エリアでは情報収集役を買って出た、復活組のはやて。裏切り者はマリオと結論付けた様だ。

ひかり「死角があまり無い分ハンターを見つけやすいけど、見つかりやすくもなってるんだよね・・・動きまわるしかないのかな・・・？」

新エリアの地図を見ながら作戦を考えるひかり。

ひかり「えっと・・・あつ、ハンターだ・・・！」

向かう先にハンターを見つけ、一目散に逃げる。

幸いにもハンターには気付かれていない様だ。

ひかり「ハンターいますよ・・・！」

スバル「嘘でしょ・・・！？」

逃げた先にスバル・ナカジマ・・・彼女もひかりに釣られ、一目散

に逃げる。

この2人は、何度も一緒にミッションをクリアしてきている仲である。次のミッションも、協力し合えるのか。

スバル「危ない・・・！エリアが狭くなっているのに加えて、隠られる場所があんまりないんだよね・・・」

ひかり「この中を60分以上も逃げるって相当辛いですよ・・・」

スバル「あたしが想像している最悪のシナリオに動く可能性が高いな、これは・・・」

奏「深夜の花園って、なんかこう・・・昼間には無い美しさがあるわね・・・」

花園を見て回っている、2011年度のプリキュア・キュアリズムこと南野 奏。そこへ・・・

響「あっ・・・！奏だ・・・！」

同期のプリキュア・キュアメロディこと北条 響だ・・・

響「奏・・・！復活おめでとう」

奏「響・・・ありがとう。ここまで良く逃げてるわね」

響「まあね。2回ぐらい追い掛けられたけど・・・」

奏「あら？響・・・横で浮いてるのは一体・・・？」

響「奏・・・妖精さんの姿が見えるの？」

奏「妖精？」

響「うん。さっきいた遊園地を守ってくれる妖精さんなんだ・・・でも、相方がいないから守れなかったんだよ・・・」

妖精（リインフォース？）「そうなんです・・・おかげで、メイズに土地を乗っ取られてしまいました・・・」

奏「メイズ？何、メイズって？」

妖精（リインフォース？）「それと一緒に、あの遊園地の事について手短にお伝えしておきます・・・」

妖精は奏に、響に話した事を手短に教えた。

奏「そんな事があったのね・・・」

響「ねえ妖精さん。さっき『相方が近くにいるのを感じる』って言うってたでしょ？結局何処にいるの？」

妖精（リインフォース？）「そうですね・・・この際ですから断言します・・・！この天空のガーデンの何処かにいます・・・！」

響「ええ！？ホントに！？」

妖精（リインフォース？）「間違いありません・・・！感じます・・・相方の存在を・・・！」

奏「でも何処にいるのかさっぱり・・・」

響「確かにあたし達にはそれを感じられないから・・・そうだ！ねえ、奏・・・妖精さんの相方探すの手伝ってよ！」

奏「ええ？」

響「このエリアの何処かにいる事が分かってんだもん。手分けして探そう！見つかったら連絡し合ってさ・・・もし妖精さんと相方が揃えば、あの遊園地を何とか出来るかもしれないじゃん！探そうよ！」

奏「いいけど・・・私達2人だけじゃ探すのは困難よ？そうだしさつきアルルさんがやってた一斉メールで、皆にその事を伝えましょうよ！きつと手伝ってくれる筈よ！」

響「なるほど！じゃあ、あたしが皆に伝えておくよ。奏は探しながら逃げてて」

奏「OK！じゃあ、お互い頑張りましょう！」

響「当たり前だよ！絶対逃げ切ろう！」

奏「ええ！」

そう言つて2人は別れた。

響「よしっ・・・！早速送るか・・・！」

響は、妖精の存在と相方の探索願いを一斉メールする事に。

エリオ「捕まりたくないな、復活したからには・・・！」

アミティ「これで捕まったら、牢獄の人達に申し訳ないよ・・・！」

逃げ切りを誓^{ちか}う復活組の2人。

そこへ・・・

プルルルル プルル

アミティ「何・・・？」

エリオ「えつと・・・響さんからだ・・・」

マリオ「『私は今、さっきまでいた遊園地を守ってくれという妖精さんと一緒に行動しています』・・・何だ、妖精って？」

ゆり「『しかし、相方がいなかった為に守れませんでした』・・・相方・・・？」

はやて「『そこで、皆さんに妖精さんの相方を探してほしいんです』・・・」

アルル「『見つけたら、すぐあたしに連絡を下さい。北条 響より』・・・」

ティアナ「妖精がいたなんて聞いてないわよ・・・！況^ましてその相方って・・・！」

ピット「でも、探してあげて妖精に会わせれば、絶対何かは起こるって事だよな？」

ひかり「どうしますか、スバルさん？」

スバル「やるに決まってるじゃん・・・！やっぱり、困ってる人がいたら助けてあげないと・・・！」

ひかり「ですよな？」

ルルー「探したいけど・・・ハンターが6体もいるから、それをまず優先して警戒しとかないと・・・！」

なのは「何処かの花園に隠れてるとか、そんな事はないよね・・・」

響からの願いを受け、妖精を探すなのは

その近くにいたのは・・・

マリオ「おっ・・・！高町なのはって奴か・・・あいつが捕まれば、相当な痛手だろうな・・・！特に、機動六課の連中は・・・！」

裏切り者・マリオだ・・・

彼は携帯を取り出し、なのはを通報する・・・

マリオ「高町なのは、スミレ科の花園にいます」

通報を受けたハンターが、なのはに迫る。

マリオ「さて、ボクはここから離れますかね・・・」

なのは「花の中に隠れてたら、それこそ見つけれないよ・・・そんな事してまで見つかりたくないのかって言いたい・・・ってハンター来てるじゃん!」

見つかった・・・

なのは「ハンター速い!速いつて!」

一目散に逃げるなのは。曲がり角を利用して、ハンターを撒こうとする。しかし・・・

なのは「嘘!?!」

逃げた先にも別のハンター・・・

なのは「ちよつと待って!」

方向転換し、更に逃げる。だが、その差はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

なのは「ああ!」 ポンッ

>i18780—2096<

なのは「捕まった・・・ハンター怖い・・・!あの速さ・・・尋常じゃないって・・・!」

魔導師のエース・オブ・エース、新エリアに移動して5分も経たずに撃沈・・・

プルルルル プルル

アミティ「あつ・・・！またメール来た・・・！」

ティアナ「ええ！？なのはさん捕まった！」

はやて「嘘やろ！？なのはちゃん確保！？」

エリオ「しかも裏切り者だって・・・！」

スバル「なのはさん・・・」

なのはの確保に、戸惑いを隠せない機動六課の者達。

くるみ「『裏切り者の通報により、スミレ科の花園付近にて高町なのは確保』・・・なのはが裏切り者じゃなかった・・・残ってる2人が上司のなのはを通報する訳が無い・・・だとすると・・・やっぱりマリオ・・・！？」

その頃、旧エリアの遊園地では、メイズの者達が自分の国として再建を行っている最中であつた・・・

アルファ「長かった・・・ここまで来るのに、一体どれほどの犠牲があつた事か・・・しかし、その犠牲も決して無駄ではなかった・・・！とうとう我等の時代が来たのだ・・・！我々メイズの時代がな・・・

．．！」

ベータ「アルファ様！」

ガンマ「大変です！」

アルファ「どうした、ベータにガンマ．．．何事だ？」

ベータ「捕らわれの身となっていた、遊園地の妖精の姿が見当たりません！」

アルファ「な．．．何だと！？何故そんな事になっている！？」

ガンマ「我々も全く原因が分かりません．．．！特殊な鎖で繋ぎ、
2度と外の世界に出ていけない様にしてあった筈なのに．．．！何
処にもその姿が無いのです．．．！」

アルファ「くそ．．．！あの妖精はもう1体と揃うと、我々の手
では負えない力を発揮してしまうというのに．．．！そうなれば、
我々の野望はまた幻で終わってしまう．．．！おい！ベータ！ガン
マ！」

ベータ・ガンマ「はっ！」

アルファ「その妖精の気は感じられんのか！？」

ベータ「完全とはいきませんが．．．微かなら．．．！」
かす

ガンマ「どうも隣の天空のガーデンと言う所からのようです．．．
！」

アルファ「ならば一刻も早く連れ戻して来い！良いか・・・決して2体の妖精を会わせてはならぬぞ！」

ベータ・ガンマ「は・・・はっ！」

ベータとガンマは、捕らわれていた妖精を再び連れ戻す為に、天空のガーデンへと向かって行った・・・

それと同じ頃、天空のガーデンの城内では・・・

アイク「どういう事ですか、姫！？」

逃走者達を新エリアへと導いたアイクが、城に住む姫に抗議をしていた・・・

姫「ですから・・・完全な結界を造り出すには、あと20分程度の時間が必要なのです・・・」

アイク「それでは遅過ぎます！メイズは、この場所の存在を嗅ぎ付けてしまっているのですよ！？恐らく15分・・・いや、10分後にはこちらに攻め入って来ます！そうなれば、隣の遊園地と同じ運命を辿る事になります！姫！」

姫「せめて・・・せめて誰か結界を造る手伝いをしてくれる者がいれば・・・！」

謎の存在「・・・」

メイズと姫の行動をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには『SHORTEN THE TIME』の文字が・・・

謎の存在は、それをタッチする・・・

その瞬間、城の裏側に「時間短縮装置」が4台設置された・・・

プルルルル プルル

アルル「何・・・？」

メールだ・・・

奏「ミッション5・・・！」

ゆり「『現在、謎の集団が遊園地の妖精を探しにこのエリアを目指している』・・・」

はやて「『残り50分になると、謎の集団はエリアに侵入し、再び妖精を確保してしまう』・・・さっきの響ちゃんの願いが果たせなくなるっちゅう事かいな・・・！」

アミティ「不味いでしょ、それは・・・！」『それまでに、城の裏側

に設置された』・・・」

エリオ「『4台の時間短縮装置を同時に操作すれば時が進み、ゲーム時間を20分間早める事が出来る』・・・!」

ひかり「『やるかやらないかは君達の自由だ!』・・・」

MISSION? ゲーム時間を短縮せよ!

現在、メイズのベータとガンマが逃亡した遊園地の妖精を再確保する為に、逃走者のいるエリアに向かっている。残り50分になるとエリアに侵入し、妖精を捕まえてしまう。それまでに、城の裏側に設置された4台の時間短縮装置のボタンを同時に押せば、エリアの周囲に結界が張られベータとガンマの侵入を防ぐ事が出来る。それと同時に時が進み、ゲーム時間が20分間短縮される。勿論、その間の賞金も増やす事が出来る。

スバル「20分減るってかなりでかいよ・・・!」

ひかり「2人いるから、このまま行きましょうよ・・・!」

スバル「そうだね・・・!」

マリオ「今度は城の裏側か・・・クククク・・・!そこで待ち伏せしてれば、今度こそ一網打尽出来るぞ・・・!」

エリアには6体のハンター。動けば、見つかる危険が高まる。

更に、裏切り者・マリオの存在がミッションクリアの大きな障害となる。

ミッション終了まで、およそ9分。

ベータとガンマの侵入を防ぎ、時間を縮める事が出来るのか!?

ゲーム再開！（後書き）

逃走者に与えられた、時間短縮のチャンス・・・

クリアすれば、逃走成功の確率が格段に上がる！

無事成功させられるのか！？

時間短縮へ！（前書き）

逃走者に与えられた逃走成功への近道

これを活かす事が出来るのか！？

時間短縮へ！

残り50分までに、城の裏側に設置された4台の時間短縮装置のボタンを同時に押せば、エリアの周囲に結界が張られ、ゲーム時間を20分間短縮する事が出来る。

エリオ「20分減ると残り30分か・・・これは結構な利益が見込めるぞ・・・！」

アミティ「ハンター怖いけど・・・勇気持って行くしかないでしょ、このミッションは・・・！」

はやて「でも4人必要やからな・・・ずっと同じ場所におったら、ハンターに気付かてまうし・・・」

エリアでは6体のハンターが逃走者を搜索。大勢で集まれば、それだけリスクが高まる。

マリオ「ミッションに集まった4人がクリアした瞬間に通報すれば、濡れ手で粟だ・・・！クククク・・・！」

更に、裏切り者・マリオの存在がミッションクリアの大きな壁となる。

ルルー「失敗したら50分のままでしょ・・・？それは、いくらなんでもきついわ・・・」

ゆり「この中を50分って、想像してるより過酷になる筈・・・」

響「妖精さんの為にも、このミッションをクリアしなきゃ女が廃る。
すた
・・・！」

ティアナ「あたし人と会いたくないもん・・・！やる訳無いじゃん。
・・・！それよりも誰かやつてくれる筈・・・！」

殆どの者がミッションクリアに動く中、人間不信になっているティ
ほんと
アナは、やはり動きたくない様だ。

ピット「やつとこうかな・・・？でも成功した時に裏切り者が残
ってたら、またそいつを助ける事になるし・・・悩むな・・・」

ミッションに向かうか悩むピット。

その近くにハンター・・・

ピット「でも今のところ、ボク何もしてないしな・・・これだけ
生き延びてるんだから、何か爪跡を残しておきたいのも事実だし。
・・・どうしよう・・・ってハンターだ・・・！」

見つけた・・・

ピット「ヤバい！」

直線勝負で一目散に逃げるピット。しかし、直線勝負で彼がハンタ
ーに敵う訳がない。最早、逃走不可能・・・

ピット「ぎゃあー！」 ポンッ

ピット「ええゝ．．．！？何この終わり方ゝ．．．！？」

迷いが命取りとなった．．．

プルルルル プルル

奏「メール．．．！」

くるみ「『バラ科の花園付近にて、ピット確保』．．．！」

スバル「『残り１３人』だって．．．！」

ひかり「やっぱり厳しいですよ、このエリアは．．．！」

マリオ「ピットがとうとう捕まったか．．．ん．．．？と言う事は．．．スマブラメンバーはボクだけ．．．？」

残るスマブラメンバーは、マリオただ１人．．．

マリオ「すごい事だぞ、これは．．．！クククク．．．！そうと分かれば遠慮などもう必要ない．．．！このまま逃げ切ってやろうじゃないか．．．！無論ボーナスも加えて、２００万円以上持ち帰ってやる．．．！」

裏切り者の性さがに拍車さかが掛かる．．．

スバル「ここをまっすぐ行って、それから右に曲がればお城だ．．．！」

ひかり「ハンターと裏切り者には注意しましょう・・・！」

ゲーム開始から、共に行動し次々とミッションをクリアしてきた九条ひかりとスバル・ナカジマ。

その近くに・・・

スバル「あっ・・・！ひかり逃げるよ・・・！」

ひかり「な・・・何ですか・・・？ハンターなんていないじゃないですか・・・」

スバル「違うよ・・・！あれ・・・！」

スバルが指差す先にいたのは・・・

くるみ「逃げ切る為には、このミッションはやっとかないと・・・！」

美々野くるみだ・・・

スバルはくるみに投票しており、更にはやてから「くるみに3票入っている」と聞かされていた為、くるみを裏切り者だと思っているらしい。

ひかり「くるみさんじゃないですか・・・逃げる必要なんかないですよ」

スバル「くるみが裏切り者だと思っただよ、あたしは・・・！あの、前回仲間に散々酷い事言っただけじゃん・・・！」

ひかり「まあ、確かにミッション参加者を罵^{ののし}ってましたけど・・・
今それは関係ない様な・・・」

スバル「しかも、あたし達の事『史上最底の偽善者』だって・・・
機動六課の人間全員を『飯事^{まめごと}してる粋^{いき}がり偽善者』だって言ったんだよ・・・！？裏切り者になるには絶好の人柄じゃん・・・！」

くるみ「ん・・・？あれは・・・ひかりと偽善者06^{ゼロシックス}じゃない・・・」

くるみも2人の存在に気付き近付いていく。

ひかり「くるみさん・・・ここでも偽善者発言連発ですか・・・」

スバル「でしょ・・・！？最低なのはどっちだよって言いたいよ・・・！兎に角、くるみが裏切り者だから逃げないと・・・！」

ひかり「ちょっと待って下さい・・・！それは早計ですよ・・・！」

スバル「何で？くるみを庇^{かば}うつつもり・・・！？」

ひかり「そうじゃないです・・・！裏切り者はくるみさんじゃないです・・・！多分マリオさんです・・・！」

スバル「マ・・・マリオが？あの人^{ひと}が裏切り者だなんて、想像出来ないよ・・・」

ひかり「そうだと思います・・・でも私、はやてさんからマリオさんに3票入ってる事を伝えられてたんです・・・！」

スバル「そんな事言ったら、あたしだって部隊長からくるみに3票入ってるって言われたよ？」

ひかり「それだけじゃないです・・・！前のエリアで響さんと会ったんですけど、マリオさんには実は4票入ってたんですよ・・・！響さんもマリオさんに投票したって言ってたんで・・・」

スバル「ええ？じゃあ、本当にマリオなの？」

ひかり「断定は出来ませんが・・・可能性はくるみさんよりも十分高いです・・・！」

そこへ、くるみが接触してきた。

くるみ「あんた達、さっきから何話してんの？」

スバル「くるみ・・・あんた、裏切り者じゃないよね？」

くるみ「な・・・何よ・・・！？スターズ分隊揃って私を裏切り者だって断定するつもり・・・！？！」

ひかり「揃ってって・・・何があっただんですか？」

くるみ「結構前になのはから、私が裏切り者だって電話で言ってたの・・・それと、奏が通報されて捕まった直後に、ティアナから裏切り者の烙印らくいんを押されたの・・・！ホントに頭に来る！これだから偽善者は嫌いなよ！」

スバル「あんたね！さっきから偽善者偽善者ってうるさいんだよ！

寧ろ、何であたし達があんたに偽善者呼ばわりされなきゃならないの！？」

くるみ「本当に偽善者じゃない！特に、あんたの上司の高町なのは！何が『自分と同じ境遇に遭ってほしくない』よ！？そんな事言ってる人が、普通部下に対して殺人未遂みたいな事何度もする！？人の事思ってるつもりで、自分の憂さ晴らししてるだけじゃない！そんな最低の偽善者と一緒にいる人はね、皆あの人と同じ様な人間になるのよ！要するに、皆偽善者になっていくのよ！そんな人に憧れを持つなんて・・・人を見る目がないにも程があるわよ！この後継ぎ偽善者！」

スバル「何だよ、さっきから黙って聞いてれば！人の事平気で偽善者呼ばわりして！」

ひかり「ちよつと2人とも、喧嘩は止めて下さいよ！」

怒りに任せた不毛な言い争いに、ひかりが止めに入る。

ひかり「今は喧嘩してる場合じゃないでしょ！？ゲームの最中じゃないですか！それに、今の話はゲームに全く関係ないじゃないですか！こんな下らない事やって、ハンターから逃げられなかったらどうするんですか！？兎に角、2人とも落ち着いて下さい！今は誰が裏切り者かの話をしてるんじゃないですか！」

スバル「そ・・・そうだったね・・・」

くるみ「ついつい熱くなっちゃって・・・」

ひかり「はぁ・・・くるみさん、嫉妬心を抱くのは勝手ですけど、

それをすぐ口に出して・・・それも『偽善者』って言葉で貶^{けな}すのは、
もういい加減止めましょうよ・・・それで前回、のぞみさんがどれ
だけ悲しい思いをしたか・・・」

くるみ「・・・」

ひかり「スバルさんも怒りに任せて熱くなり過ぎるなんて・・・ス
バルさんらしくないですよ・・・こんな事で青筋立ててたら、これ
からのゲーム運びが大変ですよ・・・自分の首を絞めてるって事に
早く気付かないと・・・」

スバル「・・・」

ひかり「ふう・・・さてと・・・閑話休題、本題に戻りましょう。

くるみさん、あなたは裏切り者じゃないんですね？」

くるみ「絶対違う・・・！と言うか、私少し前に牢獄の前を通り掛
かった時に、マリオに5票入ってるって情報をもらったのよ・・・」

スバル「5・・・5票も・・・!？」

ひかり「やっぱりマリオさんですよ。30人いた中で5人も入れば
十分でしょ？」

その時・・・

ピリリリリリ

くるみ「わっ！何何何!？」

電話だ・・・

スバル「誰の！？誰の！？」

ひかり「あっ・・・私のです・・・はやてさんから電話来ました・・・もしもし？」

はやて「ひかりちゃん？今、近くに誰かおる？」

ひかり「えっ？何ですか？」

はやて「もしおったら、伝えてほしいねんけど・・・」

ひかり「はい・・・」

はやて「裏切り者はマリオ君で決まりや・・・！」

ひかり「あっ・・・そうですか」

はやて「うん。牢獄で情報を集めてたら、マリオ君には6票入ってる事が分かったんや」

ひかり「6票ですか・・・！分かりました、伝えておきます・・・」

はやて「OKや・・・！私も他の人に同じ事伝えとくわ・・・！」

ひかり「了解です・・・！」

2人は電話を切った。

スバル「何だつて？」

ひかり「裏切り者はマリオさんで決まりだそうです。6票も入つて
するという集計結果が出たらしいので・・・」

くるみ「やつぱりそうだったのね・・・！でも、だとしたら何で私
残つてるのかしら？」

スバル「どういう事？」

くるみ「私、マリオと1回だけ鉢合わせになつたの・・・普通姿
が見えなくなつた瞬間に通報する筈だから、私はあの後にハンター
に追われてもおかしくなかつた・・・でもそんな事は全く起こらな
かつたのよ・・・」

ひかり「それって・・・若しかしたら、くるみさん・・・」

くるみ「な・・・何・・・？」

ひかり「泳がされてるんじゃないんですか？」

くるみ「お・・・泳がされてる・・・？何の為に・・・？」

スバル「なるほど・・・前回の事があるから、皆裏切り者はマリオ
じゃなくってくるみだと思つてるんだよ・・・！それをマリオは利用
して、態わざと通報してないんだよ・・・！」

くるみ「何よそれ・・・！？じゃあ私は、マリオのいい様に使わさ
れてるって事・・・！？？」

ひかり「早い話がそうですね・・・」

くるみ「あのヒゲ男・・・！私を出しにするなんて・・・絶対許さないわ・・・！」

ひかり「でも、もうマリオさんの策略も終わりです。はやてさんが他の皆さんにも伝えておくって言っていましたから・・・」

スバル「それは絶好のチャンスだ・・・！早いとこミッション行こう・・・！」

ひかり「確か4人必要ですから、あと1人連れて行きましょう・・・！」

不毛な言い争いも治まり、漸く^{やっぴ}ミッションクリアへと向かう3人。

その3人の姿を見たのが・・・

マリオ「あれはひかりとスバルと・・・くるみか・・・」

裏切り者・マリオだ・・・

マリオ「くるみがいるから通報出来ないな・・・あいつさえいなきゃ、2人同時に通報出来たのに・・・あいつは絶対に残しておかないといけないからな・・・ん・・・？」

彼が次に目にしたもの、それは・・・

マリオ「ヤバい、ハンター来てるじゃないか・・・！」

ハンター・・・

迫り来るハンターに気付き、一目散に逃げるマリオ。

ハンターは気付いていない様だ。

ミッション終了まで　5分

マリオが逃げた先にいたのは・・・

アミティ「あっちだよ、城って・・・」

復活組のアミティ・・・

マリオ「ハンター来てるぞ・・・！」

アミティ「嘘・・・！？」

マリオに釣られ、アミティも別方向へと逃げる。

アミティ「ハンター来たって・・・マリオは優しいな・・・ちやんとそう言う事教えてくれるんだもんね・・・」

マリオ「今のはアミティか・・・クククク・・・！いい機会だ・・・！また捕まえてやる・・・！」

マリオは携帯を取り出し、アミティを通報する・・・

マリオ「アミティ、ラン科の花園付近にいます」

通報を受けたハンターが、一斉にアミティの確保へと動く。

マリオ「よしっ．．．！これでアミティの確保は確定だ．．．！ク
ククク．．．！2度も裏切り者に通報されて捕まる屈辱を^{とく}篤と味
わえ．．．！」

しかし、その様子を見ていたのが．．．

響「あれマリオだね．．．？アミティを見て電話で何か話してた．
．．多分通報してる．．．！」

妖精と行動している響だ．．．

妖精（リインフォース？）「裏切り者確定．．．ですね．．．」

響「うん．．．やっぱり思ってた通りだ．．．！マリオだよ．．．
！」

ミッション終了まで 4分

アミティ「もうすぐでお城だ．．．！誰かいるかな．．．ってハン
ターがいるじゃん！」

見つかった．．．

アミティ、逃げ切れるのか！？

時間短縮へ！（後書き）

次回、ミッション5が終了！

迫り来るハンターから、アミティは逃げられるのか！？

そして、逃走者達は時間を短縮させられるのか！？

ミッション5終了！　そして・・・（前書き）

ミッション終了まで4分を切った！

無事にクリアして、時間を短縮出来るのか！？

そして、またしてもマリオに通報されたアミティの運命は！？

ミッション5終了！そして・・・

アミティ「ハンターがいるじゃん！」

ハンターに見つかったアミティ・・・一目散に逃げる。

マリオ「捕まれ・・・！同じ捕まり方をする屈辱を味わえ・・・！」

アミティを通報したマリオ。確保を確信し、不敵な笑みを浮かべる。

アミティ「ヤバイよ！ヤバ過ぎる！」

曲がり角を何度も利用し、逃げ続けるアミティ。逃げた先にあるアオイ科の花園に身を隠す。

ハンターはアミティを見失った様だ・・・

アミティ「来てない・・・？諦めた・・・？」

しかし、そのハンターが別の逃走者を見つけた。見つかったのは・・・

ルルー「何、この足音・・・？ん・・・？ええ！？ハンター！？」

ルルーだ・・・

ルルー「速いし近い！」

一目散に逃げるルルー。しかし、その距離はどんどん縮まってい

最早、逃走不可能・・・

ルルー「あういゝ！」 ポンッ

> i 1 8 9 9 4 — 2 0 9 6 <

ルルー「悔しいゝ・・・！折角ここまで残ったのに・・・！」

拳を鍛えし女王、ハンターに惨敗・・・

アルル「今、ルルーの声が聞こえたんだけど・・・まさか捕まった？」

ブルルルル プルル

エリオ「メール来た・・・！」

ゆり「『アオイ科の花園付近にてルルー確保』・・・」

アミティ「うわぁ、捕まったんだ・・・どうしよう・・・？あたしのせいで捕まったって事・・・？」

奏「アオイ科の花園ってこの先じゃない・・・！回り道しないと・・・！」

城を目指していた奏。向かう先での確保を知り、先回りをする。

マリオ「また逃げられた・・・！くそっ・・・！大人しく捕まれよ、ホントに・・・！」

マリオ、またしても予想外の展開・・・

ティアナ「裏切り者が捕まってくれないと、動きたくても動けない・・・」

ツリフネソウ科の花園に身を隠しているティアナ。彼女はゲーム開始から、動いた距離が極端に短い。

そこへ・・・

ピリリリリリ

ティアナ「何・・・？電話・・・？誰・・・？部隊長から・・・はい、ティアナです・・・」

はやて「ちよつとええかな？」

ティアナ「何ですか・・・？」

はやて「誰かと会ったら、この事を伝えておいてほしいねんけど・・・」

ティアナ「はい・・・」

はやて「マリオ君に6票入つとる事が分かったんや。だから、裏切り者はマリオ君なんや」

ティアナ「えっ・・・！？そ・・・そうなんですか・・・！？」

はやて「間違いあらへん。ハンターもそうやけど、マリオ君にも気

い付けや」

ティアナ「分かりました・・・有難う御座います・・・」

2人は電話を切った。

ミッション終了まで 3分

ティアナ「ええ・・・？くるみじゃなかったの・・・？ちよつと信じられないけど・・・でも、部隊長は何票入ったかずっと調べてたんだろうね・・・じゃなかったら、あんな事言わないもんね・・・
さすが流石・・・！」

響「誰か来ないのかな・・・？」

一足早く時間短縮装置の前にやって来た響。しかし装置は4台ある為、1人では操作出来ない。

妖精（リインフォース？）「あと3人来ないと、私の相棒が・・・」

響「大丈夫だよ、妖精さん。あたし達逃走者が何とかクリアして見せるから！」

妖精（リインフォース？）「有難う御座います・・・あつ、ハンターです！」

響「嘘でしょ！？」

近くにいたハンターに見つかった響。一目散に逃げる。

響「何でこんな時に限って〜！」

曲がり角を利用し、ハンターとの距離を徐々に伸ばしていく響。そのままハンターを撒いてしまった。

これでハンターを撒くのは3度目・・・

響「ハンターは撒いたけど・・・6体は厄介だな〜・・・！」

妖精（リインフォース？）「響ちゃん・・・！早く戻らないと・・・時間無いですよ・・・！」

響「そうだね・・・かなり遠ざかってるから・・・急がないと皆にも妖精さんにも悪いよ・・・！」

ハンターに追われ、思う様に城に近付けない。

ゆり「城は見えるけど・・・ハンターが2体いるわね・・・」

城の近くまでやって来た、復活組のゆり。しかし、ハンターを見かけて思う様に進めない。

エリオ「あれって・・・ゆりさんだ・・・！」

奏「ゆりさんだったら、やってくれるかも・・・！」

その近くに、同じ復活組のエリオと奏が姿を現した。

ミッション終了まで 2分

奏「ゆりさん」

ゆり「奏にエリオ・・・」

エリオ「すぐ近くなんで、行きましようよ」

ゆり「城の前に2体ハンターがいるから、まだ無理よ・・・いなくなるまで待機しないと・・・」

奏「ホントだ・・・」

エリオ「じゃあ、ボクと奏さんで周りを調べてきます・・・他のハンターやマリオさんがいないか見てきます・・・」

ゆり「お願いね・・・」

監視役を買って出る奏とエリオ。はやて以外の復活組の4人は、彼女からマリオが裏切り者である情報を得ていた。

そんな事を知らない男は・・・

マリオ「着いた、着いた・・・！これであいつ等も終わりだ・・・！
！クククク・・・！」

城の裏側付近に到着。ミッションに来た4人を通報する為に待機。

アルル「ボクとアミティだけでしょ、ぷよぷよからのメンバーは？」

ミッションに向かうアルル。

ピリリリリリ

ミッション終了まで 1分30秒

アルル「電話だ・・・！えっと・・・はやてからだって・・・もしもし？」

はやて「アルルちゃん？実は、1つ伝えておきたい事があって電話したんやけど・・・」

アルル「うん・・・」

はやて「裏切り者はマリオ君や」

アルル「えっ？」

はやて「ずっと情報を集めた結果、マリオ君に6票入つとる事が分かったんや」

アルル「そ・・・そうなんだ・・・！」

はやて「うん。せやから、マリオ君には警戒せえよ。勿論、ハンターにもやで」

アルル「分かった。有難うね」

2人は電話を切った。

アルル「ボクくるみに入れたけど・・・まさかマリオが裏切り者だとはね・・・ちよつと意外だな・・・」

これで、全ての逃走者が裏切り者の正体を知った事になる。

マリオ、四面楚歌だ・・・

ミッション終了まで 1分

ひかり「あれです、あれ！」

スバル「ハンターが多いから、こんなに時間掛かったよ。もう残り1分切ってるじゃん・・・！」

くるみ「でもあと1人来ないと・・・！」

漸く時間短縮装置せうしゆの前にやって来た3人。しかし、クリアするにはもう1人必要だ。

マリオ「あの3人が・・・くるみがいるけどもういいな・・・あのくるみ以外の誰かが捕まれば同じ事だ・・・クククク・・・！バカな3人だ・・・！自分達の生存時間はあと僅かだというのに、全く気付かないとはな・・・！」

せせら笑いが止まらないマリオ。

くるみ「早く誰か来て・・・！」

スバル「時間無いよ・・・！」

ひかり「お願いします・・・！」

1人の到着を只管願う3人。その時・・・

妖精（リインフォース？）「あれです！」

響「ヨッシャ、戻って来た！」

先程ハンターに追われ、装置から離れてしまった響が戻って来た。

響「あつ！丁度3人いる！」

スバル「誰か来た！」

ひかり「響さんです！響さん！」

くるみ「これでクリア出来るわね！」

響「よしっ！じゃあ、皆で！」

ひかり・くるみ・響・スバル「せーの・・・」

ポチッ

4人は時間短縮装置のボタンを同時に推す。

それと同時に、エリアの周りにドーム状に光の結界が張られた。

ミッションクリア

> i 1 8 9 9 5 — 2 0 9 6 <

これにより、時間が20分間短縮され、賞金も90万円を超えた。

プルルルル プルル

はやて「メールや・・・ミッション5結果やって・・・」

アミティ「『九条ひかり、美々野くるみ、スバル・ナカジマ、北条響の活躍によりミッションクリア。時間が20分間短縮された』
！やった〜！クリアしたんだ！有難う！」

ゆり「ホント！残り30分を切ってるわ！」

アルル「一気に90万円になった！」

ティアナ「4人とも有難う・・・！やってくれると思ってたわ・・・
！」

スバル「OK！」

くるみ「結界が張られてる！」

響「良かった〜」

ひかり「これで随分楽になりましたね」

マリオ「ご苦勞だったな・・・お前等にはここで死んでもらうぜ・・・
！」

その4人をマリオが通報しようとする。

その時・・・

アイク「姫！あの4名です！」

アイクが4人の前に飛び出してきた。

マリオ「ん・・・？アイク・・・？何であいつがいるんだ・・・？
しかも姫って・・・」

アイク「姫・・・この4名が結界を造ってくれた英雄・・・いや、
女傑です！」

姫「皆さん、本当に有難う御座います・・・」

くるみ「あら？この人・・・」

ひかり「ゼルダさんですよ！『ゼルダの伝説』に出てる、ハイラル
王国のお姫様のゼルダさんです！」

なんと姫の正体は、前々回140分間逃げ切り賞金84万円を獲得
したゼルダだった。

スバル「ホントだ！何でこんな所にいるの？」

響「姫つながりじゃないの？多分・・・」

アイク「オイお前達！姫に失礼だ！私語を慎め！」

姫（ゼルダ）「いいですよ、アイク・・・あなた達の勇氣ある行動、
御見^{おみ}逸^それ^うい^びたしました・・・そこで、あなた達の栄誉を称えて、褒

美を差し上げたいと思います・・・」

スバル「いや・・・褒美ほうびだなんて・・・」

響「そうですよ・・・あたし達、別に褒美ほうびをもらう為にやった訳じゃないんで・・・」

アイク「姫から褒美ほうびを賜たまわれるなんて、とても名誉な事だぞ。有り難く受け取れ。遠慮はいらん」

くるみ「そ・・・そう・・・？」

ひかり「じゃあ・・・お言葉に甘えて、有り難く頂きます・・・」

姫は空気を包み込む様に両手を合わせる。そして手を開くと、液体が入った小さな水風船の様な物が8つ現れた。

ひかり「これは・・・何ですか・・・？」

姫（ゼルダ）「これは、有毒性のある植物から麻痺効果のある成分を抽出して造った『パライズボール』です・・・あなた達を追つて来る者の動きを止める事が出来るんです・・・」

スバル「えっ・・・？何であたし達がハンターに追われてる事をご存じなんですか・・・？」

姫（ゼルダ）「遙々やって来たあなた達の行動は、全て見てましたから・・・あの黒い姿の者達があなた達を追っているのを、私は何度も目にしています・・・」

くるみ「そうなんだ・・・」

姫（ゼルダ）「さあ、1人2個ずつ受け取って下さい・・・屹度お役に立つ筈ですよ・・・」

響「有難う御座います・・・！」

4人が受け取ったのはパラライズボール。ハンターにぶつければ、30秒間ハンターの動きを止める事が出来る。

マリオ「あいつ等、ゼルダから何かもらったみたいけど・・・そんな事はどうでもいい・・・クククク・・・！今すぐにハンターの脅威から解き放ってやるよ・・・！牢獄という墓場に入れてな・・・！」

マリオは薄ら笑いを浮かべて、4人を通報する・・・

マリオ「九条ひかり、美々野くるみ、スバル・ナカジマ、北条 響、城の裏側にいます」

通報を受けた6体のハンターが4人に迫る。

マリオ「さあ逃げろ・・・！逃げて逃げて逃げまくれ・・・！そして全てを奪われてしまえ・・・！」

姫からパラライズボールを受け取った4人。姫にお礼を言って彼女の許を去る。

マリオ「クククク・・・！あいつ等、アイテムをもらったからって安心してやがる・・・！お前らがどう足掻こうと、捕まる事は目

に見えてるんだよ・・・！」

嘲あざわらいが止まらないマリオ。

くるみ「ここまで来たら、絶対逃げ切るわよ！いいアイテムももらったんだから！」

ひかり「そうですね！」

スバル「お互い頑張ろう！」

響「うん！あれ？ハンター来た、ハンター来た！」

ハンターを見つけた4人。散り散りになって一目散に逃げる。

マリオ「ククククク・・・！さて、誰が捕まるかな・・・？」

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

響「こっち来た！」

響だ・・・

マリオ「響が狙われたな・・・ククククク・・・！あいつはかなり体力消耗してる筈だ・・・！もう同じ手はハンターには効かないぜ・・・！えっ・・・？ちよつと待てよ・・・嘘うそだろ・・・！？」

突然マリオが戸惑い出した。その理由は・・・

マリオ「何でこっちに逃げてくるんだよー!？」

響がハンターを連れて、マリオの方へ逃げてきたのだ。

それに気付き、マリオも一目散に逃げる。

ピーーーーーーーーー

マリオ「ヤバい!マジでヤバい!」

響がマリオを追い抜いた瞬間、ハンターの標的が突然マリオに変わった。

マリオ「ボクかー!？」

響に代わりハンターに追われるマリオ。一目散に逃げる。

しかし、ハンターとの距離は徐々に縮まっていく。最早、逃走不能・・・

マリオ「ぐわあゝ!」 ポンッ

> i 1 8 9 9 6 — 2 0 9 6 <

マリオ「ちくしょうー!何でこうなるんだよー!？」

肉食^しった報^しいだ・・・

響「ヨッシャ・・・!ハンター誘導作戦大成功・・・!」

実は、4人はマリオが自分達を通報していたのを知っていた。そして、響が囿になってマリオの方へハンターを誘導して確保させたのだ。

プルルルル プルル

アミティ「何？」

はやて「『キク科の花園付近にて裏切り者・マリオ確保』……！
おお！とうとうマリオ君捕まったで！」

ひかり「やっぱりはやてさんの言ってた通りだ……！マリオさんが裏切り者だ……！」

スバル「響、良くやったよ……！」

牢獄

レムレス「『裏切り者・マリオ確保』だつて！」

フェイト「罰当たった！」

シエゾ「ざまあみる！」

トウーン「天罰下った！」

ワリオ「今度は俺様達があいつを痛め付ける番だな！」

リユカ「通報された身として、復讐の時が来た！」

レッド「逃走者達をずっと欺いた罪は重いぞ！」

ラフィーナ「いくら反省しても、絶対に許す訳にはいかないわ！」

せつな「すぐにも地獄に葬り去ってくれるわ！」

なのは「早く戻って来ないかな？すぐに頭を冷やしてあげる！」

リデル「口も聞いてあげませんから……！」

通報されたメンバーは怒り心頭だ……

その頃、天空のガーデンに辿り着いたベータとガンマは……

ベータ「な……何だこれは！？」

ガンマ「中には入れないぞ！何故だ！？」

逃走者によって張られた結界によって、進路を妨害されていた……

ベータ「くそっ！これもあの姫の仕業か！？」

ガンマ「仕方ない……この事をアルファ様に報告せねばな」

2人は諦めて、旧エリアへと帰っていった……

ミッション5終了！　そして・・・（後書き）

遂に確保された裏切り者・・・次回、牢獄でお仕置きを食らう！？

そして、響と共にいる妖精が相方と再会！？

更に、メイズがとんでもない行動を起こす！？

非難と再会と奇襲（前書き）

裏切り者の脅威が無くなった11人の逃走者

しかし、ハンターの脅威は依然として続いている・・・

そして、逃走者達に降りかかる、更なる脅威とは！？

非難と再会と奇襲

牢獄

レムレス「来たよ、裏切り者」

牢獄前に、元脱落者であり元裏切り者でもあるマリオが項垂れながら姿を現した。
うなだ

マリオ「くそ……ホントに悔しい……」

シェゾ「お前最低だな……！」

ドラコ「情け容赦無く人を金で売るなんて……！」

マリオ「うるせえな……！お前等に非難される筋合いはないわ……！ボクを脱落させようとしたくせによ……！」

ラフィーナ「私はあんたに入れてないわよ」

リュカ「ボクも」

レッド「俺もだ」

マリオ「じゃあ誰だよ？この中に1人ぐらいいるだろ、ボクに投票した奴」

フェイト「ワリオとなのはが入れたみたいよ、今いる中では」

マリオ「だったら尚更非難する資格なんか無いだろ！？大体、何でお前等はボクに入れたんだよ！？」

ワリオ「そりゃあ、ライバルを蹴落としたかったからに決まってるだろ」

なのは「マリオ君は、意外と逃走中に向いてない人だと思ったから・・・」

マリオ「理不尽過ぎるだろ、お前等・・・」

トウーン「兎にも角にも、さっさと入って来なよ。捕まっただからさ」

トウーンリンクに促され、マリオは入獄する。

キャロ「マリオさん、正座して通報した事を謝って下さい！」

マリオ「謝る訳無いだろ！お前等のせいで、やりたくもない役を与えられたんだろぅがよ！」

リデル「良く言いますよ・・・！皆さんにばれてる事も知らずに・・・！」

マリオ「はあ？ちょっと待て・・・まるで、ボクが裏切り者だって事知ってたみたいなの言葉・・・」

フェーリ「知ってるも何も、はやてって人から聞いたからね。あんたが最多得票の可能性がかなり高いって」

マリオ「何！？あいつそんな事調べてたのか！？」

クルーク「みたいだよ。あの人の情報がこんな所で役に立つなんて思ってもみなかったよ」

マリオ「じゃあ、殆ど^{ほとんど}の奴らは・・・」

シグ「マリオが裏切り者だって知ってた・・・」

マリオ「嘘だろ・・・」

マリオは正座と言うより、その場に蹲^{うすくま}る感じで足元から崩れ落ちた。

そして、牢獄の者達はその弱ったマリオに対して、殴る蹴るなどの暴行を与えるのであった・・・

通報された者達は、特に力を込めて・・・

くるみ「それにしても、裏切り者がマリオだった事にも驚いたけど、こんなアイテムを手に入れられた事にはもっと吃驚^{びくり}よ・・・！すごい展開になってきた感じがするわ・・・！」

先程のミッションをクリアし、姫からパラライズボールを受け取ったくるみ。

ひかり「これは若しかしたら逃げ切れるかもしれない・・・！」

スバル「でも、これは最後の切り札として残しておきたい気もする

んだよね〜・・・」

同じくパラライズボールを持っている2人。ここまで全てのミッシェンに挑み、貢献して言っている事もあり、パラライズボールは強い味方となっている。

妖精（リインフォース？）「響ちゃんってすごいんですね・・・」

響「何が？」

妖精（リインフォース？）「だって、ゲームの中で4回もハンターを振り切ってるじゃないですか・・・普通そんなに振り切る事なんて出来ないですよ・・・疲れも溜まってきてるだろうし・・・」

響「疲れは観覧車で寝ていた時にすっかり吹き飛んでるから、まだまだ余裕だよ。それにあたし、スポーツでは1位2位を狙えるぐらいの自信があるからね・・・その為に毎日鍛えてるし、逃走中に出る事が分かった日からは、いつも以上にトレーニングを積んできたしね」

妖精（リインフォース？）「努力家なんですね・・・」

響「まあね・・・このまま逃げ切りたいよ。ここで逃げ切らなきゃ女が廃^{すた}るもん！」

妖精（リインフォース？）「頑張っ^てほしいで・・・あっ！」

響「えっ、えっ、えっ！？何、何、何！？」

妖精（リインフォース？）「近いです！感じます！相方がすぐ近く

にいます！」

響「ホントに！？でもここって・・・バラ科の花園だね・・・？」

妖精（リインフォース？）「この付近に絶対います！探してみてください！」

響「探せって言われても・・・ん・・・？」

響が花園の近くにある大樹の近くに何かを見つけ、駆け寄っていく。

響「何だあれ・・・？えっ！？」

響が見たもの、それは・・・

響「この子って・・・まさか・・・妖精さん・・・」

妖精（リインフォース？）「はい・・・！間違いないです・・・！私の相方です！やっと会えました！」

妖精の相方だった。しかし、相方は何故かぐったりと横たわっている。

響は相方を、怪我をした小鳥を宥める^{なだ}様に^{すく}掬い上げた。

響「ちょっと待って・・・これって完全に・・・アギトだね・・・？」

妖精（リインフォース？）「アギトじゃないですよ！私の相方です！」

響「いや・・・どこからどう見たってアギトじゃん・・・」

妖精（リインフォース？）「違いますって！」

響「あれ？」

妖精（リインフォース？）「ど・・・どうしたんですか・・・？」

響「さつきから声を出したり揺すったりしてるのに・・・この妖精さん・・・全然目を覚まさないよ？」

妖精（リインフォース？）「えっ・・・ええ！？ま・・・まさか・・・死んじゃったんですか・・・！？」

響「いや、まだ息はちゃんとしてる・・・でも何で起きないの・・・？」

妖精（リインフォース？）「ちょっと待って下さい、響ちゃん・・・！」

響「な・・・何？」

妖精（リインフォース？）「良く見たら彼女・・・すごい怪我を負ってるじゃないですか・・・！出血が半端じゃないですもん！」

響「言われてみれば・・・でもどうするの？あたしは応急処置をする道具なんて持ってないし、況して医師を志してまるかれんさんや祈里がいる筈もないし・・・！」

妖精の相方は、原因不明の大怪我を負い、意識不明となっていた。
このまま適切な処置を施さなければ、命を落としかねないが・・・

妖精（リインフォース？）「お姫様に報告すれば何とかしてくれる
かもしれません」

響「お姫様って・・・さっきこのパラライズボールとかっていうの
をくれた、あのお姫様？」

妖精（リインフォース？）「はい。あのお方なら、きっと治してく
れるに違いありません！急いで行きましょう！」

響「よしっ・・・！そうと分かれば・・・あつ、ダメだ。あそこに
ハンターがいる・・・！」

響が向かおうとした先にハンター・・・

妖精（リインフォース？）「こんな時に追われたら嫌ですね・・・」

響「別のルートを通ろう・・・！」

別の道でお城を目指す。

はやて「今残り21分で・・・95万4千円・・・！すごい額やで、
95万円言ったら・・・！」

ティアナ「これどうしようかな・・・自首しちゃおうかな・・・
？」

エリオ「90万円台の金額、持って帰るのもアリだもんね・・・」

高額賞金に心が揺れる機動六課のメンバー・・・

ゆり「復活しての自首は有り得ないわ・・・！」

奏「やっぱり最後まで逃げ切ってこそその逃走中なもの・・・！」

復活組のプリキュア2人は、逃げ切りを狙う。

アミティ「ハンターに追われたら、もう会いたくもないよ・・・！」

アルル「6体は多いもんね・・・何処から来るのやら・・・」

ぶよぶよメンバーで唯一残っている2人は、ハンターの恐怖に怯えている。

一方、旧エリアとなっていた崩壊した遊園地では・・・

アルファ「戻ったか、ベータにガンマ・・・」

ベータ「アルファ様・・・申し訳ありません・・・」

アルファ「ダメだったのか・・・？」

ガンマ「本当に申し訳ありませんでした・・・」

アルファ「何をやっていたのだ、お前達は・・・！？」

ベータ「それが・・・天空のガーデンに結界が張られており、部外者は侵入出来ない様になっていたのです・・・！」

アルファ「結界・・・だと・・・？」

ガンマ「然様で御座います・・・我々の力を持っても破る事が出来ない結界が天空のガーデンを覆ってしまして・・・何処からも入る事が出来なくなっていたのです・・・！」

アルファ「あそこの結界は、そう簡単に張れるものではないと聞いていたが・・・あそこに、姫と家臣以外に誰かいるとも言つか・・・？」

ベータ「それは分かりません・・・この従業員や観客で無い事は確かなのですが・・・」

ガンマ「恐らく・・・何の繋がりも持っていない、異国の民のせいではないかと・・・」

彼等の言う異国の民とは、無論逃走者の事だ・・・

アルファ「あの愚民共が、愚かな姫の場を守る為に働いたとは・・・まあ良い・・・その結界を崩してやろうではないか・・・」

するとアルファは、両腕を広げて天を仰ぎ、そして・・・

アルファ「消滅！」

呪文を唱えた・・・

すると、何と言う事だろうか・・・

逃走者達によって張られたドーム状の結界が、完全消滅とまではいかないが、上半分が消えてしまったのだ・・・

アルファ「これで上空からの侵入は可能となった・・・ベータ、ガンマ・・・行くぞ！」

ベータ・ガンマ「は・・・はっ！」

アルファ「フッフッフ・・・！待っている、異国の民達よ・・・！お前達がいかに無力な存在であるかを、思い知らせてくれる・・・！」

メイズの3人は、作業をしている部下達を旧エリアに残し、大型ヘリに乗り込んで逃走者達がいる新エリアへ飛び立った・・・

更に、そのヘリには10体のハンターが積み込まれていたのだ・・・

ブルルルル　ブルル

響「何だよ、こんな時に・・・またメール・・・？うわぁ・・・ミッション6だって・・・」

ひかり「『謎の集団が呪文によって、結界の上半分を消してしまっただ』・・・ええ！？」

くるみ「ホント・・・上の方だけ全然結界が無い・・・！『更に謎

の集団は大型ヘリで君達のいるエリアに向かって飛行中だ』・・・」

アミティ「入って来ちゃうじゃん、空からだったら・・・！」中に
は10体のハンターが』・・・」

ティアナ「『10体のハンターが乗っており、残り10分になると
エリア中央にヘリが到着、エリアに放たれる』・・・」

アルル「10体って・・・シャレになんないよ・・・！」『阻止する
には7つの花園に植えられている』・・・」

ゆり「『花を1本ずつ摘み取り、城の姫に届けなければならない』・
・・・」

はやて「『急ぎたまえ！』・・・7本の花を摘まなアカンの？」

MISSION？ ハンターヘリを追い返せ！

現在、メイズの3人を乗せた大型ヘリが逃走者のいるエリアへ向か
って飛行中。ヘリの中には10体のハンターが乗っており、残り1
0分にエリア中央に到着するとエリアへと放たれてしまう。阻止す
るには、エリア内全ての花園から花を1本ずつ摘み取って花束を造
り、城にいる姫に届けなければならない。

エリオ「冗談だろ、10体とか・・・！」

奏「しかも、また謎の集団が襲って来るの・・・？最悪・・・！」

響「失敗したら、あの惨劇がまた繰り返されちゃうの・・・？」

エリアには6体のハンター。花を摘む為に動けば、遭遇する危険が増す。

ハンター放出まで、およそ9分。

逃走者達は、ヘリを追い払えるのか！？

非難と再会と奇襲（後書き）

メイズによる破滅の危機が迫る天空のガーデン・・・

あの惨劇を繰り返さない為に、逃走者達はミッションをクリア出来るのか！？

遂に逃走中放送まで1週間を切りました

3月6日の夜7時から・・・楽しみですね

オーブニングゲームもボタン式に変わるみたいで・・・

サイコロ式がたった2回で消滅・・・何だか虚しいですね・・・

兎にも角にも、皆さん絶対見ましょう！

惨劇再び・・・（前書き）

逃走者に再び襲い掛かるメイズの恐怖

11人の運命やいかに！

惨劇再び・・・

残り10分までに、エリア内の花園から花を1輪ずつ摘み取り姫に届けられなければ、10体のハンターがエリアに放たれてしまう。

ゆり「まずは7つの花園を回らなきゃいけないのね？」

ひかり「残り9分で・・・間に合うかな？」

エリオ「10体も出て来られたら、絶対最後まで行き付けないよ・・・！」

くるみ「誰かやるわよ・・・このミッションはやらない」

響「ミッションやりたいけど、妖精さんの事もあるし・・・ここは他の皆に託す・・・！」

ミッションに参加するかしないかは逃走者の自由。動けば危険が高まる。

ティアナ「あつ・・・ここって確か、ツリフネソウ科の花園だよね・・・？」

偶然にもツリフネソウ科の花園に身を潜めていたティアナ。

ティアナ「これを摘めばいいんだ・・・！」

彼女はその花園に植えられているホウセンカ鳳仙花を摘み取る。

ティアナ「でも、あと6つの花園とかお城とかに行かなきゃいけないでしょ……？大変だな……」

ティアナ、初めてのミッション。

アミティ「ここから1輪摘むのか……ミッションやろう……！10体はきつ過ぎる、いくらなんでも……！」

こちらもおイ科の花園近くにいたアミティ。透かさず立葵を摘み取る。タチアオイ

アミティ「あたし1人で回るのは辛いから……皆で連絡を取り合っ
て行かないと……！」

ミッションをクリアさせるには、逃走者同士の協力が鍵となる。

アミティ「誰かに電話しないと……えっ……？ヤバい、ハンターだ！」

しかし、ハンターに見つかった……

1度ハンターを振り切っているアミティ。再び逃げ切れるのか。

アミティ「来た……！」

一目散に逃げるアミティ。しかし、その距離は加速度的に縮まる。最早、逃走不可能……

アミティ「ぎゃえ……！」 ポンッ

> i 1 9 1 5 4 — 2 0 9 6 <

アミティ「マジで……？何でだよ……？」

2度目は無かった……

牢獄

レムレス「あつ！『アミティ確保』！」

レムレス以外「ええ〜！？」

トウーン「何なんだよ、それ！」

ピット「何もせずにまた捕まってるじゃないか！」

マリオ「というか、お前等……何で鎖で縛つとるんじゃー！」

牢獄の者達からボコボコにされた元裏切り者のマリオは、牢獄の隅に追いやられた挙げ句、オーブニングゲームで使われた30本の鎖で雁字搦がんじがらめにされていた。

マリオ、まるで懺悔ざんげを象徴しているモニュメント……

キヤロ「反省しないからですよ！」

せつな「ホントよ！お金で人を散々売り付けて……どれだけの人が犠牲になったと思ってるの！？」

マリオ「良く言うぜ！ワリオやなのはが非難出来ねえからって、八つ当たりの縛りやがって！」

リユカ「素直に謝れば、ボク達だって勘弁して解いてあげるのに」

ラフィーナ「大体、あんたのその人を見下した様な言い方・・・癩しゃくに障るのよ！」

リデル「少しは自分の犯した過ちを認めて・・・きちんと謝ったらどうですか・・・！？」

マリオ「と言うか、先ずワリオとなのはが、ボクを脱落させようとした事を謝れ！そうしたらボクだって謝るよ！」

シェゾ「お前はガキか！？」

レッド「何処まで汚い事を言えば済むんだよ、お前はよ！」

ティアナ「アミティ捕まった・・・！」

目の前で確保を見たティアナ。

ティアナ「こっちは危険・・・ってうわあ！」

アミティを追ったハンターに見つかった・・・

ティアナ「来るな！」

一目散に逃げるティアナ。しかし、距離が近過ぎる為振り切れる訳がない。最早、逃走不可能・・・

ティアナ「わぁっ！」 ポンッ

> i 1 9 1 5 5 — 2 0 9 6 <

ティアナ「最悪・・・！ミッションやろうとして捕まって・・・悔し過ぎる・・・！もう・・・！」

巻き添えだ・・・

プルルルル プルル

奏「またメール来た・・・間髪入れずに続けて・・・」

スバル「うわあっ！ティア捕まった！」

くるみ「偽善者07捕まった・・・！いい気味よ・・・！消えてくれて清々したわ・・・！」

はやて「ここや、ここや」

ユリ科の花園にやって来たはやて。そこから風信子ヒヤシンスを摘み取る。

はやて「これホンマに急がんと・・・アカンで・・・！」

エリオ「ここは・・・キク科の花園だ・・・！」

エリオもキク科の花園に到着。植えてある蒲公英タンポポを摘み取る。

奏「あつた・・・！」

奏が到着したのはバラ科の花園。そこに植えてあつた莓イチゴを摘み取る。

ゆり「ラン科の花園ね、ここは・・・」

ラン科の花園に辿り着いたゆり。すぐさまカトレアを摘み取る。

これで、4輪の花が逃走者によって摘まれた。残るはスミレ科・アオイ科・ツリフネソウ科の花園。

しかし、花を持ったままハンターに捕まれば、その努力も水の泡・・・

アルル「何処だろう、花園つて・・・」

ミッションに挑んでいるアルル。向かう先からハンター・・・

アルル「ハンターいるじゃん・・・！これじゃ動けないよ・・・ほら、あそこにもいるし・・・ウヨウヨいる・・・」

ハンターを見つけ、思う様に動けない。

響「よしっ、着いた・・・！」

漸く城やしろの許もとに辿り着いた響。

響「すみません、お姫様・・・！」

姫（ゼルダ）「あなたは先程の・・・」

アイク「何しに来た？」

響「あの・・・妖精さんの相方が・・・意識不明になってまして・・・それで、治してほしいんですけど・・・！」

アイク「妖精？」

姫（ゼルダ）「妖精とは・・・まさか、あなたの横で浮遊している・・・」

響「そうです・・・！」

アイク「何の妖精だ？」

響「隣の遊園地を守ってくれる妖精です・・・でも、相方がこんな状態になっていて・・・守る事が出来なくて・・・メイズっていう組織に遊園地を破壊されてしまったんです・・・」

そう言つて、響は妖精の相方を姫に差し出した。

響「それに・・・妖精さんが・・・お姫様じゃないと治せないって言つてたし・・・だから、お願いします・・・！」

姫（ゼルダ）「そう言われましても・・・」

響「お願いします・・・！このままじゃ、相方が死んじゃうかもしれないんですよ・・・！？」

妖精（リインフォース？）「お姫様・・・！私からもお願いです・・・！相方を・・・助けて下さい・・・！」

必死に頭を下げる2人。

姫（ゼルダ）「・・・分かりました・・・こちらに残っている薬草のエキスで、何とかやってみます・・・ただ、5分以上は掛かると思っして下さい・・・」

そう言うと、姫は響から妖精の相方を受け取った。

響「有難う御座います・・・！」

妖精（リインフォース？）「お願いします・・・！」

姫はそのまま城の中へと消えていった。

アイク「心配するな・・・姫は治療にはかなり長^たけているお方だ・・・屹^{きつと}度大丈夫だ・・・！」

心配そうに姫を見送る2人を激励するアイク。

しかし・・・近くにハンターが接近・・・

妖精（リインフォース？）「あつ・・・！響ちゃん、ハンターです・・・！」

響「マジかよ、こんな時に・・・！」

響は城の陰に隠れ、やり過ぎそうとする。

ハンターは気付いていない様だ。

響「大丈夫かな・・・？」

妖精（リインフォース？）「どうやら行ったみたいです・・・」

響「やっぱり6体はきついって・・・！しかも5分も待たなきゃいけないんでしょ・・・？このミッションは無理だ・・・！さっき言った通り、皆に任せる・・・！」

ミッションクリアには間に合わないと踏んだ様だ。

ひかり「何処行ったらいいんだろう？」

何処の花園に行くか迷っているひかり。そこへ・・・

スバル「ひかりだ・・・」

スバル「ナカジマだ・・・」

スバル「ひかり」

ひかり「スバルさん」

スバル「何か花持つてる？」

ひかり「持ってないんですよ。無駄な動きを省きたいんで、誰が何処にいるのか知りたいんですけど・・・」

スバル「電話すればいいじゃん」

ひかり「誰も電話に出ないんですよ。ハンターに追われてるのか分かりませんが……」

スバル「ええ……?」

奏「意外とエリアが広いから、次の花園まで時間掛かるわ……」

バラ科の花園で^{イチゴ}苺を摘み取った奏。次の花園になかなか辿り着けない。

奏「あれ……? あれは……」

ゆり「ん……? 奏……?」

月影ゆりだ……

彼女もラン科の花園でカトレアを摘み取っていた。

奏「ゆりさん」

ゆり「奏……手に持ってるのは……」

奏「バラ科の花園で取りました」

ゆり「あら、奇遇ね。私今、バラ科の方に行こうとしてたのよ」

奏「そうなんですか。じゃあ、この2つを合わせて……」

ゆり「残りは他の人に任せといた方がいいわね。全部回るほどの時間もないし……」

奏「そうですね……」

はやて「アカン……！全然着けへん……！」

ユリ科の花園で風信子ヒヤシンスを摘み取ったはやて。彼女もまた、別の花園に辿り着けないでいた。

その近くに……

エリオ「あつ……！誰がいる……！」

エリオ・モンディアルだ……

彼はキク科の花園で蒲公英タンポポを摘み取っていた。

エリオ「部隊長！」

はやて「おっ？」

エリオ「あの……何か花持ってますか？」

はやて「まあ一応、これを……」

エリオ「良かった……これを持って城の方に行きましょう」

はやて「でも、7輪揃えんと意味がないやろ？」

エリオ「絶対他の人達が持ってきてますよ。それに、城のお姫様に届けなきゃいけない訳だし……」

2人の近くに、ハンターが接近……

はやて「それは分かるで、確かに……でも、あと何人がやってくれてるか……」

エリオ「10体ですよ？やらない人いないですよ。皆やってくれ……ハンター来てます！」

はやて「マジかいや！」

見つかった……

一目散に逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは……

ピーーーーー

エリオ「こっち来た〜！」

エリオだ……

エリオ「ヤバイ！」

一目散に逃げるエリオ。しかし、彼がハンターに敵う訳がない。最早、逃走不可能……

エリオ「うわ〜！」 ポンッ

> i 1 9 1 5 6 — 2 0 9 6 <

「エリオ「ええゝ！？何これゝ！？何だったんだよ、あの復活は・・・」

蒲公英^{タンボポ}を摘み取った甲斐も無く散った・・・

牢獄

レムレス「『エリオ・モンディアル確保』！」

レムレス以外「うわぁー！」

ドラコ「また復活組が！？」

クルーク「ちよつとゝ！情けなさ過ぎでしょ！？」

ピット「て言うかさ、男の逃走者全滅じゃん！」

シグ「そうだねゝ・・・」

トゥーン「うわゝ・・・違う意味で情けない・・・！」

エリオの確保で、残る逃走者は全員女性と言う事に・・・

逃走者が摘み取った花は3輪。あと4輪の花を摘み取り姫に届けら

れなければ、ハンターのは数は16体が増えてしまう。

ハンター放出まで5分を切った。

間に合うのか！？

惨劇再び・・・（後書き）

次回、ミッションが終了！

残る逃走者は、アルル・ひかり・くるみ・ゆり・響・奏・はやて・スバルの8人

彼女達を待ち受ける、衝撃の結末は！？

そして、行方が分からなくなっていた従業員達が、久々の登場！？

ミッション6終了！　そして・・・（前書き）

10体のハンター放出まで、5分を切った

逃走者達は、7輪の花を姫に届けられるのか！？

ミッション6終了！　そして・・・

現在逃走者達によって摘まれた花は3輪。残るキク科・スミレ科・アオイ科・ツリフネソウ科の花園から1輪ずつ摘み取り、城にいる姫に届けられなければ、10体のハンターが放出され、逃げ場は殆どなくなる。ほとんど

アルル「どうしよう・・・？時間無いよ・・・」

スバル「ちよつともう、マジで時間無いよ・・・！」

ひかり「この状況、絶対不味いですって・・・！」

迫り来るタイムリミットに焦りを感じる逃走者達。

その時・・・

プルルル　プルル

くるみ「えっ・・・？何よ・・・？」

メールだ・・・

響「『現在、南野　奏・八神はやて・月影ゆりによってバラ科・ユリ科・ラン科の花が摘まれている。残りはキク科・スミレ科・アオイ科・ツリフネソウ科』・・・あと4つ・・・？」

姫（ゼルダ）「お待たせしました・・・」

城から出てきた姫。妖精の相方を響に受け渡す。

姫（ゼルダ）「治療は成功しました・・・麻酔を掛けていますが、そろそろ効果が切れる頃なので、あと数分で起きると思います・・・」

響「そうですか・・・有難う御座います！」

妖精（リインフォース？）「本当に有難う御座います・・・！」

深々とお辞儀をする2人。

ひかり「ちよつと待って下さい・・・！スミレ科とアオイ科の花園、ここから結構近いですよ・・・！」

スバル「ホントだ・・・！じゃあ、二手に分かれて取りに行こう・・・！」

ひかり「はい・・・！あれ・・・？ハンター来ました・・・！」

スバル「嘘！？」

ハンターに見つかったひかりとスバル。一目散に逃げる。しかし・・・

スバル「うわあ！こっちからも来た！」

ひかり「ええゝ！？」

逃げた先にも別のハンター。挟まれた・・・

しかし2人は、姫からパラライズボールをもらっている。

ひかり「もう使うしかないですよね!？」

スバル「しょうがない!ここを切り抜けるにはこれしかないから!」

ひかり・スバル「せーの・・・!」

2人は迫り来るハンターに向けてパラライズボールを投げ付けた。

すると、ハンターは痙攣けいれんを起こした様に身体が痺れしび、動かなくなってしまった。

スバル「すごいな、このパラライズボールって・・・!」

ひかり「感心してる場合じゃないですよ・・・!早く取りに行きましよう!」

スバル「そ・・・そうだね・・・じゃあ、取ったら城前で待ち合わせね!」

ひかり「はい!」

ハンターが正常に戻る前に、足早にスミレ科とアオイ科の花園を目指す。

奏「キク科結構近いですね・・・」

ゆり「そうね・・・」

キク科の花園へ行こうとするゆりと奏。

その近くにハンター・・・

奏「とりあえず、この花ゆりさんに託しますね」

ゆり「えっ？な・・・何で？」

奏「ゆりさんはその2本を持って城に行ってください。私はキク科の花園で花を摘んでから行きますので・・・」

ゆり「確かに2人で行くのは時間の無駄よね・・・分かったわ、キク科の花園はあなたに任せる・・・！」

奏「しっかり届けて下さいね・・・ってハンター来ましたよ！」

ゆり「嘘でしょ!？」

見つけた・・・

二手に分かれて一目散に逃げる2人。ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーーー

奏「私!？」

奏だ・・・

奏「来ないで〜！」

逃げ続ける奏。しかし、彼女がハンターに敵う訳がない。最早、逃走不可能・・・

奏「キャ〜！」 ポンッ

> i 1 9 2 2 8 — 2 0 9 6 <

奏「何この有り様・・・口でやるって言うって捕まるって・・・面目無いじゃない・・・」

ゆりとの約束果たせず・・・

ゆり「奏が追い掛けられてった・・・多分捕まったわね・・・」

くるみ「奏が確保された・・・！復活組がどんどん捕まってるじゃない・・・！『残り7人』・・・」

ひかり「着いた！アオイ科の花園！」

アオイ科の花園に到着したひかり。咲いているハイビスカスを摘み取る。

ハンター放出まで 4分

ひかり「これハイビスカスだね・・・いくらアオイ科だからって、普通こんな所に咲いてる・・・？」

花園には、その科に所属する花なら何でも咲いている。気候などは

一切関係無い。

スバル「ここだね。スミレ科の花園って・・・」

一方で、スミレ科の花園に辿り着いたスバル。植えられていたパンジーを摘み取る。

スバル「ひかり、ちゃんとやってくれてるかな・・・？」

はやて「もう時間あらへんな・・・皆を信じて行くしかないな、これは・・・」

^{ヒヤシンス}風信子を持っているはやて。他の花園に回っていたら間に合わない
と踏み、城へと急ぐ。

アルル「ちょっと待って・・・ここって、キク科の花園だよね・・・？」

偶然キク科の花園に隠れていたアルル。

アルル「キク科は誰も摘んでないってメールに書いてあったよね、確か・・・」

厳密に言えば、エリオが蒲公英^{タンポポ}を摘んでいたが、確保されてしまつて無効になっている。

アルル「よしっ・・・！やるしかないね・・・！」

彼女は花園にあったガーベラを摘み取り、そのまま城へと向かう。

これに残るはツリフネソウ科のみ。しかし、ツリフネソウ科の花園に向かっている者は誰もいない。このままではミッションはクリア出来ず、10体のハンターがエリアに解き放たれてしまう。

ハンター放出まで 3分

響「あと3分だ・・・！皆やってるのかな・・・？」

妖精の相方が目を覚ますのを待っている響。

妖精（リインフォース？）「早く目を覚まして下さい・・・」

妖精も心配そうに見つめている。

そこへ・・・

はやて「あれ？私が最初？誰もおれへんやん」

はやてが城の前に姿を現した。

響「はやてさん」

はやて「おっ？響ちゃんやないか。響ちゃん、花持つとるよな？」

響「持っていないです」

はやて「持つとらん！？じゃあ、何でここにおんねん？」

響「あたし達がさっきまでいた遊園地を守ってくれる妖精の世話をしてやってるんです」

はやて「妖精・・・？妖精なんて何処におんねん？」

響「えっ・・・ええー！？」

驚きを隠せない響。何と言う事が、はやてには妖精が見えないというのだ。

響「何言ってるんですか！？あたしの横にいるじゃないですか！」

はやて「横・・・？何もおれへんやないか」

響「何で・・・？何ではやてさんには分からないの・・・？」

妖精（リインフォース？）「私の姿は特定の人にしか見えないって、さっき言っただじゃないですか・・・」

響「で・・・でも・・・あたしに見えて奏にも見えただよ・・・？他の人にも見えて当然じゃない・・・！」

妖精（リインフォース？）「あつ、そうか・・・私、逃走者全員に認知される訳ではないって事を・・・言い忘れてました・・・」

響「でも・・・例え^{たと}そうだとしても、相手ははやてさんだよ・・・？リインとは親交が深い仲じゃない・・・！それを見えないだなんて・・・」

妖精（リインフォース？）「だから、私はリインじゃないですって・・・」

はやて「響ちゃん・・・さつきから誰と話してんねん・・・？まさか・・・幽霊やないよな・・・？」

妖精（リインフォース？）「変な人と思われても仕方ないですよ・・・諦めましょう・・・」

響「・・・」

妖精の存在を理解してくれない事に、響は途轍とてつもない孤独感を覚え、その場から立ち去ってしまった・・・

ハンター放出まで 2分

はやて「ちょ、ちょ、ちょ・・・響ちゃん・・・！？どうしたんや・・・？急に暗い顔して・・・」

そこへ、ゆり・スバル・ひかり・アルルが次々と到着。

ひかり「これであと何輪ですか？」

ゆり「あと1輪・・・あと何科のが残ってるか・・・」

はやて「見た感じ、バラ科やキク科・・・スミレ科にラン科にユリ科にアオイ科の植物みたいやな・・・」

アルル「じゃあ、残ってるのはツリフネソウ科の花か・・・」

スバル「誰が行ってないのかな・・・？」

くるみ「7輪ぐらい、私が欠けてても摘める筈でしょ・・・？」

ミッションに無関心なくるみ。

くるみ「ちよっと移動した方が良さそうね・・・ってハンター来た！」

ハンターに見つかった・・・

一目散に逃げるくるみ。その時、彼女は何かを取り出した。

くるみ「そうだ、これがあるんだった・・・！これをハンターに・・・！」

くるみは逃げながら、追って来るハンターにパラライズボールを投げ付ける。

ボールを当てられたハンターは、身体が痺^{しび}れて動けなくなった。

この隙に、彼女は距離を取る。そして、逃げた先にあったのが・・・

くるみ「あっ・・・！ここって・・・」

ツリフネソウ科の花園だ・・・

ハンター放出まで 1分30秒

くるみ「とりあえず・・・ここから1輪摘んどきましょう・・・」

彼女は植えてあったインパチェンスを摘み取り、そのまま城を目指す。

それと同じ頃、唯一ミッションに参加してないこの女は・・・

響「どうして・・・どうして誰も分かってくれないの・・・？」

妖精の相方が倒れていた大樹の傍で泣いていた・・・

妖精（リインフォース？）「響ちゃん・・・お願いですから、もう泣くのは止めましょう・・・」

響「そんな事言ったって・・・そんな事・・・」

いつの間にか、慰める側・慰められる側の立場が逆転していた。

その時・・・

妖精（アギト）「うつ・・・うつん・・・」

響「・・・？」

妖精（リインフォース？）「・・・！」

妖精（アギト）「ここは・・・？あたし・・・何でここにいるんだ・・・？」

麻酔の効果が切れ、妖精の相方が目を覚ましたのだ。

妖精（リインフォース？）「目を覚ましました・・・！良かった！」

歡喜のあまり、妖精は相方に抱き付く。

妖精（アギト）「な、な、な・・・何だ・・・!?」

妖精（リインフォース?）「良かった・・・! ホントに良かったです・・・!」

妖精（アギト）「な・・・何の事だよ?」

妖精（リインフォース?）「あなた、遊園地からずっと行方不明になつてたんですよ。しかも、大怪我を負つて命の危険にも曝さらされてたんですよ・・・!」

妖精（アギト）「遊園地・・・あつ! そうか・・・あたし、ずっとメイズに捕らわれて・・・無理矢理鎖を引き千切つて脱獄して・・・何度も見張りの獣達けだものに追われて、やつとの思いで逃げ切つたと思つたら・・・! そう言う事だったんだ・・・あつ・・・! あの遊園地、一体どうなつた?」

妖精（リインフォース?）「私が無力だっただけに、メイズに乗っ取られてしまいました・・・」

妖精（アギト）「何だと!? くそ、メイズの奴ら・・・! あたし達の間係を断ち切つてまであの土地を奪おうとしてたなんて・・・絶対許さないぞ! ん・・・? そこにいる女は誰だ?」

妖精（リインフォース?）「あつ・・・紹介が遅れましたね。この子は北条 響ちゃんです。私と一緒にあなたを探すのを手伝ってくれたんですよ」

妖精（アギト）「そうだったのか・・・感謝するよ」

響「うん・・・こちらこそ・・・」

妖精（アギト）「ん？何でお前泣いてるんだよ？何かあったのか？」

妖精（リインフォース？）「私とあなたの姿が、他の人に見えなかった事にすごいショックを受けてるんです・・・自分は見えてるのに、誰も理解してくれないって・・・ずっと泣いてるんです・・・」

妖精（アギト）「まあ・・・あたし達の姿は何万人に1人しか見えないって言うからな・・・響だっけ？そう落ち込むなって・・・意識が朦朧もろろとしてたからはつきりとは分からなかったけど、お前があたしの為に働いてた事はちゃんと感じてたよ・・・お前の勇氣ある行動には頭が下がるな、ホントに・・・改めて感謝するよ・・・」

響「う・・・うん・・・有難う・・・」

妖精（リインフォース？）「さあ！遊園地に行きましょう！メイズからあの土地を取り戻しましょう！」

妖精（アギト）「そうだな・・・じゃあな響！」

響「うん・・・！妖精さん達も気を付けて！」

2体の妖精は、奪われた遊園地を取り戻す為に、旧エリアの方へと飛んで行った。

響「あたしも頑張らなくちゃな・・・！」

ハンター放出まで 1分

くるみ「ヘリの音が・・・！ダメ元でもいいから、急がないと・・・！」

10体のハンターを乗せたメイズのヘリが、エリアの領空に侵入。

ゆり「ヘリコプターが来てるわね・・・！」

スバル「このままだと、ハンター出ちゃうって・・・！」

アルル「誰か、早くツリフネソウ科の花を持って来て・・・！」

はやて「アカン・・・！ホンマに時間無い・・・！」

ひかり「もうすぐ入って来ちゃいます・・・！」

くるみ「いた！いっぱい人がいる！」

城の前に集まっていた5人の近くにくるみが現れた。

くるみ「取ってきたわよ、ツリフネソウ科の花！」

アルル「ホントに！？」

ひかり「ナイスです、くるみさん！」

くるみ「これで全部揃ったの？」

スバル「揃った、揃った！」

ゆり「あとは届けるだけね！」

はやて「ほんなら、私が渡しとくわ！」

はやては全員から花を受け取り、城の前にいる姫に花束を渡す。

はやて「お姫様！」

アイク「お前何しに来た？」

はやて「この花で・・・もう1回結界を造ってくれんか？」

アイク「結界？さつき張った筈じゃ・・・あつ！姫！結界の上半分が消えてますよ！」

姫（ゼルダ）「恐らく、メイズの仕業ね・・・分かりました・・・確かに受け取りましたよ・・・」

はやて「有難な！」

ミッションクリア

姫は受け取った7輪の花を天に翳す。すると、突然花が発光して結界の欠けていた部分を徐々に修復していく。そして結界は完全に修復された。

はやて「ヨッシャ！ミッションクリアや！」

その時・・・

ドガン！

突然激しい轟音こうおんが木霊こだましたのだ。一体何故・・・

はやて「な、何や!？」

アルル「何、今の!？」

ゆり「すごい音!」

響「何が起こったの!？」

スバル「何かが爆発した様な!」

くるみ「あっ!あれ!」

ひかり「ヘリコプターが!」

改めて結界が張られた事で行き場を失ったヘリが、結界に衝突した事で操縦不能となり、火達磨ひだるまになりながら落下していくではないか。

そして、そのままヘリは墜落・・・再び大爆発を起こした・・・

くるみ「何なのあれ・・・!？」

響「まるで事故現場じゃん・・・!」

スバル「怖い・・・!」

はやて「あの時の事思い出しそうやわ・・・！」

ひかり「生で見る墜落現場・・・尋常じゃないよ・・・！」

アルル「音とか炎とか・・・考えられないくらい大きいよ・・・！」

ゆり「あんな目に遭ったら、生きて帰れないわね・・・！」

ヘリの墜落現場では・・・

アルファ「だ・・・大丈夫か・・・お前達・・・」

ベータ「な・・・何とか・・・」

ガンマ「しかし・・・何故あんな事が・・・？」

アルファ「分からん・・・と・・・兎に角・・・今はアジトに戻って計画を立て直さなければ・・・」

墜落時の致命傷を負いながら立ち上がろうとする3人・・・しかし・

???「観念するんだな」

突然3人の目の前に包丁の様な刃先が突き付けられた・・・突き付けたのは・・・

ベータ「お・・・お前達・・・」

ガンマ「な・・・何故ここに・・・？」

???「何故も何も・・・」

???「お前達が俺達をここまで導いてくれたんだよ」

???「これで漸くじつくり遊べそうだ」

アルファ「じゅ・・・従業員の分際が・・・戯言を・・・！」

???「残念だったね、メイズさんよ」

???「俺達は今、従業員じゃねえ」

???「そうだ・・・俺はリンクだ」

???「俺はロイだ・・・最初から最後まで笑わせてくれたな」

???「ボクはマルス・・・随分と滅茶苦茶にしてくれたみたいだね」

何と言う事か、『剣』の刃先を突きつけていたのは従業員の制服を脱ぎ捨て、本来の姿に戻ったリンクとマルスとロイだったのだ・・・

ベータ「し・・・しかしお前達は・・・」

ガンマ「そうだ・・・我々の計画など知る由も無かった筈・・・！」

アルファ「それなのに・・・何故なのだ・・・！」

???「ホントバカだね、お前達は」

???「私達がそんな事に気付かないとでも思った？」

新たに現れた2人・・・それは・・・

マルス「ルイージも知ってたし」

ロイ「サムスも最初から感付いてたんだよ」

リンク「俺達5人は、従業員の格好をしてあの遊園地に忍び込んで、遊園地を狙ってたお前等の動きをずっと監視してたんだよ」

アルファ「な・・・何だと・・・？」

ルイージ「一般人を巻き込む事も厭わ^{いと}ないお前たちのやり方・・・とても褒められたもんじゃないね」

サムス「自業自得もいいところ・・・もうあなた達に、あの遊園地を乗っ取る事は出来ないわ」

ベータ「ふっ・・・何を言っている・・・」

ガンマ「そうだ・・・あの遊園地は・・・我々メイズが・・・」

マルス「戻ってるよ」

ベータ・ガンマ「・・・？」

マルス「あそこはもう、本来あるべき遊園地の姿に戻ってるよ」

ベータ「な・・・！」

ガンマ「何だと・・・？」

ロイ「お前等が警戒していた妖精が部下達を蹴散らして、襲われなかったかの様に遊園地は完全に修復されているぜ」

リンク「資産奪取計画、ここに破れたり・・・だな」

アルファ「く・・・くそ・・・！」

こうしてメイズの3人は、スマブラメンバー達によって逮捕された・

アルル「残り10分切った・・・！絶対逃げ切ろう・・・！」

ひかり「まだパラライズボールは1個残ってる・・・！これは大切にしよう・・・！」

くるみ「ここまで来たら、やっぱり最後まで行つて賞金獲りたいわ・・・！」

エリアには6体のハンター。彼等は視界に捉えた逃走者を見失うまで追跡する。

響「妖精さん達・・・これから頑張つてほしいな・・・！あたしも頑張らないと・・・！えっ・・・？」

気合いを入れ直した響の前方にハンター・・・

しかし響は、透かさずパラライズボールを投げ付ける。すると、ハンターは痙攣けいれんを起こした様になり、動かなくなってしまった。

響「1個使っちゃったよ・・・あと1個・・・最後まで取ったときたいな・・・」

スバル「もう100万円超えてるんだ・・・！すごいよ、これ・・・！」

はやて「108万円も目前やな・・・絶対獲つたる・・・！」

ゆり「ハンター追い込み掛けてきそうね・・・最後まで油断出来ないわ・・・って言った傍そばからいるじゃない！」

ハンターに見つかり、一目散に逃げるゆり。

ゆり「何処行ってもハンターが・・・ってこっちからも・・・！」

しかし、逃げた先に別のハンター・・・

方向転換して逃げ続けるゆり。しかし、至近距離では彼女に勝ち目は無い。最早、逃走不可能・・・

ゆり「あうっ！」 ポンッ

> i 1 9 2 2 9 — 2 0 9 6 <

ゆり「情けない．．．残り10分って時に捕まってるし．．．」

残る逃走者は．．．6人．．．

対するハンターは．．．6体．．．

ゲーム終了まで残り8分40秒。

逃げ切れるのか!?

ミッション6終了！　そして・・・（後書き）

メイズの逮捕で幕を閉じた今回の事件

しかし・・・事件はこれで本当に終わりでは無かった・・・

次回、逃走者にメイズの怨念が襲い掛かる！

メイズの呪い（前書き）

メイズの逮捕に終わった今回の事件

しかし・・・ゲームはまだ終わらない・・・

残り8分30秒・・・6人の逃走者の行く先には何があるのか!?

メイズの呪い

残る逃走者は、アルル・ひかり・くるみ・響・はやて・スバルの6人。

ひかり「10分切って、すごい緊張してきた・・・！」

これまで全てのミッションに参加してきた九条ひかり・・・

スバル「ハンター追い込み掛けてきそうだな・・・」

ひかりと共にミッションをクリアしてきたスバル・ナカジマ・・・

響「絶対逃げ切ってやる・・・！」

これまで何度もハンターを振り切った北条 響・・・

アルル「捕まりたくないな、ここまで来たら・・・」

積極的にミッションに参加してきたアルル・ナジャ・・・

くるみ「このゲームって、怖さが半端じゃない・・・！」

・ 前回の雪辱を果たすべく、ここまで生き延びてきた美々野くるみ・・・

はやて「やっぱり逃げ切って、108万円獲らんとね・・・！」

唯一の復活組となった八神はやて・・・

彼女達はあと8分ほど逃げ切れれば、賞金108万円を獲得出来る。

しかし、6体のハンターがそれを阻む。彼等は視界に入った逃走者を機械的に、見失うまで追跡する。

くるみ「もう1個しかないし・・・無理に動かない方が無難ね・・・」

既にパラライズボールを1個使ってしまったくるみ。ユリ科の花園の陰に隠れる。

パラライズボールを受け取った他の3人も、既に残り1個・・・

ひかり「これは最後まで取つとかなないと、多分苦しくなりそう・・・」

響「挟まれた時ぐらいに使った方が絶対いいよ、これは・・・」

スバル「ただ見通しが良過ぎるからな、このエリアって・・・それが曲者だよ・・・」

アルル「それにしても、この衣装すごい目立つ・・・」

逃走者達は全員発光する衣装を身に付けている。ハンターと遭遇すれば、逃げ切るのは容易ではない。

はやて「ホンマにえぐいわ・・・見通しは良過ぎで服は光つとる・・・最悪のコンディションやないか・・・」

くるみ「どうしよう・・・？100万円行ってるし・・・このまま自首しちゃおうかな・・・？」

自首に動こうとするくるみ。

その近くにハンター・・・

くるみ「ただ自首届を書かなきゃいけないんでしょ・・・？その間に見つかったらパーよ・・・あれ・・・？不味い、ハンター・・・！」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるくるみ。

しかし、ハンターは気付いていない様だ。

くるみ「城が遠ざかった・・・暫くは無理ね・・・」

思う様に城に近付けない・・・

スバル「残り人数が減ると、ホントに厳しいな・・・ん・・・？ひかり・・・？」

スバルの近くにひかり・・・

ひかり「スバルさん・・・何か私達、良く会いますね・・・」

スバル「ホントだね・・・奇遇って言葉じゃ済まされないぐらいだよ・・・」

ひかり「それよりもスバルさん・・・絶対自首しないで下さいよ・・・」

・？
」

スバル「する訳無いじゃん・・・！ひかりこそ自首しないでよ・・・？」
」

ひかり「絶対しません・・・！逃げ切る為に参加してるんですから、私は・・・！」

スバル「あたしだってそうだよ・・・！自首なんて邪道だよ・・・！」
」

ひかり「じゃあ、お願いしますね・・・！」

スバル「はいよ・・・！」

2人は自首しない事を固く約束し別れる。

響「あと7分・・・103万8000円・・・！こんな金額初めてだよ・・・！でもあたしは、108万円まで行く・・・！」

逃げ切りを狙う響。

その前方からハンター・・・

響「妖精さんとも約束したしね・・・！逃げ切らなきゃ女が廃^{すた}る・・・！えっ・・・？嘘っ！？」

見つかった・・・

響「ヤバっい！」

曲がり角を利用して一目散に逃げる響。そして、またしてもハンターを振り切ってしまった。

彼女はこれで、5回ハンターを振り切った事になる・・・恐るべし
身体能力・・・

響「こんなに何回もハンターに出くわしたら・・・もう目も合わし
たくないよ・・・！心臓に悪過ぎるって・・・！」

アルル「やっぱり魔導師の名に賭けて、捕まるのはゴメンだね・・・
！」

ぶよぶよメンバーの唯一の生き残りとなっているアルル。元祖ぶよ
ぶよの主人公の意地を見せられるのか。

はやて「ここまで生き残つという捕まったら、機動六課部隊長の名
が泣くわ・・・」

機動六課の部隊長を務めている最強の魔導師・八神はやて。彼女は
5人の復活組の唯一の生き残りだ。

はやて「しかも、牢獄の皆から復活しという何やねんみたいな事を
言われてまうよ・・・」

メイズの魔の手が消え、2体の妖精によって本来の姿を取り戻した
深夜の遊園地・・・

逃走者の命の恩人ともいえるMOTHER御一行・・・更には、ひかりが会話を交わしたヴォルケンリッターの3人やプリキュア5の5人も、深夜限定の遊園地に大満足の様子・・・

そんな観客達の様子を見守っているのが・・・

妖精（リインフォース？）「メイズも崩壊しましたし・・・これで暫くはこの遊園地も襲われる事は無いでしょうね」

妖精（アギト）「うん・・・しかし・・・悪かったな、お前に寂しい思いをさせたみたいで・・・」

妖精（リインフォース？）「謝らなければならないのは、寧ろ私の方です・・・私が未熟なばかりに、大変な事を起こしてしまつて・・・」

妖精（アギト）「でも良かったじゃないか。あの天空のガーデンにいた奴らのお陰で、こうやってまた遊園地を見守りながら守っているんだからな」

妖精（リインフォース？）「そうですね。終わり良ければ全て良し・・・ですか？」

妖精（アギト）「まあ、そう言う事だよ」

妖精達は暫く観客達を見ていた・・・その時・・・

妖精（リインフォース？）「さあ、行きましようか？」

妖精（アギト）「ん？行くって何処へ？」

妖精（リインフォース？）「天空のガーデンですよ。今度はあの人の事を見届けに行きましょう」

妖精（アギト）「ああ、そう言えばあいつ等・・・ハンターとか言うのから逃げてたんだっけな」

妖精（リインフォース？）「そうです」

妖精（アギト）「そうだな・・・いろいろと世話になったしな・・・行くか！」

妖精（リインフォース？）「はい！」

妖精達は、逃走者達を見届ける為に天空のガーデンへと向かって行った・・・

その一方で、拘置所に投獄されたメイズのリーダー・アルファは・・・

アルファ「おのれ異国の民め・・・！我々の計画を幾度となく邪魔しておって・・・！許さん・・・！お前達は絶対に許さんぞ・・・！貴様等には、相応の報いを与えてやる・・・！覚悟しろ・・・！」

逃走者に対しての憎しみを増大させる・・・

すると、何と言う事か・・・

アルファの怨念が天空のガーデンの花々を次々と枯らしていくではないか・・・

天空のガーデンにやって来た妖精達は・・・

妖精（リインフォース？）「な・・・何ですか、これ・・・！？花が・・・全部枯れてるなんて・・・！」

妖精（アギト）「どういう事だ・・・！？こんな事、今まで無かった筈なのに・・・！」

前代未聞の出来事に、戸惑いを隠せない・・・

そしてその怨念は、エリアに存在する巨大な花時計にも影響が・・・

時計の針の動きが徐々に鈍くなり・・・そして・・・

> i 1 9 3 1 2	2 0 9 6 <
> i 1 9 3 1 3	2 0 9 6 <
> i 1 9 3 1 4	2 0 9 6 <
> i 1 9 3 1 5	2 0 9 6 <
> i 1 9 3 1 6	2 0 9 6 <
> i 1 9 3 1 7	2 0 9 6 <

牢獄

ブルルルル　ブルル

シグ「何々・・・？メール々・・・？」

レムレス「みたいだね・・・あつ・・・！ミッション？・・・！」

ピット「まだミッションあるの？」

フェイト「今回すごいスケール・・・！」

レムレス「『謎の集団の怨念により、ゲーム時間が逆転した』・・・

」

ドラコ「えっ・・・？」

リユカ「逆転・・・？」

レムレス「『これにより、現在残り時間は1秒ずつ増え続け』・・・

」

ラフィーナ「ええー！？？」

ルルー「何それ！？？」

レムレス「『賞金は100円ずつ減少している』・・・」

トウーン「ヤバいじゃん！」

せつな「ゲームが終わらないって事！？？」

響「時間増えてるじゃん！マジで！？？こんな事あるの！？？」

アルル「お金もどんどん減ってる！これはヤバいつて！」

MISSION？ 逆転した時間を戻せ！

メイズのリーダー・アルファの強烈な憎しみによる怨念が、エリア中央にある花時計に異変を起こし、ゲーム時間が逆転。これにより、現在残り時間が1秒ずつ増え続け、賞金は100円ずつ減少している。このままでは、ゲームは永遠に終わらない。ゲーム時間を元に戻すには、エリアを巡回している2体の妖精に頼み、花時計の前に連れて来させなければならない。

はやて「こんなミッション有り得へんやろ！」

くるみ「いつまで経っても、このゲーム終わんないの！？」

スバル「これやんなきゃしょうがないでしょ！？」

ひかり「時間増えたら、それだけ不利になるもん！」

逃走者に与えられた驚愕のミッション。無視し続ければ、ゲームは永久に終わる事は無い。

しかし、エリアには6体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

ゲーム時間を元に戻す事は出来るのか！？

メイズの呪い（後書き）

ゲーム終了5分前に発生した前代未聞の出来事・・・

6人の逃走者は、この危機を乗り越えられるのか！？

妖精を探せ！（前書き）

逃走者に与えられた、前代未聞のミッション

無事成功させられるのか！？

妖精を探せ！

ゲーム時間を司る花時計が異変を起こし、ゲーム時間が逆転してしまった。元に戻すには、エリアを巡回している2体の妖精を探し出し、花時計の前に連れて来させなければならない。

響「妖精って・・・さっきの妖精さんの事だね、絶対」

はやて「妖精って何や？響ちゃんが言うてた事かいな？」

アルル「早く探さないと・・・！」

ひかり「うわっ・・・！もうすぐで1分延びちゃう・・・！」

スバル「ヤバいぞ・・・！」

くるみ「妖精を2体見つけるのが先なんですよ？厳しい・・・！」

エリアには6体のハンターが引き続き逃走者を搜索。妖精を探す為に動けば、見つかる危険が高い。

> i 1 9 4 1 4 — 2 0 9 6 <

ひかり「妖精を2体・・・あれ・・・？はやてさんだ・・・」

ひかりがはやてを見つけた。

ひかり「はやてさん」

はやて「おお、ひかりちゃんか・・・」

ひかり「ミッションやりますよね？」

はやて「やらへん・・・私には多分妖精見えへんと思うのよ・・・」

ひかり「えっ・・・！？ど、どういう事ですか・・・！？」

はやて「さっきな、響ちゃんと会って・・・あの子、横に妖精おる
って言うてたんやけど、私には何にも見えへんかったんや・・・」

ひかり「ええ・・・？逃走者の中には、見えない人もいるって事で
すか？」

はやて「かも知れへんな・・・だから、私は却かえって足手纏あしでまといになる
だけやと思うねん・・・だからやらへん・・・」

ひかり「そうですか・・・分かりました」

はやて「役に立てんでゴメンな・・・ってハンター来たで！」

ひかり「ええゝ！？」

2人がハンターに見つかった・・・

二手に分かれて逃げる、クイーンの命・九条ひかりと、機動六課部
隊長・八神はやて。

ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーー

ひかり「こっち来た〜！」

ひかりだ・・・

ひかり「もう使っちゃおう！えいっ！」

彼女は、最後のパラライズボールを追って来るハンターに投げ付けた。

ハンターは攻撃を受け、動けなくなった・・・この隙に、ひかりは距離を取る。

ひかり「使っちゃったよ・・・どうしよう・・・？もう自力で逃げるしかないんでしょ、これからは・・・」

そう・・・パラライズを使い果たしてしまつたら、後は自力で逃げなければならぬ。

アルル「妖精さん、何処？」

妖精を探すアルル。その時・・・

アルル「ん・・・？何だろう、あれ・・・？」

何かを見つけた。

アルル「鳥にしては変な飛び方だね・・・？あつ・・・！」

彼女が見たもの。それは・・・

アルル「妖精じゃない？」

1体の妖精だ・・・

アルル「すみません。妖精さんですよ？」

妖精（リインフォース？）「えっ？いかにもそうですけど・・・」

アルル「あっ！なのはのところのリインじゃん！何で変身した時みたいな格好してんの！？」

妖精（リインフォース？）「私リインじゃないです。妖精です・・・そ、そんな事より・・・これどういう事ですか！？このエリア中全ての花が枯れてるなんて・・・！」

アルル「ボクも分からないよ・・・それよりも妖精さん！ボクと一緒に花時計に来てよ！」

妖精（リインフォース？）「えっ？な、何ですか？」

アルル「時計が逆転してるんだよ！しかも、それを直せるのは妖精さんしかいないんだって！だから来て！」

妖精（リインフォース？）「そ・・・それは大変です！行きましよう！」

アルル「行こう、行こう！うわっ！」

アルルが向かおうとした先にハンター・・・

アルル「うわぁー！こんなのアリなのー！？」

一目散に逃げるアルル。しかし、その距離がどんどん縮まっていく。
最早、逃走不可能・・・

かと思われたが・・・

アルル「うわー！・・・って、あれ・・・？追って来ない・・・」

彼女を追ったハンターが、動かなくなっていた。

アルルを救ったのは・・・

くるみ「間一髪ね・・・」

美々野くるみだ・・・彼女はパラライズボールを使い、ハンターの動きを止めたのだ。

アルル「くるみ・・・！」

くるみ「あんたが妖精連れてハンターに追われてるのを見たから・・・
危なかったわね・・・」

アルル「有難う！」

くるみ「おれはいいから、早く行きなさい！すぐにハンター動き出すから！もう1体見つけたら、すぐに行く！」

アルル「OK！」

> i 1 9 4 1 5 — 2 0 9 6 <

アルルはそのまま花時計を目指す。

ひかり「あっ．．．！くるみさんだ．．．！」

くるみ「ひかり．．．！さっきアルルが1体妖精を連れてたから、もう1体を探しに行きましょう．．．！」

ひかり「そうなんですか．．．分かりました．．．！」

もう1体の妖精を探しに向かおうとする2人。

しかし、その近くに3体のハンター．．．

くるみ「もう2分も延びてるから、早くした方が．．．！」

ひかり「分かってますよ、そんな事は．．．！あっ．．．！ハンターいますよ．．．！」

くるみ「嘘でしょ．．．！？」

ハンターを見つけ、二手に分かれて逃げる2人。

しかし、2人が逃げる先には別のハンター．．．そして、見つかった．．．

ひかり「こっちにもっ！？」

くるみ「最悪〜！」

一目散に逃げるひかりとくるみ。

ひかり「ヤダ〜！」

必死に逃げるひかり。しかし、パラライズボールを失った彼女がハ
ンターに敵う訳がない。最早、逃走不可能・・・

ひかり「いやー！」 ポンッ

> i 1 9 4 1 6 — 2 0 9 6 <

ひかり「ああもう・・・！折角ここまで逃げてたのに・・・！」

くるみ「うわー！速いってばー！」

ひかりの確保を尻目に逃げ続けるくるみ。しかし、その差は縮まっ
ていくばかり。最早、逃走不可能・・・

くるみ「あぁっ！」 ポンッ

> i 1 9 4 1 7 — 2 0 9 6 <

くるみ「嘘・・・！？ミッションクリア目前だったのに・・・
！」

プルルルル プルル

はやて「何やねん、何やねん．．．？」

スバル「うわっ！ひかりもくるみも捕まった．．．！しかも、『残り4人』って．．．！これヤバイよ．．．！」

響「何処にいるんだろっ、妖精さん達．．．巡回してるって書いてあったよね？」

現在、1体の妖精はアルルがみついている。残る1体は、手掛かり無しで探さなくてはならない。

響「不味い．．．！もうすぐで8分になっちゃっよ．．．！」

スバル「このまま10分とか15分まで戻ったら最悪だよ．．．！」

時間は刻一刻と増え続けている。

はやて「参ったわ．．．」

妖精が見えない為、何もする事が出来ないはやて。

はやて「ホンマにゴメンな、皆．．．私が妖精見えないばかりに．．．皆頑張っ．．．頼むわ．．．」

早期ミッシェンクリアを祈る．．．

>i19418—2096<

遂に時間は3分延長されてしまった．．．

響「何処だ・・・！？妖精さん達何処・・・！？」

スバル「全然分らないんだけど・・・！」

時間が増えていくに連れ、次第に焦りを感じていく響とスバル

アルル「あれだ、花時計！」

花時計前に姿を現したアルル。しかし、妖精が1体では時間を戻せない。

アルル「誰も来てないの！？」

妖精（リインフォース？）「相方に来てもらわないと、戻せないですよ」

アルル「それは分かってるよ！ちょっと待って・・・！」

アルルは誰かに電話を掛ける。

ピリリリリリ

スバル「何だよ、こんな時に・・・！アルルからだ・・・もしもし、何？」

アルル「妖精見つけた？」

スバル「まだ見つかってないんだよ」

アルル「ボク1体見つけて、花時計の前にいるんだよ」

スバル「あつ、ホントに!？」

アルル「うん。だから、あと1体をお願いね。見つけ次第、すぐこっち来て!」

スバル「了解!」

2人は電話を切った。

スバル「あと1体か・・・あつ・・・あれって・・・」

何かを発見したスバル。恐る恐る近付いてみると・・・

スバル「ちよつと・・・あんだ、妖精?」

妖精（アギト）「ん?そうだけど・・・」

スバル「あれ!?あんだアギトじゃん!何してんの!？」

妖精（アギト）「あたしアギトじゃないんだけど・・・ってそんな事言ってる場合じゃないって!何だよこれ!?花が全部枯れてるじゃないか!どいう事なんだよ!？」

スバル「そんな事よりさ、アギ・・・妖精さん、すぐにあたしと花時計の所に行かないと!」

妖精（アギト）「何でそんな所に行く必要が・・・」

スバル「時計が逆転してるんだよ!妖精さんじゃないと、時間を元

に戻せないらしいからさ！」

妖精（アギト）「何だって！？それは一大事だ！さっさと行こう！」

スバル「急がないと、もう1体の妖精にも悪いよ！」

妖精（アギト）「お前・・・相方を知ってるのか？」

スバル「もう花時計前にいるんだって！だから一刻も早く行かないと！」

妖精（アギト）「そうか・・・！よしっ！急ぐぞ！」

これで、2体の妖精が逃走者達と行動を共にする事となった。

時間は、間もなく残り9分になるうとしている。

スバル、無事に妖精を花時計に連れていけるのか！？

妖精を探せ！（後書き）

残る逃走者は、アルル・響・はやて・スバルの4人だけとなった！

時間逆転ミッションの行方はいかに！？

それにしても、逃走中面白かった〜！

4月10日の放送も楽しみ

でも、ハンターの秘密が明かされて放送が終わり・・・にはなっ
てほしくない！

しかし、あの終わり方は一体・・・？

収益の確認やオッズの様な数字・・・そして、スタジアムと観客・・・

・
何処かで見覚えのある展開・・・

それにしても、タイマーや確保時のフォントとか全て変わってた・・・

・
折角苦労して作ったものも、今回限りでお蔵入りなんて・・・

苦労が水の泡とは、正にこの事なのか・・・

妖精が揃う時（前書き）

時間が増え続けていく中、遂に妖精と出会えた逃走者

このまま時を戻せるのか！？

妖精が揃う時

妖精と出会い、花時計へと急ぐスバル。花時計の前には、既に妖精を連れてアルルが待っている。

> i 1 9 4 7 5 — 2 0 9 6 <

しかし、ゲーム時間は4分延長されてしまった。このまま妖精を会わせられなければ、時間は永遠に増え続ける。

アルル「早く誰か来て・・・！」

妖精（リインフォース？）「本当に不味い状況ですよ、これは・・・！」

スバル「くそっ・・・！ハンターがいるな、あそこに・・・！」

妖精（アギト）「何処行ってもいるじゃないか・・・！」

ハンターを見つけ、思う様に近付けないスバル。

エリアには6体のハンター。花時計に辿り着くのは容易ではない。

響「ヤバイ・・・！もう9分まで増えてるじゃん・・・！」

はやて「これ以上増えたら、絶対逃げられへんよ・・・！」

スバル「もういないよね・・・？大丈夫だね・・・？」

妖精（アギト）「よしっ……！今がチャンスだ……！」

ハンターが通り過ぎたのを確認し、スバルは花時計へと急ぐ。

アルル「誰も見つけれられてないのかな？」

妖精（リインフォース？）「絶対誰かと一緒にいる筈なんですよ……！」

アルル「だといけど……」

スバル「おーい！アルルー！」

アルルの許に到着したスバル。

アルル「あっ！スバル！あっ……妖精も連れて来てる！」

妖精（リインフォース？）「どうやら見つけてくれたみたいですね！」

スバル「あれ？アルルの連れてる妖精……ちっちゃい上司の……！」

アルル「スバルが連れてる妖精だって、炎の……！」

妖精（リインフォース？）「断じて違います！」

妖精（アギト）「断じて違う！」

スバル「そ……そんな事いいや……兎に角、早く時間戻して！」

アルル「そうだった・・・お願い！時計を何とかして！」

妖精（リインフォース？）「了解です〜！」

妖精（アギト）「ほい来た！」

2体の妖精は、花時計の前へと近付く。そして・・・

妖精（リインフォース？）「時を刻みし聖なる文字盤よ・・・！」

妖精（アギト）「その動きを元に戻さん・・・！」

祈る様な動作をして呪文を唱えた・・・

すると、逆に進んでいた時計の針の動きが徐々に鈍くなり、そして・・・

> i 1 9 4 7 6	—	2 0 9 6 <
> i 1 9 4 7 7	—	2 0 9 6 <
> i 1 9 4 7 8	—	2 0 9 6 <
> i 1 9 4 7 9	—	2 0 9 6 <
> i 1 9 4 8 0	—	2 0 9 6 <
> i 1 9 4 8 1	—	2 0 9 6 <

アルル「あっ！針がちゃんとした方向に進んでる！」

スバル「やった〜！クリアだ！」

ミッションクリア

アルルとスバルの活躍で、時間の逆転は4分半程度で止まった。

2人はハイタッチをして喜びを分かち合う。

牢獄

ブルルルル　ブルル

レムレス「おっ、メールが来た・・・！」

フェイト「内容は？」

キャロ「誰か捕まったとか？」

レムレス「違う違う・・・！」『アルル・ナジャとスバル・ナカジマの活躍により、ミッションクリア』！」

レッド「おお！」

リユカ「すごい！」

ティアナ「あの2人最高だね！」

響「あっ、時間戻ってる！賞金もちゃんと上がってるよ！1000円ずつ増える！」

はやて「あの2人最高やわ・・・！ホンマに有難う！」

アルル「じゃあ、このまま逃げ切ろう！」

スバル「当たり前だよ！絶対逃走成功させよう！」

牢獄

トウイン「それにしても・・・マリオがあんな風になっちゃってるのはどうして・・・？」

トウインリンクが指差した先には、オープニングゲームの鎖で縛られたまま黒焦げになっているマリオの姿が・・・

奏「なんか・・・マリオさんを外に連れ出して、レムレスさん以外のぷよぷよメンバーが魔法で満身創痍になるまで痛め付けた後、せつなさんとゆりさんがプリキュアに変身して必殺技で止めを刺したとか・・・私もホントはそれに加わりたかったんだけど、響がいなから・・・単独変身出来ない事が、ここまで影響していたなんて・・・」

エリオ「通報されたメンバーであるにも拘らず、ボク達機動六課のメンバーは出る幕が無かったのがちよつと・・・」

リュカ「そんな事言ったら、スマブラの通報されたメンバーだって加わってないよ？」

レッド「俺のポケモンで制裁を加えたかったんだけどな．．．ぶよぶよの奴等に先手を取られて．．．」

なのは「素直に謝れば、あんな姿になる事無かったのにね．．．」

キャラ「自業自得って言葉が似合いますね、こういうのって．．．」

ピット「まあ、ぶよぶよメンバーやプリキュアの2人の中に、マリオに投票した人が1人もいなかっただけでもいいんじゃないかな．．．？マリオに入れた人には、制裁を加える資格が無いんだから．．．」

奏「そうよね．．．マリオさんを悪役に仕立て上げた1人が私だし．．．」

ワリオ「まさかこういう事になると予想出来なかっただけに．．．」

なのは「私達も少しは反省しないとね．．．これからは、物事の裏をちゃんと読み解かないと．．．」

響「あと9分か．．．結構延びちゃったな．．．延びた分も逃げないと．．．!」

アルル「でも、最後までやらないで180分まで戻されるよりは全然マシだもんね．．．」

賞金は再び1秒100円ずつ上昇している。逃げ切れば108万円・

・・ハンターに捕まれば0円・・・

はやて「ここまで来たら、もうミッション無いやろ？」

スバル「あとは逃げ切るのみって事か・・・！絶対逃げ切る・・・！ずっと一緒に頑張ってたひかりの分も・・・！」

残る逃走者は4人・・・対するハンターは6体・・・

響「あそこにハンターいる・・・」

遠くにハンターを見つけた響。すぐさま身を隠す。

響「パラライズボールがあるけど、もう1個しか無いからな・・・出しやばって使い捨てになったら、流石のあたしでも逃げ切るのは難しいよ・・・！」

パラライズボールをハンターに当てられれば、30秒間だけハンター1体の動きを止める事が出来る。しかし、彼女は既に1個使っている為、残っているボールはあと1個。闇雲に使用すれば命取りとなる。

スバル「最後まで取っておきたいよね・・・絶体絶命の時に使った方が・・・」

スバルもまた、パラライズボールは1個だけ所持している。

スバル「あっ・・・ハンターいるじゃん・・・」

ハンターを見つけ、花園の陰に隠れるスバル。

ハンターはスバルに気付いていない様だ。

スバル「行つたかな・・・？」

ハンターが通り過ぎたかどうかを確認する。しかし・・・

スバル「うわぁー！」

別のハンターがスバルに襲い掛かる。

スバル「ヤバい！このままじゃ捕まる！」

一目散に逃げるスバル。しかし、普通に逃げているとは捕まると踏み、最後のパラライズボールをハンターに投げ付ける。

ハンターはパラライズボールの効力によって動かなくなった・・・この隙に、スバルは逃げる。

しかし・・・

スバル「ヤバいな・・・最後まで取つときたかったのに・・・ってマジかよー！？」

逃げた先に別のハンター・・・

スバル「くそー！」

一目散に逃げ続けるスバル。パラライズボールを使い果たしてしまつた以上、自力で逃げるしかない。しかし、その差は徐々に無くな

つていく。最早、逃走不可能・・・

スバル「ああうつ！」 ポンッ

> i 1 9 4 8 2 — 2 0 9 6 <

スバル「くそ・・・！ここまで逃げたのに・・・！ハンター速過ぎだつて・・・！マジで悔しい・・・！」

ブルルルル プルル

響「確保情報・・・！？えっ！？『キク科の花園付近にて、スバル・ナカジマ確保』！スバルさん捕まった・・・！」

はやて「『残り3人』・・・！？これアカンて！完全に危機的状況やないか！」

アルル「3人！？ちよつと待って！これヤバいつて！もう3人しかいないの！？」

これに残る逃走者は、アルル・ナジャ・北条 響・八神はやての3人だけとなった。

ゲーム終了まで、7分30秒を切った。

果たして逃げ切れるのか！？

妖精が揃う時（後書き）

ゲームも遂に大詰め！

3人は恐怖のゲームを制する事が出来るのか！？

大詰め（前書き）

逃走者3人vsハンター6体

残り7分半の攻防・・・制するのはどっちだ！？

大詰め

残る逃走者は、アルル・響・はやての3人。

彼女達は、あと7分強逃げれば賞金108万円を手にする事が出来る。

しかし、6体のハンターがそれを阻む。ハンターに捕まれば失格・
・賞金は0円・・

はやて「残り7分か・・・もう103万円超えてるで・・・！かなりの高額や・・・！でも自首はしたらアカン・・・！復活した身やから、私は・・・復活しての自首はアカン・・・！機動六課の部隊長としての面子も丸潰れになってまうし・・・あと7分・・・7分の辛抱や・・・！」

唯一の復活組となっているはやて。狙うのは逃げ切りのみ。

アルル「ここまで残れるとは、正直思ってたな・・・こんな長丁場でのスリル感、今まで出てきた冒険と全然違う・・・！世の中にこんな怖くて緊張するゲームが存在するなんて・・・！」

響「結構長いよね、7分って・・・このゲームに参加すると、時間の進みがメチャクチャ遅く感じられるのは何でだろう・・・？マジで心臓に悪過ぎるって・・・！現に心臓辺りが痛いし・・・！」

ゲーム開始から173分以上逃げている2人。この勢いで逃げ切れるのか。

アルル「180分って長いな〜・・・あつ・・・！ハンターだ・・・！」

遠くにハンターを見つけたアルル。距離を取る為に一目散に逃げる。

彼女が逃げた先には・・・

はやて「あんま動かん方がええんかな・・・？」

八神はやて・・・

はやて「ん・・・？今、アルルちゃんが通ったで・・・何や・・・？あつ・・・！ハンターやないか・・・！」

はやても見つかる前に、移動を試みる。

幸い2人ともハンターには気付かれていない様だ。

アルル「もう何処行ってもいるじゃん、ハンター・・・！」

はやて「動けへんな、これは・・・どう考えても・・・」

響「挟み撃ちにされたらヤダな〜・・・」

これまで何度もハンターを振り切り、驚異的な身体能力を見せ付けている響。

近くに2体のハンター・・・

響「とりあえずハンターを先に見つけて、上手くかわしていけない

と・・・このままじゃホントに危ないし・・・」

響は、まだ近付いてくるハンターに気付いていない。

そして、見つかった・・・

響「ん・・・？うわっ！マジかよ！」

追って来るハンターに気付き、一目散に逃げる響。しかし・・・

響「嘘！？こっちにもいるじゃん！」

逃げた先にもう1体・・・挟み撃ちだ・・・

響「もうこうなったら・・・そりゃっ！」

彼女は、逃げる方向にいたハンターに向けて、最後のパラライズボールを投げ付けた。ボールを当てられたハンターは、ボールが持つ効力により、痺^{しび}れて動かなくなった。

しかし、ハンターの脅威が無くなった訳ではない・・・

尚も追い掛けて来る1体のハンター・・・

響「これはヤバイ・・・！絶対ヤバイ・・・！」

曲がり角を利用し、一目散に逃げ続ける。

そして、またしてもハンターを撒いてしまった。

響「もうゝ・・・あたし何回ハンターに追いつけられた？相当追いつけられてるよ？ちよつとさ、ハンターあたしに狙い定め過ぎじゃない？何回も振り切られたのが悔しいからって・・・もうあたし会いたくないんだけど・・・パラライズボールも使い果たしちゃったし・・・」

これより響は、自力でハンターから逃げなければならない。

はやて「早よ時間経ってくれへんかなゝ・・・」

城の近くに身を潜めているはやて。

背後からハンター・・・

はやて「時間が長く感じられるわ・・・アカン・・・体内時計が完全に狂つとる・・・！立て直さんと・・・」

そして、見つかった・・・

が、はやては気付かない・・・

はやて「気持ちを切り替えんと・・・こんな所で躓つまずいとつたら・・・
つてハンター近くにおるやん！」

ハンターに気付く、一目散に逃げるはやて。しかし、気付くのがあまりにも遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

はやて「いやあっ！」 ポンッ

はやて「何やねん、これ……！最悪や……！」

復活の最強の魔導師、遂に力尽きた……

プルルルル プルル

アルル「確保情報……？はやて捕まった！」

響「『残るはアルル・ナジャと北条 響のみ』……！2人だけ……！？」

牢獄

レムレス「『八神はやて確保』！」

レムレス以外「ええ……！？」

フェーリ「ちょっと待って！これってまさか……」

ラフィーナ「そうよ！復活組全滅よ！」

ティアナ「マジ……！？」

レッド「俺達の夢だったのによ……！」

なのは「どうしてくれるんの……！？」

エリオ「申し訳ないです・・・」

ゆり「情けなかったわ・・・」

奏「何とも言えないです・・・」

アミティ「ゴメンなさい・・・」

復活組全滅に呆れ果てる牢獄の者達。

そこへ・・・

くるみ「はぁ・・・捕まった・・・」

くるみがやって来た。

せつな「くるみ・・・前回よりは頑張った方じゃない？」

くるみ「まあね・・・でもやっぱり捕まるのは悔しいものよ・・・」

シグ「とりあえず入って来なよ・・・」

そう言われ、くるみは入獄する。その時、彼女の目に飛び込んできたのが・・・

くるみ「ちょ・・・ちよつと・・・何これ・・・？」

哀れな姿になっているマリオだ・・・

ワリオ「いろいろあったんだよ・・・詳しく話すと長くなるから、

割愛するがな・・・」

くるみ「確かに見た感じ、何かあったんでしょうね・・・兎に角、私はマリオに言いたい事があるから」

その言葉が言い終わるか終わらないかのタイミングで、くるみはマリオに思いっ切りビンタをした。

マリオ「うぐっ・・・！な・・・何すんだよ・・・！」

くるみ「マリオ！よくも私を出しにくれたわね！」

ドラコ「えっ・・・？ど、ど、ど、どういう事・・・？」

ティアナ「出して・・・意味分かんないんだけど・・・」

くるみ「マリオったら、私を見つけておきながら通報しなかったらしいのよ！それでひかりの推測によると、マリオは私を偽の裏切り者に仕立て上げようとしてたんじゃないかって言う事なのよ！」

キャロ「でも、飽くまでも推測ですよな？」

くるみ「確かにね・・・でも私、マリオと1回鉢合わせになったのよ！」

クルーク「そう言えば、結構前にそんな事言ってたね」

くるみ「普通だったら、視界から消えたらすぐ通報すると思わない？」

フエイト「それは分かる。確かに分かる」

くるみ「でしょ？それなのに私は、結構後の方まで生き延びてた・
・おかしいと思わない？」

リュカ「マリオ・・どうなの？」

ウィッチ「彼女を方便したのは本当ですの？」

マリオ「ボクは・・兎に角疑われなくなかったんだ・・！その
為には・・前回ヒールだったくるみを使うほか考えられなかった
んだよ・・！」

シェゾ「お前最低だな！無実の人間に罪を被せやがって！」

マリオ「う・・うるせえ・・！ボクを裏切り者にしたのは何処
の誰だよ・・？お前等じゃねえか・・！」

トウーン「だったら、自分の役目を全うしてれば良かったじゃない
か・・！それだったら、まだ許せるよ」

ピット「他人にその濡れ衣を着させようとするからダメなんだよ・
・！」

リデル「まあ・・重い罰を受けて当然の身ですよ・・！」

ルルー「これで謝らなければならない人間がまた1人増えたわね、
マリオ・・！さあ、くるみに濡れ衣を着させた事、心から謝罪し
なさい・・！謝らなかったら・・分かってるんでしょうね？」

ルルーの言葉に反応した様に、牢獄の者達は武器を出したり変身する為の道具をちらつかせたりとマリオを威嚇する。しかし、当然の事ながら、マリオに投票した者には制裁を与える資格はない。その為、それに該当する者はただマリオを睨みつけるだけだ。

マリオ「くっ……わ、分かったよ……謝るよ……謝るから、先ずこの鎖解いてくれよ……さっきから苦しいんだよ……」

マリオ以外「先に謝れ！」

> i 1 9 3 1 4 — 2 0 9 6 <

ゲーム終了まで、5分を切った。

賞金は既に105万円を超えている。

残るはアルル・ナジャと北条 響の2人。

アルル「逃げ切ったら……108万円……！獲ったら、皆でパーティーと使いたいな……」

響「108万円獲って……家族旅行したいな……！なかなか一緒にいる機会が無いからさ、うちの家族って……だから、せめて全員揃った時ぐらい、3人でグアムとかハワイとか行ってみたいな……」

みずか
自らの夢を語る2人。しかし、ハンターに捕まってしまうば、それも本当に夢と消えてしまう。

アルル「何かもう怖くなってきた……！逃走者がもう2人しかないと思うと……すごく心細い……！おまけに、ボクの世界の人達が誰もいないっていうのもすごく辛いよ……！」

響「あたしとアルルだけ……！ハンターは3倍もいるから、結構厳しいよ……！ここまで減ると流石に寂しいし、胸の鼓動が速まってるのがすごい分かる……！もう手足も震えてるじゃん……！」

2人に迫るのは6体のハンター。彼等から逃げ切るのは容易ではない。

響「もうすぐで残り4分……105万6000円になろうとしてる……！」

アルル「この4分が長いんだよ……！」

2人の近くにハンターが接近……

響「ヤバイ……！」

アルル「ハンターいる……！」

透かさず身を隠す2人。

ハンターは2人に気付いていない様だ。

響「こんな所で追われたら、あたしでも逃げ切れないよ……！」

アルル「怖過ぎるよ……！早く終わってよ……！」

しかし、別のハンターが再び接近……

そして、見つかったのは……

アルル「うわっ、来た！」

アルルだ……

響「アルル追われてる……！捕まったらダメ……！絶対振り切れ……！」

一目散に逃げるアルル。しかし……

アルル「はっ……速い！速過ぎるよ！」

ハンターとの距離がどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能……

アルル「うわぁー！」 ポンッ

> i 1 9 5 4 8 — 2 0 9 6 <

アルル「嘘だ……あと……あと3分半じゃ……ん……悔しい……！」

元祖ぶよぶよの主人公、ハンターの前にばたんきゅ……

響「『バラ科の花園付近にて、アルル・ナジャ確保。残るは北条響のみ』って……あたし以外全員捕まったって事！？」

牢獄

レムレス「『アルル・ナジャ確保』！」

レムレス以外「ええゝ！？」

レムレス「『残るは北条 響のみ』！」

奏「響だけ！？」

ひかり「逃げ切ってほしいです！」

せつな「私達の最後の希望！」

残る逃走者は、響ただ1人・・・対するハンターは6体・・・

> i 1 9 5 4 9 — 2 0 9 6 <

ゲーム終了まで、残り3分を切った。

響、生き残れるのか！？

大詰め（後書き）

次回、過去最長180分のゲームにピリオドが打たれる！

北条 響の運命は！？

そして、長時間ゲームを監視していた謎の存在がまたも動き出す！
？

ゲーム終了！（前書き）

残り3分の攻防・・・勝つのは響か・・・それともハンターか・・・？

ゲーム終了！

ゲーム終了まで、既に残り3分を切っている。

エリアには6体のハンター。

標的は・・・北条 響ただ1人・・・

響「あたしが唯一の生き残り・・・捕まった皆の為に、絶対逃げ切る！」

逃げ切れば108万円・・・捕まれば0円・・・

> i 1 9 6 3 5 — 2 0 9 6 <

響「あと2分・・・！120秒・・・！長いな・・・」

牢獄

レムレス「あと2分切った！」

フェイト「2分・・・響なら逃げれる！」

ひかり「絶対大丈夫です！」

レッド「逃げろ、逃げろ！」

シグ「頑張れ……」

響「もう何処からでも来るって考えとかないと……！」

響の視線の先にハンター……

響「あそこにいるな……！ここから離れた方がいいな……！」

ハンターに見つかる前に移動する。

響「下手に動いたら、完全にハンターの思う壺だよ……！見つかったら、逆方向に一気にダッシュして逃げる……！その方が絶対いいよ……！あたしは、今までだってそうやって振り切ってきてるんだから……！」

これまで何度もハンターを振り切ってきている響。その自慢のフットワークで逃げ切りなるか。

響「あと90秒……！まだ1分半……！？早く時間経って……！」

緊迫するあまり、時間が遅く感じられている様だ。

しかし、賞金は既に107万円を超えている。勝利は目前だ。

響「兎に角、挟み撃ちされない様にだけ注意しないと……！もうパラライズボールは無い訳だから……」

彼女は既にパラライズボールを使い果たしてしまっている。逃走を手助けする方法はもう無い・・・

頼れるのは、己の逃げ足のみ・・・

響「これで捕まったら恥ずかしいよ・・・何してるんだって感じだよ・・・」

残っている逃走者は1人だけ・・・捕まれば、前代未聞の全滅・・・賞金獲得者0と言う事になる。

> i 1 9 6 3 6 — 2 0 9 6 <

ゲーム終了まで、遂に1分・・・

響「1分・・・！あと1分・・・！よし・・・！ここから集中だ・・・！」

牢獄

レムレス「あと1分だ！」

クルーク「逃げ切れ！このまま逃げ切れ！」

ゆり「でも、最後まで気を抜かないで！」

ティアナ「ヤバい・・・！鳥肌立ってきた・・・！」

ピット「大丈夫、大丈夫！」

響「前後左右・・・全方向に目を張り巡らせて警戒しよう・・・！」

警戒心をより一層強める響。

6体のハンターは、一気に追い込みを掛ける。

果たして、勝つのは・・・

> i 1 9 6 3 7 — 2 0 9 6 <

響「30秒・・・！」

ゲーム終了まで30秒・・・

しかし・・・近くにハンター・・・

響「背後にも気を配つとかないと・・・1点に集中してたら、絶対盲点から来られる・・・って目の前から・・・！」

見つかった・・・

一目散に逃げる響。しかし至近距離で見つかった為、響と言えど振り切れる筈が無い。その距離も少しずつ縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

響「わああゝ！」 ポンッ

> i 1 9 6 3 8 — 2 0 9 6 <

響「くそっ！捕まった！うわっ！もう目の前だったじゃん！あと17秒！？嘘っ！」

> i 1 9 6 3 9 — 2 0 9 6 <

牢獄

レムレス「全員確保だね」

アルル「こんな終わり方アリなの？」

リユカ「仕方ないよ。結果は結果として受け取らないと」

はやて「長い事逃げてて、皆疲れてるやろっから・・・kさんから
の差し入れの薄皮饅頭、皆で食べようや」

牢獄の者達は、kさんからの差し入れである薄皮饅頭を食べる事に。

くるみ「でも、何で私には『くるみゆべし』なの？名前を掛けると
かさ、完全に皮肉ってるじゃないの・・・」

不満そうにくるみゆべしを食すくるみ。

くるみ「まあ、美味しいから許すけど・・・」

マリオ「お・・・おい・・・ボクにも薄皮饅頭くれよ・・・」

まだ縛られているマリオ・・・

マリオ以外「絶対ダメ！」

なのは「大体マリオ君のせいで全滅になった様なもんじゃない！」

ワリオ「自分が不利になる事分かってる癖して減らしやがるんだもんな！」

ラフィーナ「自分1人だけで180分も逃げられると思ったら大間違いよ！」

せつな「完全に自業自得よ！あと1週間は反省するのね！」

マリオ「そ・・・そんな・・・」

ゲームは終わっているにも拘らず、未だに今回の事を引き摺っている逃走者達。

とりあえず、和氣藹藹わきあいあいとしているという事で・・・

響「はあ・・・残り17秒で捕まるなんて・・・リベンジしたいよ・・・」

奏「機会があれば、また出たいわね・・・」

謎の存在「……」

牢獄内で薄皮饅頭及びくるみゆべしを食べている逃走者をモニター越しに見ている謎の存在……

突然画面が切り替わり、『結果を表示しますか?』の文字が浮かび上がった……

謎の存在は、何の躊躇^{ちゅうちゆ}も無く『YES』を選択した……

すると、31人の逃走者の名前と逃走時間が次々と表示されていく。
・
・

P U Y O P U Y O

A R L E	N A D J A	1 6 5 : 4 6
S C H E Z O	W E G E Y	1 1 0 : 5 8
R U L U E	1 2 6 : 2 2	
A M I T I E	7 1 : 4 4	
S I G	5 1 : 0 2	
R A F F I N E	4 8 : 4 3	
K L U G	3 8 : 0 5	
R I D E R	6 : 0 8	
F E L I	6 2 : 1 6	
L E M R E S	0 : 1 4	
W I T C H	1 0 6 : 4 4	
D R A C O	C E N T A U R	9 7 : 3 7

S M A S H B R O T H E R S

M A R I O 1 3 1 : 0 9

W A R I O 1 0 1 : 0 1

T O N L I N K 6 6 : 2 9

R U C A S 1 1 : 5 3

P I T 1 2 1 : 5 6

R E D 2 7 : 0 2

P R E C U R E

K U J O H I K A R I 1 5 7 : 1 4

M I M I N O K U R U M I 1 5 7 : 2 7

H I G A S H I S E T S U N A 8 0 : 5 4

T S U K I K A G E Y U R I 6 1 : 3 1

H O J O H I B I K I 1 6 7 : 5 5

M I N A M I N O K A N A D E 7 9 : 4 8

S T R I K E R S

T A K A M A C H I N A N O H A 1 1 5 : 5 5

F A T E T . H A R L A O W N 1 7 : 1 1

Y A G A M I H A Y A T E 1 2 3 : 2 3

S U B A R U N A K A J I M A 1 6 1 : 2 3

T E A N A L A N S T E R 1 4 2 : 0 3

E R I O M O N D I A L 6 9 : 4 9

C A R O R U L U S H E 1 1 1 : 2 0

その後、『新規データを保存しますか?』の文字が浮かび上がった。
・

謎の存在は、これも何の躊躇^{ちゅうず}も無く『YES』を選択した・・・

その後、31人の名前が載った画面に戻ると、下の方に『DELETE』の文字が・・・

謎の存在は、それをタッチした・・・

すると何と言う事か、6人の名前を残して他の名前が全て跡形もなく消えてしまったのだ・・・

その時、謎の存在の前に6つのモニターが現れた・・・

???「今回も実験は成功だった様だな・・・」

謎の存在「はい・・・しかしこの6人は、引き続き実験の対象にさせてもらいます・・・」

???「彼等には、まだ我々が知り得ない潜在能力が秘められていそうだから・・・」

???「毎回の事だが、膨大な研究費と実験費と人件費が掛かっている・・・失敗も妥協も許されないぞ・・・」

謎の存在「勿論^{もちろん}承知しています・・・」

???「次回の実験結果がどうなるのか・・・非常に楽しみだわ・・・

・
「

「???」それに、新たな試みを考えているらしいな・・・期待しているぞ・・・」

謎の存在「楽しみにしてください・・・必ずや納得の行く素晴らしい結果をご報告致します・・・」

「???」それは楽しみにしておこう・・・では、またその時に・・・
「

この言葉を最後に、6つのモニターは姿を消した・・・

ゲーム終了！（後書き）

本編はこれにて終了です

次回からは何回かに分けて、未公開シーンを検討しています

こちらまどうぞお楽しみに！

未公開シーン？ 準備中（前書き）

束の間の休息・・・己の心の内を語り、戦いへの準備をする逃走者達・・・

未公開シーン？ 準備中

北条 響

Q・現在の心境は？

響「何て言うんでしょうかね・・・こういう深夜に走るって事が無いんで・・・不安と言えば不安ですけど・・・その反面、このゲームが大好きなんで非常にワクワクしてますね」

Q・逃走中のどういう所が好き？

響「やっぱり手に汗握る展開ですかね・・・そういうスリルが視聴者として見ていても伝わってくるんで・・・それを今回は、自分の目と身体で体験出来るんで・・・すごく緊張しますが、すごく嬉しいです」

Q・目標金額は？

響「あたしは金額よりも、兎に角逃げ切る事を目標に掲げているんで・・・まあ、でも強いて言うんだったら・・・やっぱり108万円持って帰りたいなと思ってます」

Q・最後に意気込みを一言

響「この足で180分間逃げ切りたいと思います！」

アルル・ナジャ

Q・今回が初参戦だが、作戦は考えている？

アルル「一応考えてます・・・あの・・・見晴らしのいい所に長時間はいない様にしようかなとは思ってます」

Q・ミッションはどうするつもり？

アルル「ボクは基本的に、参加出来るものは全部参加して行きたいと思います・・・ただ、距離的に無理がある様だったら手を付けるのは控えようかなって感じですかね」

Q・逃げ切る自信はある？

アルル「勿論です！元祖主人公の名に賭けて、絶対に逃げ切ります！」

八神はやて

Q・目標金額と使い道は？

はやて「目標は当然108万円です・・・それで使い道は・・・そうですね・・・こう何と言うか・・・機動六課の人達と食事に行くという事があんまりなかったんで・・・獲った賞金をその為にパーツと使いたいなと思います」

Q・機動六課での仕事とこのゲームとどちらが緊張する？

はやて「それはもう比べるも無いでしょう・・・こっちの方が何倍も緊張しますよ」

Q・それは何故？

はやて「初めてって言うのもあるんですけど・・・追われる事に慣れてないんで・・・ハンターも兵つわものですからね・・・おまけに、こんな派手な色の服を着るといふ事も、バリアジャケットに身を包む時ぐらいですから・・・普段からこつという服着てる訳じゃないんで・・・やっぱり緊張しますよ」

Q・最後に意気込みを一言

はやて「えゝつと・・・逃げられる様に頑張りたいと思います！応援宜しくお願いします！」

スバル・ナカジマ

Q・今の気持ちを率直に言うつ？

スバル「楽しみです」

Q・今回、目標を持ってきたと聞いたが？

スバル「そうなんですよ・・・前回逃げ切った夏木りんって子いたじゃないですか・・・？あの子みたいにミッション全部参加して、ハンターからも逃げて・・・最終的に逃走成功を果たしたいと思う

てるんですよ」

Q・夏木りん狙いで？

スバル「そうですね・・・あたしもあの子も、結構男っぽいんでね・
・あの子みたいに行ければなと思ってます」

美々野くるみ

Q・現在の心境は？

くるみ「兎に角眠い」

Q・前回出て、何か反省点を見つけた？

くるみ「まあ・・・前は、結構酷い事を口々に言ってしまったな
と思ってるんで・・・私自身客観的に見て、これは行き過ぎた言動
でしょって感じたから・・・今回は、やっぱり軽率な行為は慎もう
と思うてる」

Q・目標金額は？

くるみ「当然108万円でしょ・・・それで・・・のぞみとかに、
罪滅ぼしじゃないけど・・・それに近い何かで奉仕してあげようか
など」

ティアナ・ランスター

Q・作戦は考えている？

ティアナ「作戦ですか・・・？兎に角、あたし人間不信なんで・・・人とあまり接しない様にしようと思います・・・ハンター然り^{しか}逃走者然り^{しか}・・・」

Q・ミッションには参加しないという事？

ティアナ「全くその通りです・・・ミッションに関しては、やる人は勝手にやってと・・・その代わり、ちゃんと成功してよっていう感じです・・・兎に角、誰かに託します・・・自分からは、何が何でも絶対行きません・・・！数人でやらなきゃいけないものだったら尚更です」

Q・自首はする？

ティアナ「どうでしょうかね・・・するかもしれないし、しないかもしれません・・・どっちかと言われたら・・・しません・・・一応最後まで逃げ切るつもりではいるんで」

アミティ

Q・逃げ切る自信はある？

アミティ「無いって言ったら嘘になっちゃうでしょ・・・？自信は大いにあります」

Q・逃げ切る為に何が必要だと思ってる？

アミティ「1つしか無いですよ・・・運です・・・！足が速い事も大事かもしれませんが、そんな人でもハンターと鉢合わせになったら絶対勝てませんから・・・ハンターとの距離を十分に取って、尚且つ向こうよりも早く気付く・・・これに尽きると思います」

Q・意気込みを一言

アミティ「えつと・・・新世代のぶよぶよの主人公として、このゲームは絶対に負けられないものです！頑張って逃げ切りたいと思います！お願いします！」

ワリオ

Q・作戦はある？

ワリオ「そうだな・・・俺様は兎に角足が遅いから・・・物陰に隠れてやり過ごしながら逃げようと思ってる」

Q・ミッションへは行くつもり？

ワリオ「それも微妙だな・・・基本的には行かん・・・でも、金が絡んでる様な・・・例えば、単価が増えるだとか・・・逆にリセットされるとか・・・そういうものはやろうと思う・・・やっぱ、金が1秒ごとに増えていくのがこのゲームの醍醐味な訳だから、それがパーになるのは・・・俺様の許せない」

Q・目標金額と使い道は？

ワリオ「とりあえず108万円を目標にはしているが・・・50万円辺りで自首するかも分からん・・・使い道としては・・・ゲームの開発とか・・・宝探しの旅費にしようと考えてる」

東 せつな

Q・目標金額と使い道は？

せつな「目標は勿論最後まで・・・108万円を目指して逃げたいです・・・使い道としては・・・今回出れなかったラブ達とショッピングに行く為に使おうと思ってます」

Q・今回はどう動くつもり？

せつな「前回は何もしないまま確保されて終わったんで・・・今回はミッションに積極的に行こうと思います・・・前回の結果から見ても、ミッションに積極的な人が長い時間残っていたんで・・・あの・・・前回逃げ切ったりんとか・・・のぞみやブッキーも・・・なので、彼女達みたいにミッションから身を引くという事は絶対しません・・・！」

Q・意気込みがあれば何か一言

せつな「え・・・前回の反省を生かして逃げ切りたいと思います！」

トゥーンリンク

Q・今の気持ちは？

トゥーン「緊張しますし・・・深夜という事もあって眠いです」

Q・前回の反省点は見つけた？

トゥーン「そうですね・・・やっぱり、この前はビビり過ぎて思う様に動いていませんでしたからね・・・だから、今回はその反省を生かして、今回は大胆に動こうと思いますね」

Q・何か作戦はある？

トゥーン「ミッションには、近かつたら行く感じでいて・・・基本的にはハンターが探さないとされる所を探して、そこに隠れようと思います」

ラフィーナ

Q・目標金額は？

ラフィーナ「当然108万円でしょ・・・自首は絶対有り得ないわ」

Q・逃げ切る自信があるという事？

ラフィーナ「当然よ・・・体力の面では自信あるし・・・逃げ切らなきゃ嘘になる」

Q・意気込みを一言

ラフィーナ「絶対に勝つ！」

シグ

Q・逃げ切る自信は？

シグ「ハッキリ言っただけいい・・・」

Q・ならどうする？

シグ「いい金額になったら自首する・・・」

Q・目標金額は？

シグ「どうしようかな・・・50万円あれば十分かな・・・？でもボク、そんな大金手にした事無いからよく分かんない・・・」

Q・意気込みがあれば何か一言

シグ「とりあえず頑張る・・・」

未公開シーン？ 準備中（後書き）

次回は下見中

逃走者達は、その時何を見ていたのか・・・？

未公開シーン？ 下見中（前書き）

激動の時を迎える夜の遊園地・・・戦いを前に何処を彷徨う・・・？

未公開シーン？ 下見中

コーヒーカップ付近にいるドラコケンタウロス。

ドラコ「皆楽しそう・・・！深夜でも遊びに来る人っているんだね
く・・・さてと・・・今はコーヒーカップか・・・見晴らしが多い
所が多いな、この遊園地・・・見つかったら速攻で捕まるじゃん・
・・・！ええ・・・？況して、30人もこの中にいるとなると、余
計ハンターに見つかりやすいでしょ・・・？」

愚痴を零しながらエリアを見て回る彼女の近くにいたのは・・・

ドラコ「あつ・・・ウィッチだ・・・」

見習い魔法使い・ウィッチだ・・・

ドラコ「ウィッチ・・・」

ウィッチ「あら？ドラコじゃない・・・」

ドラコ「この遊園地さ、隠れる所少くない・・・？」

ウィッチ「確かに・・・完全に走り逃げ切つてと言わんばかりの
最悪のコンディションですわ・・・」

ドラコ「まあね・・・迂闊^{うかつ}にミッションとかに行けないよね・・・」

ウィッチ「私は別にミッションにはあまり手を付けない方向なんで、
そこは関係無いけれど・・・」

ドラコ「そうなんだ・・・でも、固まってるのもつと危険だね・・・？」

ウィッチ「自分から寄ってきて、そんな事は言わないというのが筋ではなくて・・・？」

ドラコ「・・・！と、兎に角いろいろと難しいと思うからさ、じっくり考えなよ」

ウィッチ「ドラコも例外では無いですわよ」

ドラコ「分かってるって・・・」

エリアの西側を下見しているピット。

ピット「いや、今回ばかりは1番に捕まらなくて良かったよ・・・」

前回参戦した際、記念すべき(?) 1人目の確保者となってしまったピット。現在、逃走記録を更新中だ。

ピット「人混みに紛れてハンターの目を掻い潜るのも手かな・・・上手くいく保証は無いけど・・・まあ、こんな賑やかな所だからまだ良かった感じだね・・・これが誰もいない、もつと言えば廃墟の場所だったら、ハンターよりも怖いものと格闘しなきゃならなかった訳だからね・・・それはやっぱり、想像するだけでも誰もやりたくないよ・・・」

リデル「怖い・・・ホントに怖い・・・」

恐怖に怯えて、殆ど身動きが取れていないリデル。下見は大丈夫なのだろうか。

リデル「あの・・・ハンターという者の存在自体が・・・もう怖くて・・・とてもじゃないですけど・・・誰かと会って話したり・・・エリアの様子を見に行ったりする・・・余裕というか・・・度胸なんて・・・わ・・・私にはありません・・・こんな怖いものが・・・世の中に存在するなんて・・・夢にも思いませんでした・・・」

恐怖に駆られ、下見どころではない様だ・・・

隠れ場所を探しているフェイト。

フェイト「何処かいいい所無いかな？・・・？今回の逃走中はね・・・人数が多い反面、それに相応しい広さじゃないんだよね・・・すぐに誰かと会いそうだもん・・・ほら、もう目の前にだれがいるし・・・」

フェイトが見つけた人影・・・

リュカ「前回も確か夜中の逃走中だった様な気が・・・」

リュカだ・・・彼は深夜というトラウマを前回植えつけられ、かなりビビっている様だ。

リュカ「あれ・・・？あれ誰だ・・・？あの長い金髪の長身の人・・・」

フェイト「あれリュカじゃない・・・？やっぱりそうだ・・・！」

リュカ「フェイトさんっぽい・・・」

2人は手を挙げて合図をし、顔を合わせた。

リュカ「怖くないですか、このゲーム・・・？」

フェイト「まあ、怖いっちゃ怖いよ・・・」

リュカ「ボクもう滅茶苦茶怖くて・・・ハッキリ言ってちびりそうなんですよ・・・」

フェイト「でも、リュカは1回出てるんでしょ・・・？」

リュカ「そうなんですけど・・・ボクにとってこの怖さはね、何回やっても克服出来ませんよ・・・」

フェイト「ああそう・・・」

地図を見て、何やら首を傾げているひかり。

ひかり「この先にあるエリア・・・地図ではちゃんとエリアの一部ってなってるのに・・・立ち入り禁止の看板が掛けてあるよ・・・電気も消えてるし・・・ホントに入れないの・・・？」

どうやら彼女は、地図に表記されている封鎖エリアの近くにいた様子だ。

ひかり「どうしたら入れるようになるのかな・・・？まあ、それは追いついて分かってくる筈だね・・・うわ、皆楽しそう・・・！

コーヒーカップにメリーゴーランドにフリーフォールにジェットコースター・・・何処行っても、長蛇の列だもん・・・！すごい繁盛してるんだろぅね、この遊園地・・・！私も逃走中終わったら遊んでみようかな・・・？」

地図を頼りに下見をするクルーク。

クルーク「どうしようかな・・・？最初の内は、何処かのアトラクションの陰に隠れて・・・それでもやっぱり、電話ボックスに近い所に隠れよう・・・」

既に自首狙いのクルーク。彼の目標金額は・・・

クルーク「20万円くらい行ったら・・・結構逃げた方でしょう・・・？33分20秒で20万円・・・30分以上何もなくても20万円手に入れるんだからさ・・・こない金稼ぎって無いよ・・・？欲は掻かずに、20万円突破したら何が何でも自首して賞金獲る・・・！これが逃走中での最善策でしょ・・・！」

未公開シーン？ 下見中（後書き）

次回は投票中

人を切り捨てる時、彼等は何を呟いたのか・・・？

未公開シーン？ 投票中（前書き）

運命に己を賭ける逃走者達・・・

未公開シーン？ 投票中

逃走者に届いた最初のメール。それは・・・

ウィッチ「『逃走者諸君、実は現在1人定員オーバーだ』・・・えっ？」

エリオ「定員オーバー・・・？えっと・・・『君達の多数決により』・・・」

ワリオ「『君達の多数決により、脱落させる1人の逃走者を決めてほしい』・・・」

くるみ「『残り175分までに、誰かの名前を記入しメールで送信せよ！』・・・」

クルーク「『送らなかった者は強制失格となる。急ぎたまえ！』・・・」

残り175分までに、脱落させてもいいと思う者を投票しろというものだった。

果たして彼等は、誰にどんな根拠で票を入れたのか・・・

マリオ「足遅い奴の方がいいだろ・・・？いろいろミッションとかある訳だから、逃走中っていうのは・・・足遅かったら、そいつものすごい邪魔なだけだし・・・生き残ってる人の中で足手纏いにな

りそうなのは・・・やっぱりワリオだな・・・あいつ足遅い癖に、逃走中を嘗^なめてるしな・・・ハンターに見つからなきゃいいんだろみたいな事口走ってたからな・・・あの言葉は、ハッキリ言^{しゃく}って癪^{しゃく}に障る・・・！ワリオは邪魔・・・！お前が消える・・・！」

マリオはワリオに投票した。

リデル「自首するかもしれないと・・・言^いつてた人に・・・しようかな・・・？誰だっけ・・・？自首する^て言^いつてた人・・・シグさんとか・・・クルークさんとか・・・でも・・・私の中で1番いなくてもいいのは・・・シェゾさんかな・・・？あの人・・・偶^{たま}に意味分らない所があるし・・・あの人の行動が・・・ゲームでいる^らいと迷惑掛かりそう・・・シェゾさん、ゴメンなさい・・・ここは潔^{いさめ}く散^ちつて下さい・・・！」

リデルはシェゾに1票を投じた。

くるみ「脱落させてもいい人・・・そんなの偽善者^{ゼロワン}01以外に誰がいるのよ・・・？高町なのは・・・あの人、30人の中で1番いい人ぶ^ぶつてるでしょ・・・あんな人がこのゲームに・・・況^ましてや、この世の中に生きてる事自体が間違^{まちが}ってる・・・！あんな人となんか、私は口も利きたくないし目も合わし^あたくないし同じ空気を吸^あい^いたくない・・・！兎に角なのはに・・・！偽善者はさっさと死ねばいいのよ・・・！」

くるみは恨みを込めてなのはに票を入れた。

はやて「酷い話やな．．．こんな人を売る様な事せなアカンて．．
・でも、やらんかったら強制失格やろ．．．？やりたないけど．．
しゃあないわな．．．とりあえずマリオ君に．．．！彼は任天堂の
ヒーローやけど、いつでも英雄は英雄でいられるとは限らへんから
な．．．そう上手い事行かへんって事を教えたろ．．．！そういう
ある意味での制裁も、彼には必要やからな．．．マリオ君と．．
！」

はやてはマリオに投票。

レッド「ここは．．．お前．．．！ラフィーナ．．．！俺金持ちの
ボンボンとかお嬢様^{さげす}って、ハッキリ言って生理的に嫌いなんだよ．
・！人の事いつも蔑^{さげす}んでる感じがしてさ．．．斜に構えてるって雰
囲気があるしさ．．．身の程知らずもいい所だよ．．．！大体、何
であんな奴が逃走中なんかに出てくるんだよ．．．？金いっぱいあ
るだろって話だよ．．．！あいつは逃走中にはいない存在だ．．
！ラフィーナに投票．．．送信．．．！」

レッドはラフィーナを脱落者を選んだ。

ワリオ「こんなの迷うまでもねえよ．．．お前だ．．．！マリオ．
・！あいつは、いつも人の手柄を横取りする事があるからな．．
そのせいでルイージとかピーチとかヨッシーとかドンキーとか．．

何処行つてもメチャクチャ可哀想な扱いにされてるじゃねえか・・・
！俺様もある意味被害者だしな・・・目立ちたがり屋も度が過ぎれば迷惑なだけなんだよ・・・！あいつに活躍たまされたら堪ったもんじやねえ・・・！マリオに1票・・・」

ワリオは相打ちという形でマリオに1票。

エリオ「こんな事やらすの、逃走中つて・・・？これは精神的にきついな・・・誰かに入れなきゃいけないでしょ・・・？そうだな・・・レッドって人かな・・・？ポケモンだっけ・・・？あんなのに頼つてたらダメだよ・・・！そう言う事もあるから、絶対ミツシヨンとか他人任せにしそうだもん・・・そんな人いらないでしょ・・・？必要悪かもしれないけど、ボクはそれは許さない・・・！レッドさん・・・送信・・・！」

エリオはレッドを脱落させようとする。

リユカ「これ送った後、その人からいろいろ言われないかな・・・？それが怖いんだけど・・・それが無いんだったら、思い切つて投票する・・・！くるみ・・・！前回の立ち回り、いくらなんでも酷過ぎるでしょ・・・？見ていた側として、ハッキリ言つてドン引きだったよ・・・！今回もミツシヨン成功者を偽善者とか言つて罵ののしつたら、もう皆からの信頼を失うつて・・・！信頼を失われる前に手を引くのが賢明だよ・・・！くるみ・・・送信つと・・・！」

リユカはくるみを脱落者に。

キャラ「誰かに絶対入れなきゃいけないって事・・・？嫌だな・・・
・自分が脱落するかもしれないでしょ・・・？どうしよう・・・
？誰にしよう・・・？あのシグって人・・・よく分かんないけど、
危険な臭いがするんだよね・・・あののほほんとしたマイペースぶ
りが・・・何か裏がある感じがしてすごく怖い・・・人を巻き添え
にしようだとか考えてそうで・・・なんか嫌な雰囲気が漂ってた・・・
・シグさん・・・！送信・・・！OK・・・送信完了・・・！」

キャラはシグに投じた。

ゆり「誰かに投票して脱落させる・・・変なメールね・・・こんな
事をやらせるって・・・そんな事はどうでもいいわね・・・誰かに・・・
・レッドかしら・・・？お金に執着してる感じの言動が彼から見
られたし・・・金に目の無い人って絶対後で痛い目に遭うって誰か
が言ってたし・・・ゲームの趣旨が分かってない感じもするし・・・
ここは一先ずレッドに投票しておきましょう・・・送信・・・！送
信完了・・・！時間大丈夫よね・・・？残り175分までだから・・・
」

ゆりはレッドを脱落者に選んで投票した。

フェーリ「不可解なメールね・・・おまけに不愉快だわ・・・！前
代未聞の通達よ・・・人を脱落させるだなんて・・・それも強制的

にやらせようとしてるから・・・まあ、さつさと捕まってほしい人がいたからこれはチャンスだけど・・・クルークなんて、もう自首する気満々だったでしょ・・・？あれはね、絶対言ったらいけない事・・・！逃げ切れないと思った時にやるもんなんだから、自首は・・・！クルーク・・・！脱落して報いを受けなさい・・・！」

フェーリはクルークに入れた。

未公開シーン？ 投票中（後書き）

次回は反省中

ハンターに確保された後、彼等はどんな嘆きコメントを発したのか・
・・？

そう言えば、昨日沖縄編のDVDを買って早速見ました。
やっぱり面白いです！

未公開シーンにも、『招待中』というのがありました。

しかし、ドラマ完全版の映像の最後のシーン・・・すごく意味深長なものでした。

あれが何を意味するのか・・・

未公開シーン？ 反省中（前書き）

ハンターに捕らわれた哀れな逃走者達・・・

未公開シーン？ 反省中

オープニングゲームでハズレを引き、すぐに確保されたレムレス

レムレス「絶対マゼンタは有り得ないと思ってたのに・・・クリア
目前で、ボク何て事をしてしまったんだ・・・まだ何にもしてない
よ・・・？ハンターとの距離が無さ過ぎて・・・逃げる間もなく捕
まった・・・いくらなんでも酷すぎやしないか・・・？こんな惨め
な思いした事、今まで無かったよ・・・？皆は楽しそうに遊園地の
アトラクションのイルミネーションを見ながら、ゲームを楽しんで
るというのに・・・ボクはそんな事をするまでも無く・・・真っ先
に牢獄行きだなんて・・・やっぱりくじ運悪過ぎるな・・・順番
が微妙な上にハズレ引いて捕まって・・・」

裏切り者による最初の犠牲者となったりデル

リデル「ハンター速いよ・・・あんなに速いの・・・？ずっと
隠れてたつもりなのに・・・何で・・・？あっ・・・メール・・・
私の事・・・へっ・・・？『裏切り者の通報により』・・・？う・・・
・裏切り者・・・？私・・・裏切り者に見つかって捕まったの・・・
？ええ・・・？裏切り者誰・・・？さっき見た赤い被り物をし
た人・・・？アミティさんだったら信じられないし・・・マリオさ
んだったとしても・・・考えたくない・・・」

暗闇の開放エリアで確保されたフェイト・T・ハラオウン

フエイト「あゝ．．．全然逃げれてない．．．まさか私、六課メンバーでの最初の確保者．．．？嘘．．．ライトニング分隊長が聞いて呆れる．．．だって、たった１７分しか逃げてないじゃん．．．こんな事あったら、はやてに何て言われるか．．．もう．．．面目無さ過ぎ．．．ミッションやろうと思って電源盤のレバー上げたら、何にも変化起こなくて．．．しどろもどろになってるところをハンターに見つかって捕まって．．．私ってホント最悪．．．発光ベストとか無しにしてほしかったよ．．．そうすれば闇に紛れて、上手い事出来てたかもしれないのに．．．」

自首を目論んだ直後に確保されたクルーク

クルーク「あんなの反則だよ．．．曲がり角からスツと出てくるの．．．神出鬼没もいいところだよ．．．！もう．．．折角いい額になって、自首しようとした矢先に．．．何でハンターが目の前に現れるのかね．．．？ハンター聞いてたでしょ、ボクが自首しようって言ってたの．．．あんな．．．あんな絶妙なタイミングで、出会い頭になる訳無いじゃん．．．ああ．．．２３万円がパーだよ．．．こんな事になるんだったら、最初から電話ボックスの前にいたら良かったな．．．それでいい額になっただけに駆け込んで、自首を申告出来た訳だし．．．」

裏切り者に通報されて確保されたラフィーナ

ラフィーナ「何で．．．？転ぶなんてホントに最悪．．．こんな

早くに捕まるなんて・・・ホントに屈辱以外の何物でもないわよ・・・！まだ1時間も経ってないじゃないの・・・酷過ぎる・・・この結果はホントに酷過ぎるわ・・・！考えたくもなかった、こんな事になるなんて・・・大体2体で1人を追って来るとか・・・絶対振り切らせないっていう思惑がバレバレじゃない・・・！メールだわ・・・『裏切り者の通報により、ラフィーナ確保』・・・？裏切り者・・・！？あたし見られてたの、裏切り者に・・・裏切り者絶対許さない・・・！」

電話ボックスの前で確保されたシグ

シグ「ハンターが電話ボックスの陰から出てきた・・・自首目前で捕まった・・・悔しい・・・30万円が目の前から飛んでった・・・行きたくないな、牢獄・・・想像するだけで哀れ過ぎるもん、牢獄にいる姿なんて・・・虫さんでも探しながら行こうと・・・」

賞金リセット装置を目指していた矢先に捕まったトゥーンリンク

トゥーン「前回もこんな捕まり方じゃなかった、ボク・・・？ミッシヨンやる為に、目的地まで戻っている最中に見つかって、拳句の果てに確保されるって・・・何だか知れないけど・・・ボクってミッシヨンから・・・というか、逃走中からかなり見放されてるよね・・・？こんな終わり方を2回連続でするなんてさ・・・多分今まで無かったんじゃない・・・？もうガツカリの言葉しか見つからないよ・・・はあ・・・」

裏切り者に通報されて確保されたワリオ

ワリオ「くそ．．．！１００分以上逃げて、今回は案外行けるんじゃないかって思ってたが．．．やはりダメだったか．．．俺様が走っても、ハンターには止まってる様にしか見えないんだろぅな．．．全然疲れてる感じしねえもんな、ハンター．．．俺様の必死さが全然伝わんねえよ、こんな終わり方．．．前回然り今回然り．．．今度出る機会があつても、俺様は出しゃばつてミッションとかやらない方がいいかもな．．．それで走らない方がいいな．．．」

新エリアにて裏切り者に通報された高町なのは

なのは「あの足の速さ．．．人間じゃないでしょ．．．？人間があるなスピード何か出せる訳無いじゃん．．．！速過ぎる．．．ちょっと待って．．．スバルとかティアナとかは、まだ残ってるんですよ．．．？フェイトちゃんに続いて、スターズ分隊長として部下に負ける私って．．．絶対はやてちゃんから、『２人とも何してんねん』みたい事言われるよ．．．ああもう．．．下剋上にも程があるよ．．．これどうすんの．．．？もう絶対逃走中の参加依頼来なくなつちやうよね、こんな不甲斐無い結果出してたら．．．機動六課の皆に合わせる顔が無いよ．．．」

図作戦に嵌り確保された裏切り者・マリオ

マリオ「140万円がー！ボクが苦勞して稼いだ140万円がー！一瞬で0円かよー！？こんな事あっていいのかよー！？酷過ぎる結果だな、ホントに・・・何で通報された奴に追い抜かれて捕まんなきゃなんないんだよ・・・大体ボクの方に逃げてくるなって話だよ・・・！あいつさえ・・・響が余計な事しなきゃ・・・もう1度200万円の夢を見れたっていうのに・・・ちくしょう・・・！マジで悔しい・・・！」

初めてのミッションに参加している最中に捕まったティアナ・ランスター

ティアナ「何でミッションやろうとすると、ハンターが来るのかね・・・？もうさ・・・こういう事があるから、あたしミッションなんてやりたくなかったんだよ・・・！ちょっといい人ぶろうと思ったらこれだもん・・・！やっぱり他人任せにするべきだったな・・・勝手にやらせておけば、勝手にクリアしてくれるもん・・・今までだってそうだった訳だし・・・自分に言い聞かせる意味でも、これは言っておこう・・・ミッションやる人は、ウルトラ級のバカよ・・・！はあ・・・」

残り3分半で確保されたアルル・ナジャ

アルル「3分半って・・・ホントに目と鼻の先じゃん、ゴールが・・・うわ、こんな時に捕まったの、ボク・・・？こんな惜しい所まで来ての確保・・・悔しいの言葉じゃ済まされないよ・・・ええ・・・」

・・・・元祖ぶよよの主人公の意地を見せて逃げ切ろうと思つてたのに・・・それがあと3分半で潰^{つぶ}えるつて・・・もう最悪だよ・・・次回があるんだつたら、もう1回出たいよ・・・それで、今度こそ逃げ切りたい・・・！やつぱりこういうゲームは、最後まで生き残らないと嘘になつちゃうからな・・・」

残り17秒で捕まつた最後の逃走者・北条 響

響「マジかよ・・・！ハンターが目の前に現れて・・・あたしでも振り切れなかつた・・・こんなあと1歩の所で終わるなんて、今まで味わつた事の無い悔しさだよ・・・！マジで悔しい・・・！さつきのメールで、残つてるのあたしだけつて書いてあつたからさ・・・もう全滅つて事・・・？こんな事あつていいの、全滅とか・・・？ちよつと待つてよ・・・もう皆呼ばれなくなるじゃん、こんな不甲斐無い結果見せちゃつてさ・・・リベンジ出来るんだつたらリベンジしたいよ・・・！こんな思いで納得出来る訳無いもん・・・！兎に角マジで悔しい・・・！」

未公開シーン？ 反省中（後書き）

次回は牢獄中

牢獄内で、敗者達は何を語ったのか・・・？

未公開シーン？ 牢獄中（前書き）

戦いに敗れた逃走者達・・・

未公開シーン？ 牢獄中

牢獄内にレムレス・リデル・リュカがいる。

リュカ「今いくらだろう・・・？うわっ、もうすぐで10万円行くよ・・・」

リデル「もう10万円ですか・・・」

レムレス「1秒ごとに増える賞金の重みがすごいよね、このゲームって・・・だって時給にして36万円でしょ？」

リデル「そうですね・・・」

リュカ「普通無いですもんね、1秒で100円増えるなんて・・・普通だったら1秒で1円にも満たない訳ですから・・・」

レムレス「でも、もうボク達にはそのお金を得る権利もないんだよね・・・」

リュカ「捕まりましたからね・・・」

リデル「これから160分・・・この檻の中で・・・私達、何をしたらいいんですか・・・？」

リュカ「牢獄では何も出来ないよ・・・ゲームが終わるのをただじっと待つてるしかないよ・・・」

レムレス「ぶよぶよみたいなゲームがあれば、3人でも出来るんだ

けどね・・・それも無いし・・・」

リデル「雑談・・・ぐらいですよね・・・？」

レムレス「そうだね・・・」

リユカ「レムレスさんは関係無い話だけど・・・リデル、さっき投票あったでしょ？」

リデル「は・・・はい・・・」

リユカ「あれ誰に入れた？」

リデル「私は・・・シェゾさんに入れたんですよ・・・でも捕まった時に、赤い被り物をした人が近くに見えたんですよ・・・なので・・・恐らくその人が裏切り者なんじゃないかなと・・・」

レムレス「赤い被り物ね・・・アミティかマリオかって事かな・・・？」

リデル「リユカさんは誰に入れたんですか・・・？」

リユカ「ボク？ボクはくるみに入れた・・・でも捕まる直前に、トウーンと一緒にミッションやりに行こうとしてたんだよ・・・その時にハンターに來られて捕まったんだよ・・・だからトウーンが裏切り者なんじゃないかなって思うんだよ・・・」

レムレス「そのトウーンって子は、通報する素振りを見せてたの？」

リユカ「いやいやいや・・・裏切り者は^{ちみつ}緻密に事を進める筈ですよ・

・そんな大胆な事は絶対しないです・・・」

リデル「でも、トゥーンさんも逃げてたんですね・・・？」

リユカ「そりやそうでしょ？裏切り者だって、捕まったら賞金没収されるんだから・・・」

それから暫くして、フェイトが入獄してきた。彼女は入獄するや否や、牢獄の壁に凭れ掛かる。

フェイト「もう情けな過ぎる・・・」

レムレス「ガツカリし過ぎだよ・・・」

リデル「そ・・・そうですよ・・・そんなに落ち込まなくたって・・・」

フェイト「だってさ・・・ライトニング分隊の隊長が、従えてる部下に負けるってさ・・・こんな屈辱無いよ・・・？況して、20分も逃げれてないなんて・・・もうさ・・・なのは達に顔合わせられないし・・・このゲームに送り出してくれた機動六課の人達の顔に泥塗ったって気がしてしょうがないもん・・・」

リユカ「でも、裏切り者に通報されてないだけいいじゃないですか・・・？」

リデル「そうですよ・・・私達なんて通報された身なんですから・・・」

フェイト「でもやっぱり悔しいよ、ゲーム序盤で排除されるなんて」

・・
」

レムレス「そりや悔しいよ．．．ボクなんて、たった14秒だよ．．．？ たった14秒走っただけで、もうゲームリタイアだよ．．．？
こんなに早く捕まるとは思わなかったもん．．．」

リュカ「皆逃げ切ろうって思ってますからね、絶対．．．」

リデル「あの．．．フェイトさんは、あの投票で．．．誰に票を入れたんですか．．．？」

フェイト「私．．．？ 私は確か．．．ワリオって人．．．」

リュカ「ワリオか．．．あの人は確かに金にがめついところがあるし．．．裏切り者としての人格にぴったりだもんね．．．」

フェイト「皆は誰に入れたの．．．？」

リデル「私はシェゾさんです．．．」

リュカ「ボクはくるみに入れました．．．」

フェイト「あ．．．皆裏切り者になり得そうな人だね．．．」

レムレス「そうだね．．．性格的にというか、人間的にも有り得そうだもんね．．．」

フェイト「はあ．．．」

リュカ「もう落ち込み過ぎですって．．．！溜め息ばかり吐かな

いで下さいよ・・・!」

フェイト「もう私、機動六課辞めようかな・・・? 恥ずかしいもん・
・」

リデル「えっ・・・? こんな事で辞めたら・・・薄っぺらい人間だ
と思われますよ・・・?」

レムレス「そうだよ・・・どんな結果であつても、終わったたら胸張
つて帰ればいいじゃないか・・・」

リユカ「こんな弱腰になつてるフェイトさんなんて、ボク達見たく
ないですよ・・・」

その後ゆりとレッドが入獄し、更にミッション?のメールが届いた。
レムレス「ミッション2だ・・・」エリア内に30個のハンターボ
ックスを設置した」・・・」

レッド「30個・・・!?!? いくらなんでも多過ぎやしねえか・・・
!?!?」

レムレス「『残り130分になると、それぞれのボックスの扉が開
き、ハンターが放出される』・・・」

メールを読み終わった後、牢獄内の反応は・・・

ゆり「30体は多過ぎるでしょ・・・?」

フェイト「これ、止めに行かない人いないでしょ・・・? だって3

0体だよ・・・?」

リユカ「いや、ワリオはやらないよ・・・だってワリオ・・・ミッシオンやる派の人間じゃないもん・・・」

レッド「それだったら、くるみもやらないんじゃない? あいつずっと隠れ続けて、ミッシオンやる人の事偽善者だって言ってるんだろ、どうせ・・・」

リデル「でも・・・そうになると、ティアナさんもやらないんじゃないですか・・・?」

フェイト「えっ・・・?」

レムレス「そんな筈無いでしょ・・・?」

ゆり「そうよ・・・ティアナは正義感強い・・・」

リデル「私・・・ゲーム始まる前に、ティアナさんと話してたんですよ・・・そしたらあの人・・・『ミッシオンやるとかバカじゃないの?』みたいな事を言ってたんですよ・・・」

リデル以外「ええっ!?!」

リデルからの驚愕の証言に、驚きを隠せない牢獄者。

フェイト「あのティアナが・・・!?!」

ゆり「ミッシオン参加者を侮辱するなんて・・・!」

レッド「しかも今の台詞・・・くるみ以上に酷えじゃねえか・・・」

リデル「私も吃驚しましたよ・・・でも、何でもあの人・・・人間不信だと言っていました・・・」

リュカ「人間不信だか何だか知らないけど・・・その言い方は無いでしょ・・・！」

レムレス「『偽善者』は単なる妬みだから無視出来るけど・・・『バカ』って・・・！」

レッド「幻滅した・・・！機動六課の連中にそんな事平気で言う奴がいたなんて・・・」

リュカ「組織としてあるまじき言葉ですよ・・・！これまでいろんなミッションに耐え抜いて、ずっと頑張ってきておきながら、まるでそれを全否定したかの様な・・・」

ゆり「フェイト・・・そのティアナって人、解雇してもいいわよ・・・」

リデル「そうですね・・・！人間としての心情を疑う発言ですよ・・・！辞めさせるべきです・・・！」

フェイト「でも・・・本当に心からそう思ってるのかな・・・？」

レッド「思ってたかったら、平然と『ミッションやる奴はバカ』なんて言える訳無えだろ・・・！？」

フエイト「多分ティアナは、自分に対する戒めとして・・・自分に
対してそう言ったんだと思うの・・・！」

リユカ「そんな訳無いでしょ・・・！？」

リデル「自分に対して言っただとしても・・・何で他の人まで巻き添
えにする様な言葉なんですか・・・？」

ゆり「自分は必要悪だと言わんばかりの発言としか捉えようが無い
わ・・・！」

フエイト「それは分かってる・・・でもやっぱり、真相は本人じゃ
なきゃ分からないと思うの・・・だから、もし彼女が牢獄に来たら、
その時に追及した方が・・・」

レッド「まあ、それもそうだな・・・ただその時には、みっちり油
を絞ってやらないとな・・・！」

ゆり「それで本当に『ミッションやる人はバカ』っていう信念を持
っていたのなら、今度こそ絶対に解雇するのよ、フエイト・・・！」

フエイト「・・・」

暫くして、エリオ・クルーク・アミティの3人が入獄。その時、メ
ールが・・・

レムレス「メール来た・・・！」

アミティ「何・・・？」

レムレス「また確保情報だ・・・！」

エリオ「やつぱり多いな、確保が・・・」

レムレス「『裏切り者の通報により、北エリアの観覧車付近にて、南野 奏確保』・・・！」

クルーク「また裏切り者じゃん・・・！これで何人目・・・？」

リデル「確か7人目です、これで・・・」

リュカ「7人・・・！？という事は・・・もう97万円だよ、裏切り者の獲得賞金・・・！」

アミテイ「ええゝ！？」

エリオ「じゃあ、あと少ししたら・・・本来の満額に手が届くって事じゃん・・・！」

レッド「あと1人通報したら、もう108万円だよ・・・！」

クルーク「誰だよ、裏切り者・・・！？」

それから少し経ち、再びメールが・・・

レムレス「またメールだ・・・！」

リュカ「もうメールが確保情報にしか思えなくなるよ、こんな流れだ・・・」

レムレス「『裏切り者の通報により、巨大観覧車付近にて、ラフィーナ確保』……！」

レムレス以外「うわぁ〜！」

エリオ「とうとう108万円超えちゃったよ！」

クルーク「これ絶対自首してくるんじゃない？」

フェイト「いや……多分、まだ物足りないと思って通報し続けると思う……！」

ゆり「200万円になるまでやり続けるんじゃないかしら……？
若しかしたら……」

リデル「もう……その人の気が知れませんよ……！」

アミティ「一体何の目的でそんなに人を通報するの！？もう意味が
分かんないよ！」

ゆり「目的は分かるじゃない……復讐よ」

アミティ「ふ……復讐……ですか……？」

レッド「そうだな……本来だったら脱落させられそうになった
訳だから、復讐鬼みたいになって命を奪いに来てるよな、完全に……
もう言葉通りに、鬼の形相でエリアを彷徨さまよってるよ、絶対に……

「

リユカ「鬼の様な形相って……想像しただけで怖いよ……」

そしてゲームは進行し、舞台は新エリアの天空のガーデンへと移った。それから暫く経った頃、新たにメールが・・・

レムレス「メールだよ・・・」

フェーリ「また確保情報・・・？」

シェゾ「もう聞き飽きるぜ、この着信音・・・」

レムレス「あつ・・・！『高町なのは確保』だって・・・！」

キャロ「ええゝ！？」

フェイト「なのはも私と同じ境遇！？」

レムレス「しかも裏切り者だって・・・！」

フェイト「嘘ゝ！？私よりも酷い事になってる！」

せつな「というか、新エリアになってから5分も経ってないですよ！？」

ドラコ「早っ！」

ウィッチ「ホントにダメだこりやですわ！」

ワリオ「しかし、マリオの奴酷いよな！？こんな事してまで逃げ切りたいのかって言ってやりてえよ！」

はやてから既にマリオが裏切り者である事を知らされている牢獄者達。

ワリオ「まあ、脱落させようとした俺様にも落ち度があったのは事実だがな・・・」

トウーン「こういう形で裏切り者の発生ってさ、ゲームの主催者側の腹黒さが出てるよね・・・特定の人が非難出来ない様なシステムにしようって目論見がある感じがして・・・」

シグ「立候補制だったら、まだ納得出来るところもあるしね・・・」

ラフィーナ「どのみち裏切り者は最低って事に変わりはないわ！通報された身として言わしてもらうけど、逃げ切る事は絶対に認めないわ！」

レッド「確かにな・・・早く捕まれてなもんだよ！」

そして、牢獄者待望の時間が訪れた。

レムレス「来たよ、裏切り者」

牢獄前に、元脱落者であり元裏切り者でもあるマリオが項垂れながら姿を現した。
うなだ

マリオ「くそ・・・ホントに悔しい・・・」

シエゾ「お前最低だな・・・！」

ドラコ「情け容赦無く人を金で売るなんて・・・！」

マリオ「うるせえな・・・！お前等に非難される筋合いはないわ・・・！ボクを脱落させようとしたくせによ・・・！」

ラフィーナ「私はあんたに入れてないわよ」

リュカ「ボクも」

レッド「俺もだ」

マリオ「じゃあ誰だよ？この中に1人ぐらいいるだろ、ボクに投票した奴」

フェイト「ワリオとなのはが入れたみたいよ、今いる中では」

マリオ「だったら尚更非難する資格なんか無いだろ！？大体、何でお前等はボクに入れたんだよ！？」

ワリオ「そりゃあ、ライバルを蹴落としたかったからに決まってるだろ」

なのは「マリオ君は、意外と逃走中に向いてない人だと思ったから・・・」

マリオ「理不尽過ぎるだろ、お前等・・・」

トウーン「兎にも角にも、さっさと入って来なよ。捕まっただからさ」

トウーリンクに促され、マリオは入獄する。

マリオ「最悪だよ、ホントに．．．！こんな酷い役をやらせるなんてよ．．．！」

リデル「酷いのはどっちですか．．．！？散々私達を困らせておいて、その言い草は無いでしょ．．．！？」

マリオ「うるせえな．．．！こんなの不本意に決まってるだろ．．．！ボクだって望んで裏切り者になっただんじゃないんだぞ．．．！」

リュカ「不本意とか言ってるけどさ、その割にはチャッカリ執務を遂行してたじゃないか．．．！１１人も通報してハンターに捕まえさせてさ．．．そんな事やってる人の何処が不本意なんだよ．．．！？」

マリオ「そりゃあな、お前．．．課せられたミッションをやると同じ様に、与えられた仕事はちゃんとやらなきゃゲームとして成り立たないだろうが．．．！」

シェゾ「それが裏切り者だとしてもか．．．！？」

マリオ「当たり前だろ．．．！？それが逃走中っていうゲームだろ．．．！？」

レッド「お前は何処まで最低な言い逃れをすれば気が済むんだよ．．．！」

キャラ「兎に角．．．何と言おうと事実は変わりません！マリオさん、正座して通報した事を謝って下さい！」

その後、逃走中史上最悪の言葉を吐いたと思われるティアナが牢獄前に姿を現した。

レムレス「あつ、問題児」

ティアナ「問題児って・・・誰の事よ？」

ゆり「あなた以外に誰がいるのよ、指差してるのに・・・」

ティアナ「あたしが何で問題児なのよ？」

リュカ「まあ、詳しい事は中に入ってから・・・」

リュカに言われるがままに、ティアナが入獄する。

なのは「ねえ、ティアナ・・・さっきフェイトちゃんから聞いたんだけど・・・」

ティアナ「はい？」

なのは「『ミッションやる人はバカ』って言ったのって・・・本当なの？」

ティアナ「はあ！？ちょ・・・ちょっと待って下さいよ！だ・・・誰がそんな事言っただんですか！？」

アミティ「きっかけはリデルみたいだよ・・・」

シグ「会って話した時にそう言ってたって呟いてた・・・」

ティアナ「ちよつと・・・法螺吹きもいいところよ！あたしはただ『果敢にミッションやる人は、勝手にやってくれてもいいけど、その代わりあたしはやらないよ』って言っただけよ！それを何で大袈裟に言うのよ！？しかも『ミッションやる人はバカ』って・・・そんな事言ったら、くるみ以上に最低じゃないの！」

フェイト「そうよね・・・ティアナがそんな事言う訳無いもんね・・・良かった・・・」

ティアナ「ええ・・・？まさか、なのはさんもフェイトさんも信じてたんですか・・・？」

フェイト「だって・・・リデルがあまりにも真実味溢れる言い方するんだもん・・・」

ティアナ「もう・・・こういうデマに簡単に流される人がいるから、あたしは人間不信なんだって言ってるんですよ・・・もう止めて下さいよ、そういう事に流されるの・・・」

フェイト「あなたを信じてない訳じゃないけど・・・やっぱり心配になるもの・・・」

なのは「面倒見てる人間としては、ストレス発散の為にそんな生意気な事言ったのかなと思って・・・」

ティアナ「2人とも酷過ぎですよ・・・少しは信用してくれたっていいじゃないですか・・・」

そしてゲームは終盤に差し掛かり、残る逃走者は響1人になった。

レムレス「あと1分だ！」

クルーク「逃げ切れ！このまま逃げ切れ！」

ゆり「でも、最後まで気を抜かないで！」

ティアナ「ヤバイ・・・！鳥肌立ってきた・・・！」

ピット「大丈夫、大丈夫！」

くるみ「響なら絶対逃げれる！」

レムレス「あと50秒！」

はやて「もうゴールは目前や！」

アミティ「もう隠れてた方がいいんじゃないかな？」

ラフィーナ「隠れてたら、それこそハンターの思っ壺でしょ？」

奏「走ってれば、絶対逃げ切れる筈よ！」

ひかり「響さんならやってくれます！」

レムレス「40秒！」

なのは「捕まった30人の思いを乗せて逃げ切って！」

ドラコ「走れ、走れ！」

レッド「もう捕まるな！」

ワリオ「逃げる、逃げる！」

キャラ「緊張する・・・！」

ルルー「もうホントに目前よ！」

レムレス「30秒切った！」

この時点から牢獄の者達はカウントダウンを始めた。

そして、15秒が過ぎて誰もが逃走成功を確信したその時・・・

レムレス「ちよつと待って！メール来た！」

レムレス以外「ええっ！？」

ウィッチ「こんな時にメールって・・・！」

エリオ「だって・・・あと10秒切ってるんだよ！？」

フェイト「こんな時メールなんて来ないでしょ、普通・・・！」

レムレス「確保だつて！」

レムレス以外「ええっ！？」

思いは届かなかった・・・

せつな「確保って……！じゃあ、これって……！全員確保！」

シグ「全滅だ……」

断末魔が響き渡る牢獄……

そして、逃走者全員が牢獄に収監された。その後、kさんの差し入れである薄皮饅頭とくるみゆべしを食べる事となった。当然、元裏切り者のマリオは食べる事など出来る筈も無く……

そんな中、新たな差し入れが……疾風の音さんの所の幽香からのアンデスメロンだ。

ひかり「じゃあ、これを”30人”で分けて食べましょう！」

和氣藹藹^{わきあいあい}としてアンデスメロンを分け合って食べる逃走者達。

マリオ「お……おい、ちょっと待て……30人ってまさか……」

ひかり「当たり前でしょ！？マリオさんは抜きです！」

マリオ「頼むって……ボク昨晚から何も食べてなくて、栄養失調で死にそうなんだよ……」

くるみ「あんたが何と言おうと、私達はあんたを1週間は絶対に許さないから！」

せつな「今更謝っても、もう遅いわよ！」

ゆり「あなたには、サバイバルという状況の絶望を味わうのがお似合いよ！」

マリオ「頼むから鎖を解いてくれよ・・・そして、差し入れを食わしてくれよ・・・」

彼の悲痛な叫びは、30人の耳に届く事は無かった・・・

未公開シーン？ 牢獄中（後書き）

次回は暴露中

この逃走中の執筆の裏側をこっそり教えちゃいます！

未公開シーン？ 暴露中（前書き）

この小説の裏側を赤裸々に語る作者・・・

未公開シーン？ 暴露中

この度は「ごちゃまぜ逃走中」闇に狙われたテーマパーク」を読んでいたいただき誠に有難う御座います。

今回が第3作目となる逃走中ですが、前作及び前々作の様にいろいろと拙い表現の箇所が多数あり理解に苦しむ場面があったかと思われませんが、これまでと変わらず温かい目で見守っていただけたら嬉しいです。

さて閑話休題、本題に戻しまして、今作を執筆する上での裏話をさせていただきます。

先ず、「にじファン」サイト内では当たり前の様に行われており、私のところでは今回が初の試みとなった裏切り者ですが、誰にしようか当初はすごく悩みました。

ワリオだと当たり前すぎるし、くるみだと前回の事があってすぐ展開を読まれてしまうと思い、もっと意外性のある者にやらせようと考えました。

その時に目を付けたのが、任天堂のヒーロー・マリオだったんです。誰もが認めるヒーローが、もし仲間から見捨てられてその反動でアンチ化したらどうなるのか・・・というコンセプトの元で執筆をしてきました。

マリオが好きな方々、本当に申し訳ありませんでした・・・m(_

続いて、今回のゲームの結果についてですが、今作は全員確保という前代未聞の終わり方となりました。

少し前に、ゆうやんさんの2作目の逃走中が全滅（厳密に言うと、自首者1人が出ている）という結果になり、それに便乗したかの様な形ですが、真実を言うなら、この小説を書くずっと前、2作目が半分書き終わった段階で、既に全滅にする事は決めてました。そして全滅にするのなら、やはり自首して賞金を持って行く者が出てはならないと思い、逃走者全員が確保されるという結末になりました。

本家においては、遊園地・・・特に富士急ハイランドを舞台にしたゲームでは、賞金獲得率がものすごく低いんです。

過去3回の内2回は賞金獲得者なしという結果に終わってます。実の事を言うと、今回の終わり方はこれに則^{のっと}った形なんです。

逃走中において、遊園地は本当の意味で呪われた聖地なんですね。

最後に、今回皆さんの多くが驚いたと思われるタイマーなどの挿絵の件です。

本家の放送を見ていて、常に表示されているタイマーや確保時の名前などの文字・・・あれを自分で作ってみたいなと思い立ちました。

しかし、私はCG作成ソフトを持っていないのでどうしたらいいのかと本気で悩みました。

その時に救いの手を差し伸べてくれたのが、PowerPoint
だったんです。

これに付属している機能を使って、あのタイマーの図形を作れない
かと思つて、試行錯誤を繰り返し、遂に完成したのが、今回出てき
た挿絵の物だったんです。

PowerPointには、本当に感謝感謝です。

しかし、3月の放送でタイマーがかなり複雑な物に変わり、ハツキ
リ言つてPowerPointの機能だけではあれにそっくり作る
事は不可能になつてしまいました。

とりあえず似た形の物は作りましたが、皆さんが納得してくれるか
どうか・・・

次回からは、3月の放送の時の物に則^{のっと}つて挿絵を入れていきたいと
思っていますので、宜しく願ひします。

以上暴露中でした。有難う御座いました！

未公開シーン？ 暴露中（後書き）

これで3作目も終わりです！

長かった様な短かった様な・・・兎に角、ここまで読んで下さいまして本当に有難う御座いました！

次回作は、全然構成が組めていないので、何ヶ月後になるか分かりません・・・すみません・・・

公開出来ると思ったら、活動報告で報告しますね

それでは、次回をお楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7062p/>

ごちゃまぜ逃走中～闇に狙われたテーマパーク～

2011年4月8日15時37分発行